

東北アジア研究センター叢書

CNEAS

Monograph Series

No.54

上山市立図書館蔵

# 上山藩明新館文庫目録と研究

磯部 彰 編著





上山市立図書館蔵

# 上山藩明新館文庫目録と研究

磯部 彰 編著

— 東アジア出版文化資料集 Ⅱ —

---

東北アジア研究センター叢書 第54号

---

A Descriptive Catalogue of Kaminoyama-han Meishinkan Bunko  
in Kaminoyama City Library  
(CNEAS Monograph Series No.54)  
Edited by Akira ISOBE

---

Copyright © 2014 by Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University  
Kawauchi 41, Aoba-ku, Sendai, 980-8576 Japan  
All rights reserved  
<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/>

---



上山市立図書館蔵 上山藩明新館文庫目録と研究

磯部 彰 編著

目次

第一章	山形県上山市立図書館蔵上山藩明新館文庫和漢書分類目録 編	
(1)	図版	1
(2)	序 出羽国明新館文庫との出会い	43
(3)	凡例	45
(4)	目録	47
(5)	藩校明新館旧蔵稀覯本書誌	115
(6)	(明新館文庫本) 五十音索引	141
第二章	羽州上山藩明新館文庫の研究 編	
(1)	上山藩史略	153
(2)	上山藩校の歴史とその特色	157
(3)	明新館文庫の書籍構成と蒐書の特徴	162
(4)	明新館文庫の明清刊本と流転	168
(附)	上山松平家の略系譜	176



# 第一章

山形県上山市立図書館蔵上山藩明新館文庫和漢書分類目録

編





①上山城 (春景、筆者撮影)



②『上山城下図』（土岐氏領頃、上山市立図書館蔵）



③松平信行筆「天南樓」 藩校扁額 (所蔵：上山市立上山小学校 写真提供：上山市立図書館)





④ 「登龍門」 藩校扁額 (所蔵：上山市立上山小学校 写真提供：上山市立図書館)





⑤ 『出羽全図』(部分 東北大学附属図書館蔵)



⑥ 『出羽国絵図』(部分 東北大学附属図書館蔵)



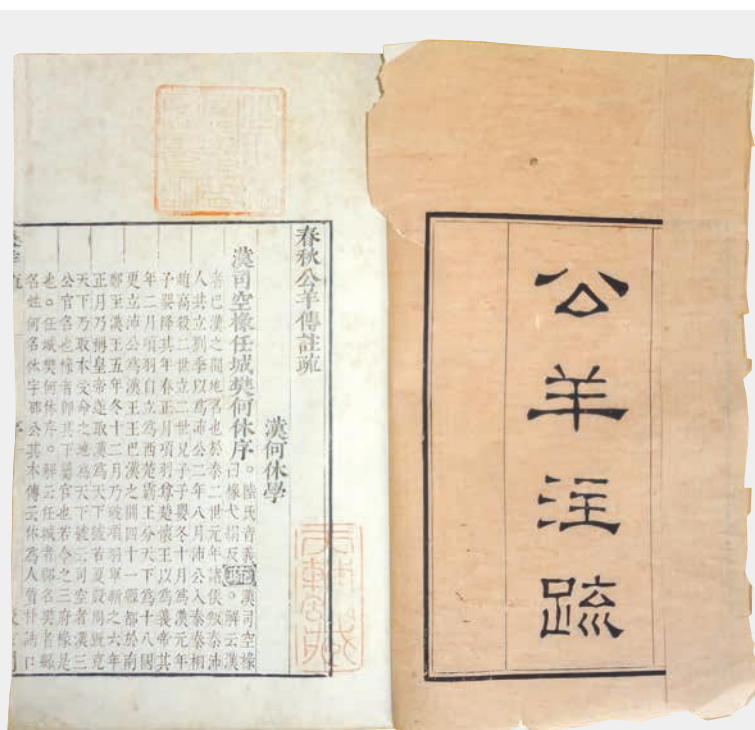




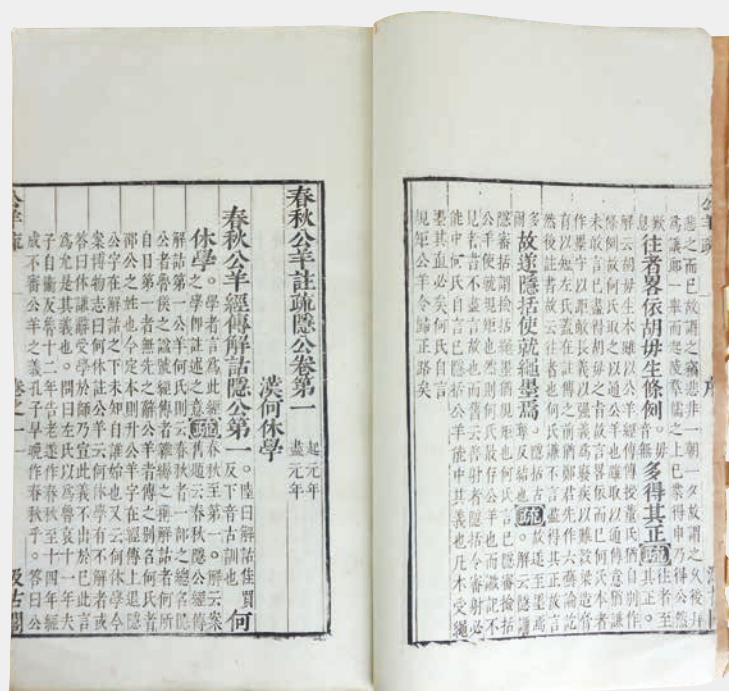
⑧『十三經注疏』封面（上山市立図書館蔵）



⑧『十三經注疏』序（上山市立図書館蔵）



⑨『春秋公羊註疏』封面（上山市立図書館蔵）

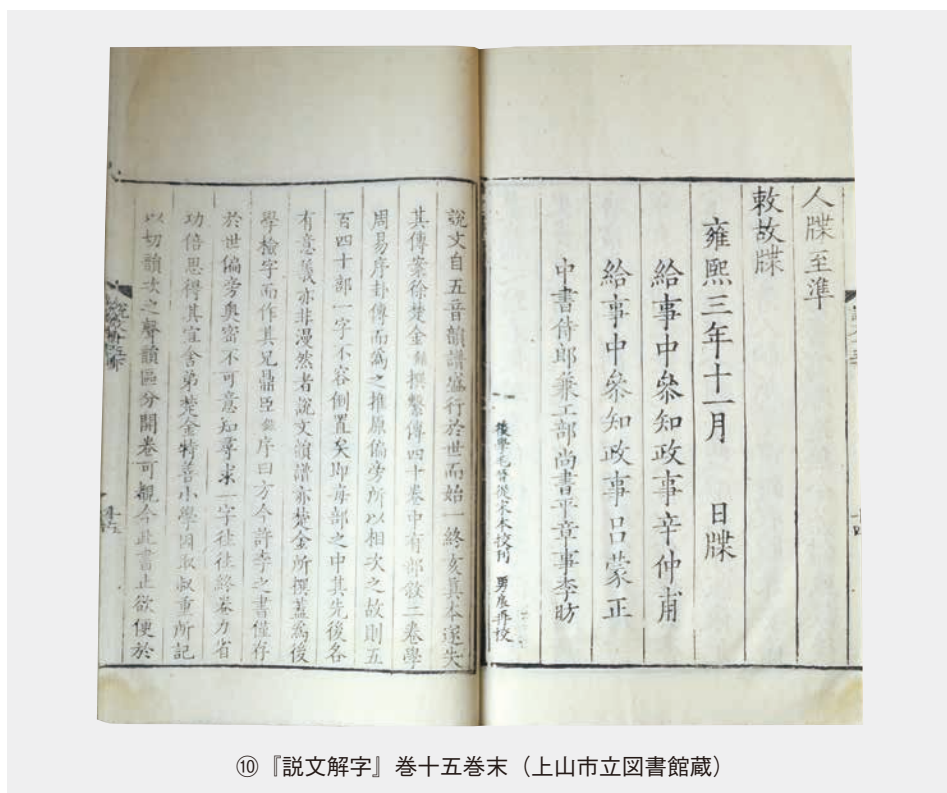


⑨『春秋公羊註疏』卷一卷首（上山市立図書館蔵）

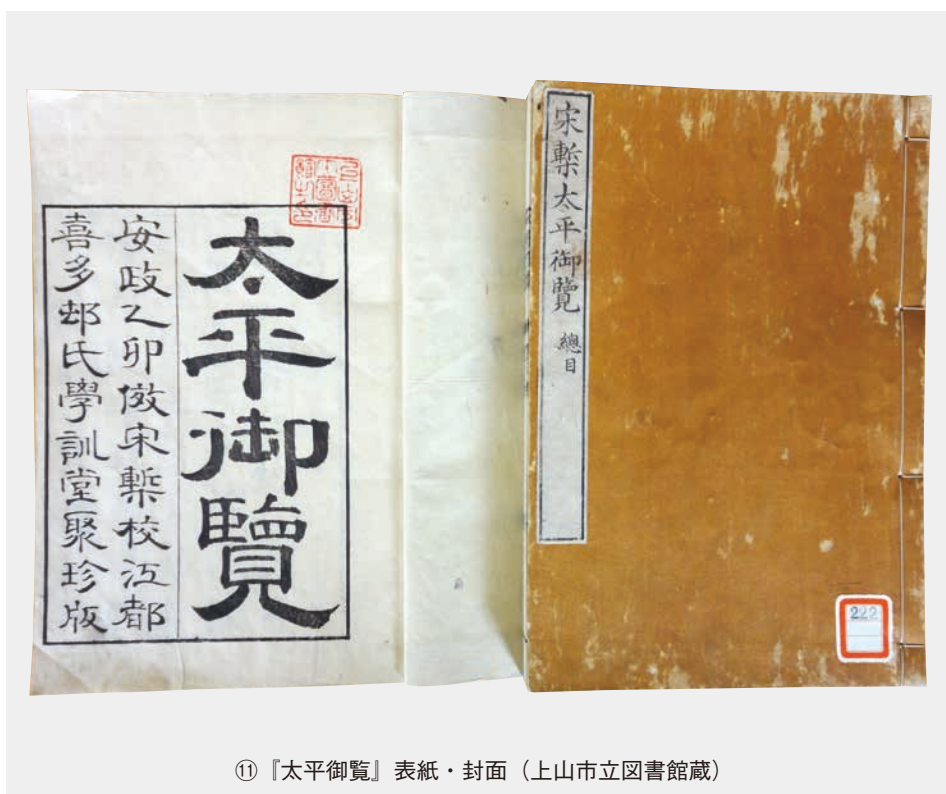




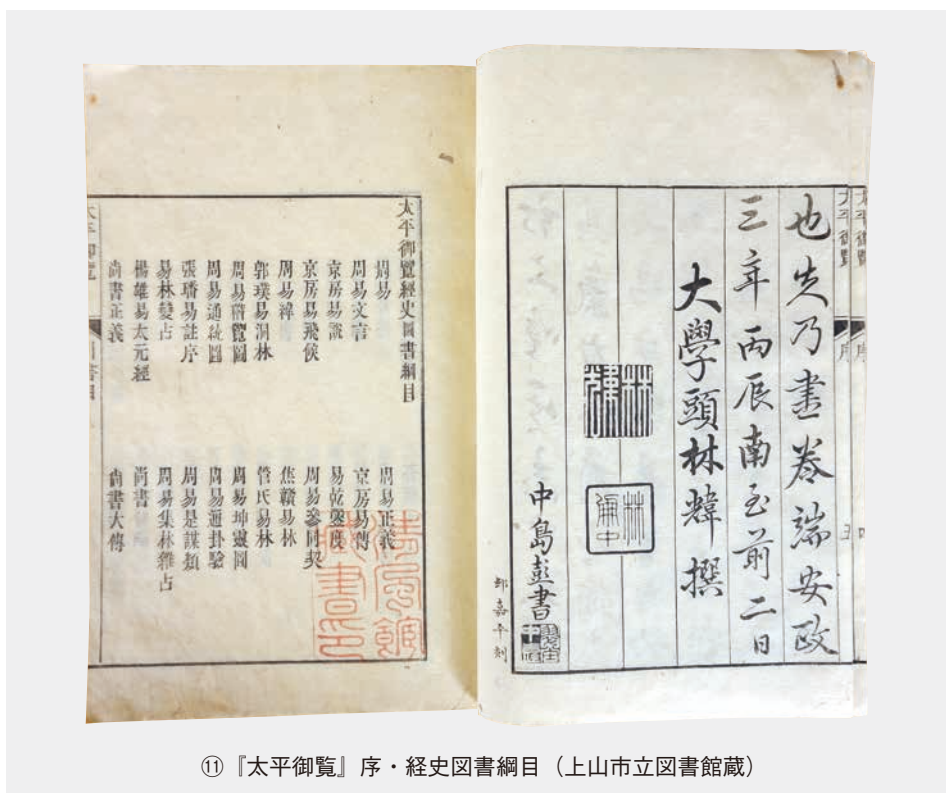
⑩『說文解字』封面・標目（上山市立図書館蔵）



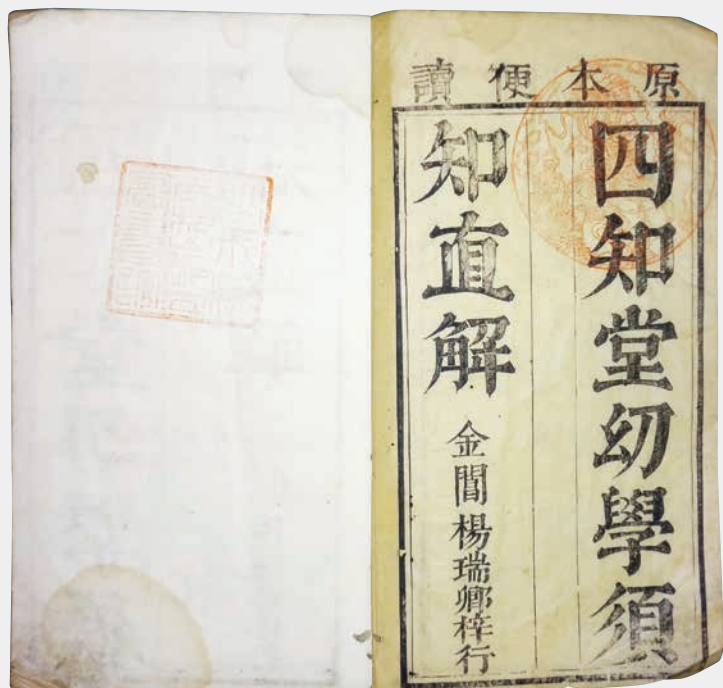
⑩『說文解字』卷十五卷末（上山市立図書館蔵）



⑪『太平御覽』表紙・封面（上山市立図書館蔵）



⑪『太平御覽』序・經史圖書綱目（上山市立図書館蔵）



⑫『幼學須知便讀故事』封面（上山市立図書館蔵）

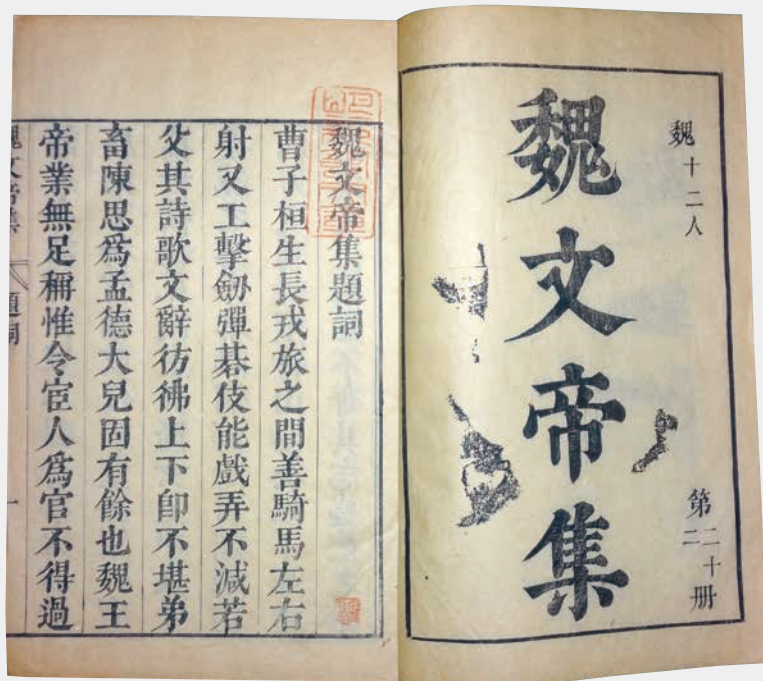


⑫『幼學須知便讀故事』上册卷首（上山市立図書館蔵）



漢魏六朝百名家集敘  
文集之名始于阮孝緒七  
錄後代因之遂列史志馬  
貴與經籍考詳載集名人  
物爵里著作源流備具左

⑬『漢魏六朝一百三名家集』叙（上山市立図書館蔵）



⑬『漢魏六朝一百三名家集』「魏文帝集」封面・題詞（上山市立図書館蔵）



⑭『宋文鑑』序（上山市立図書館蔵）



⑭『宋文鑑』総目・刊記（上山市立図書館蔵）



⑭『宋文鑑』卷一卷末・刊記（上山市立図書館蔵）

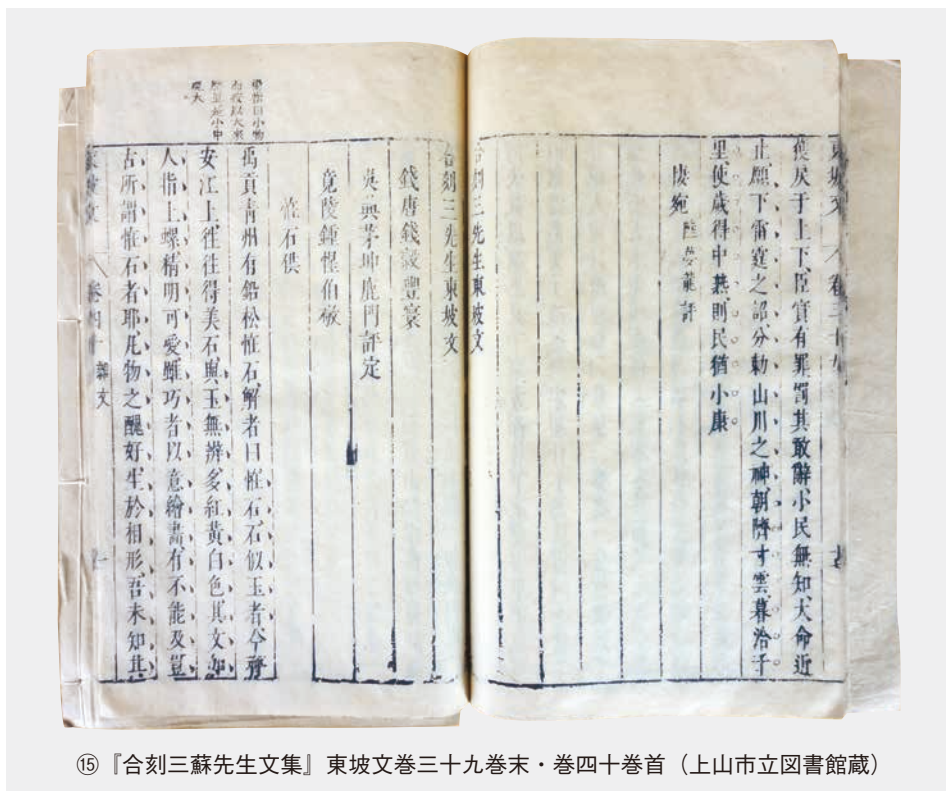


⑭『宋文鑑』卷百五十卷末・後跋（上山市立図書館蔵）

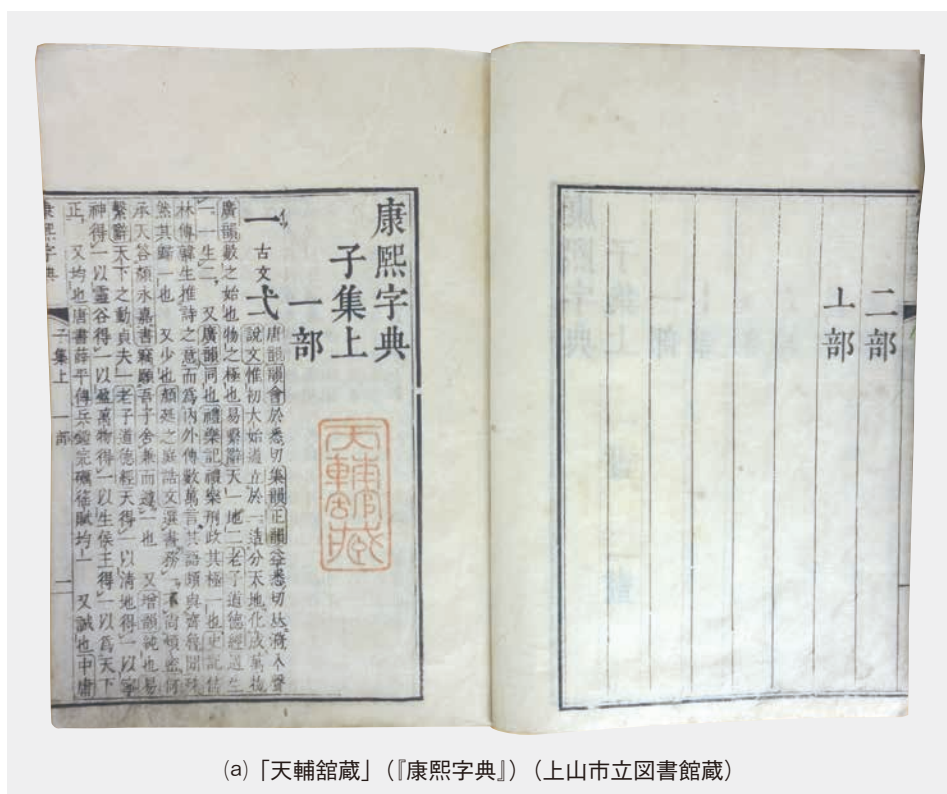




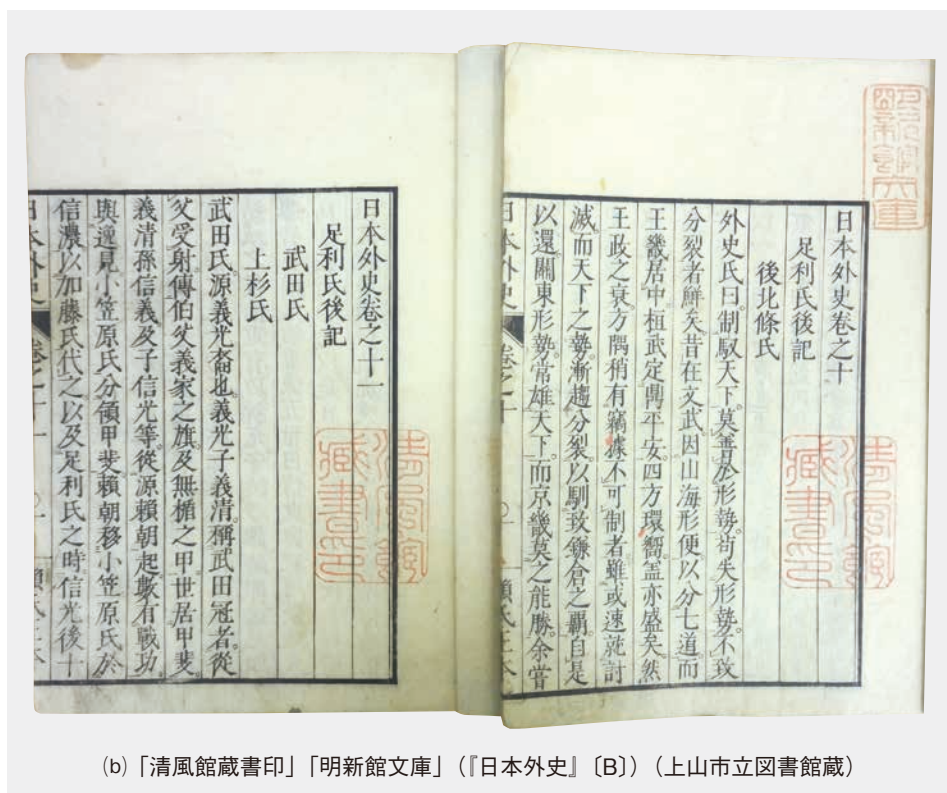
⑮『合刻三蘇先生文集』叙（上山市立図書館蔵）



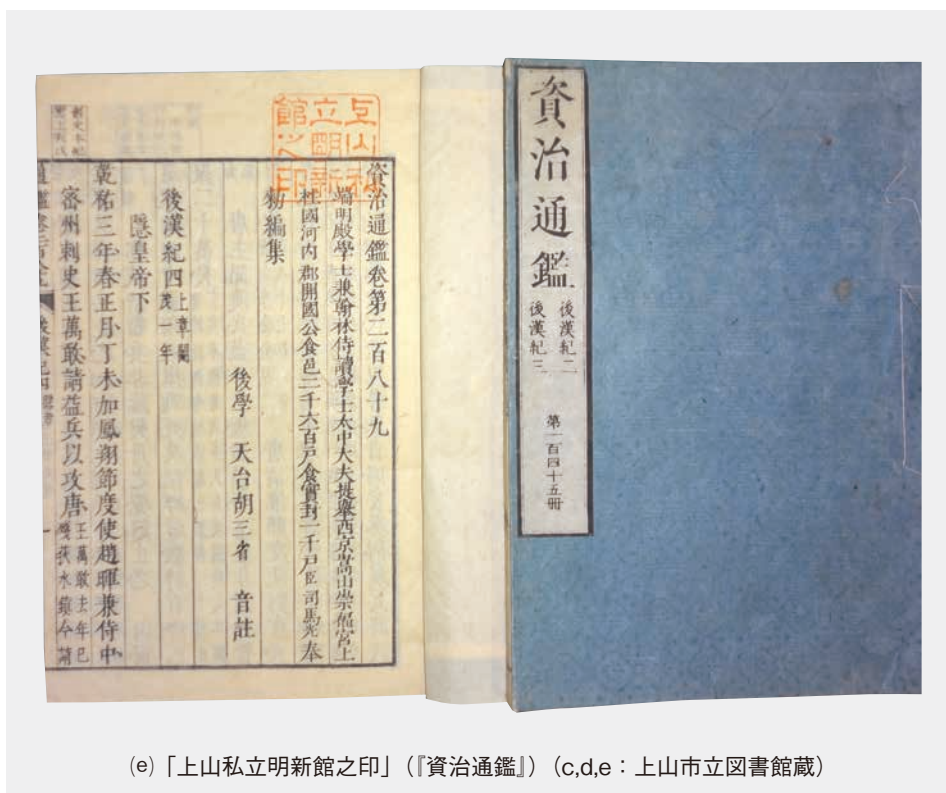
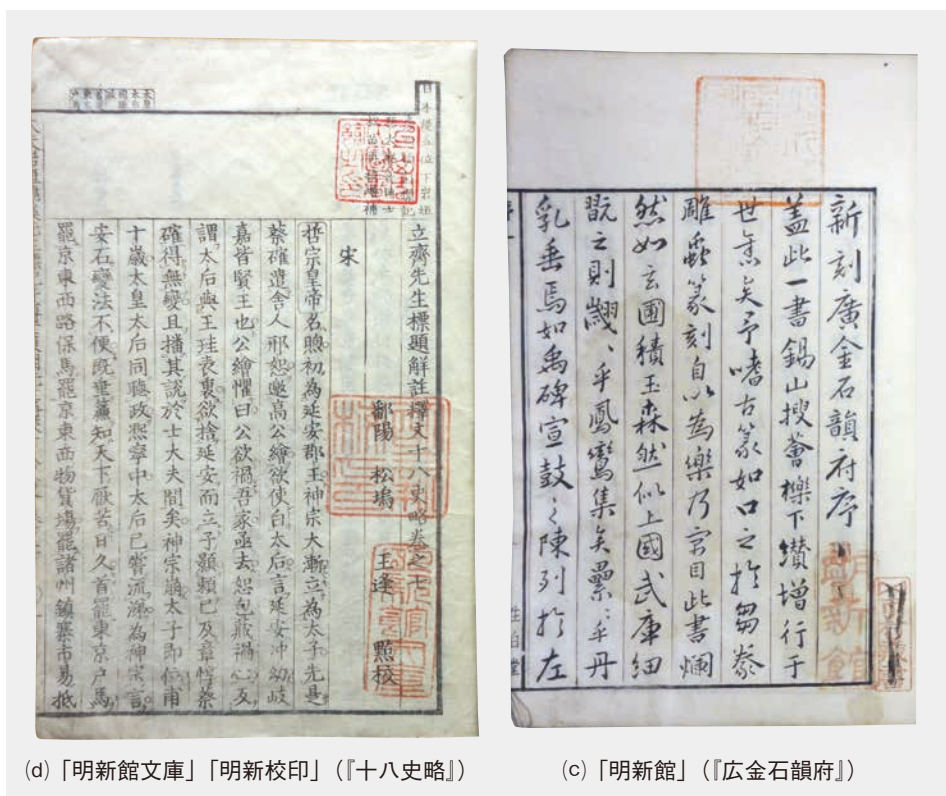
⑮『合刻三蘇先生文集』東坡文卷三十九卷末・卷四十卷首（上山市立図書館蔵）



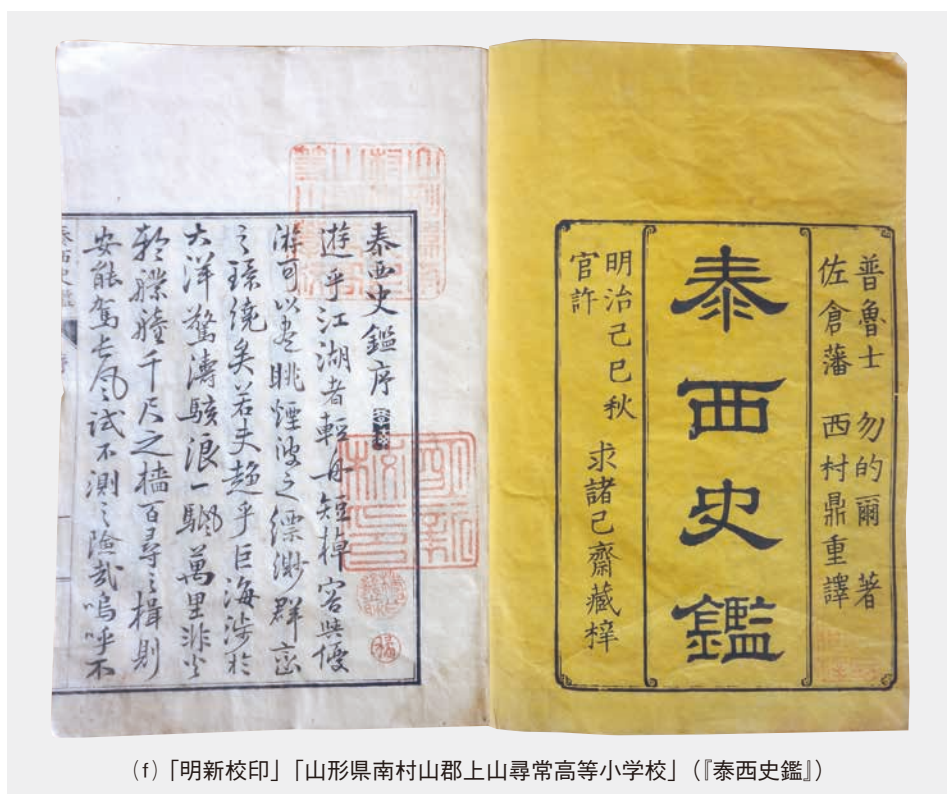
(a)「天輔館藏」(『康熙字典』)(上山市立図書館蔵)



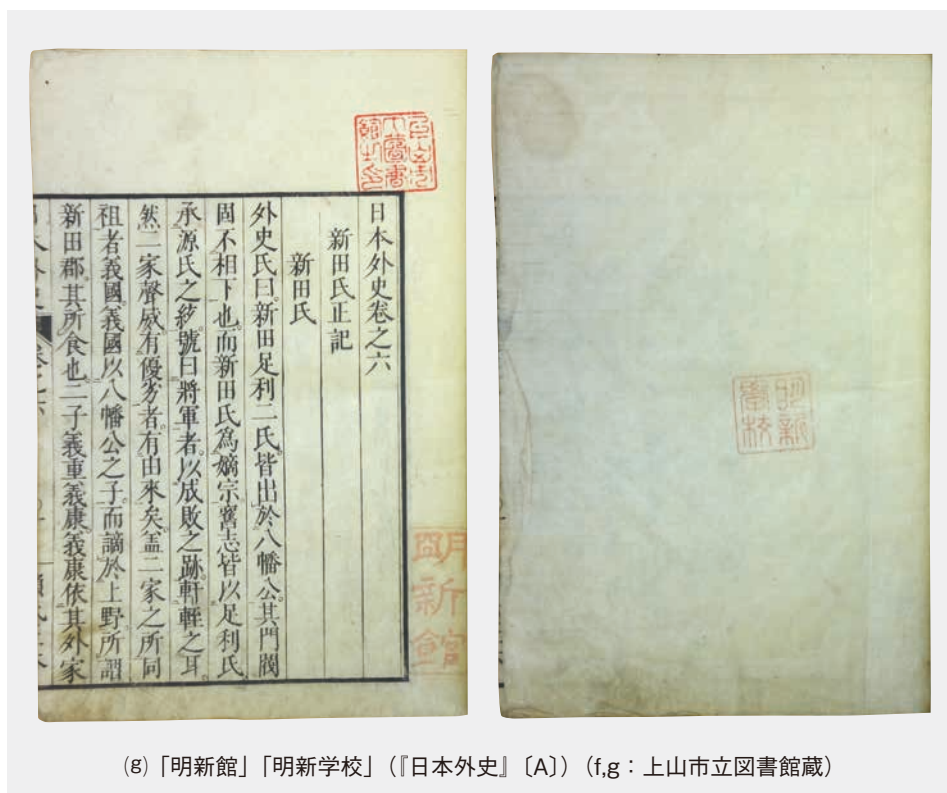
(b)「清風館藏書印」「明新館文庫」(『日本外史』(B))(上山市立図書館蔵)



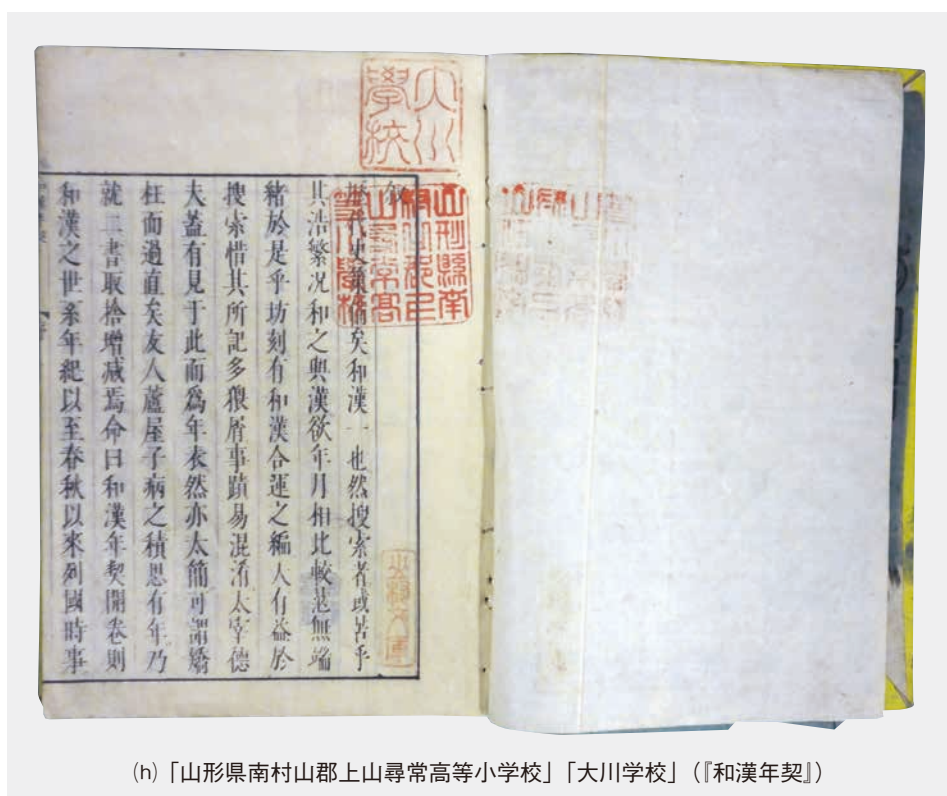




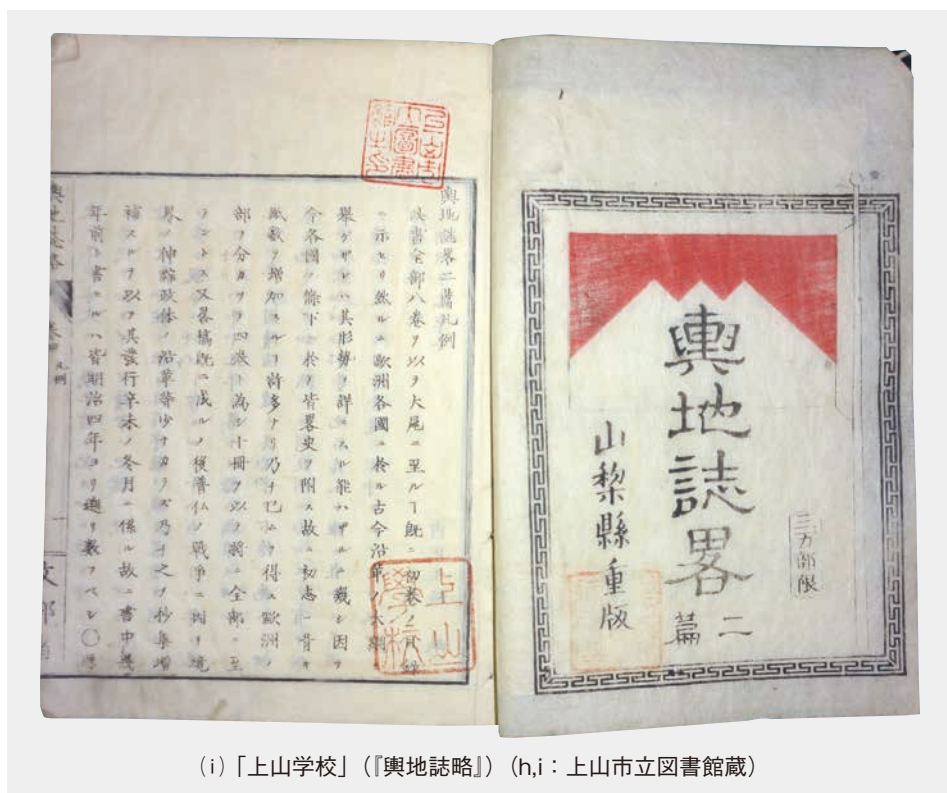
(f) 「明新校印」「山形県南村山郡上山尋常高等小学校」(『泰西史鑑』)



(g) 「明新館」「明新学校」(『日本外史』[A]) (f,g: 上山市立図書館蔵)

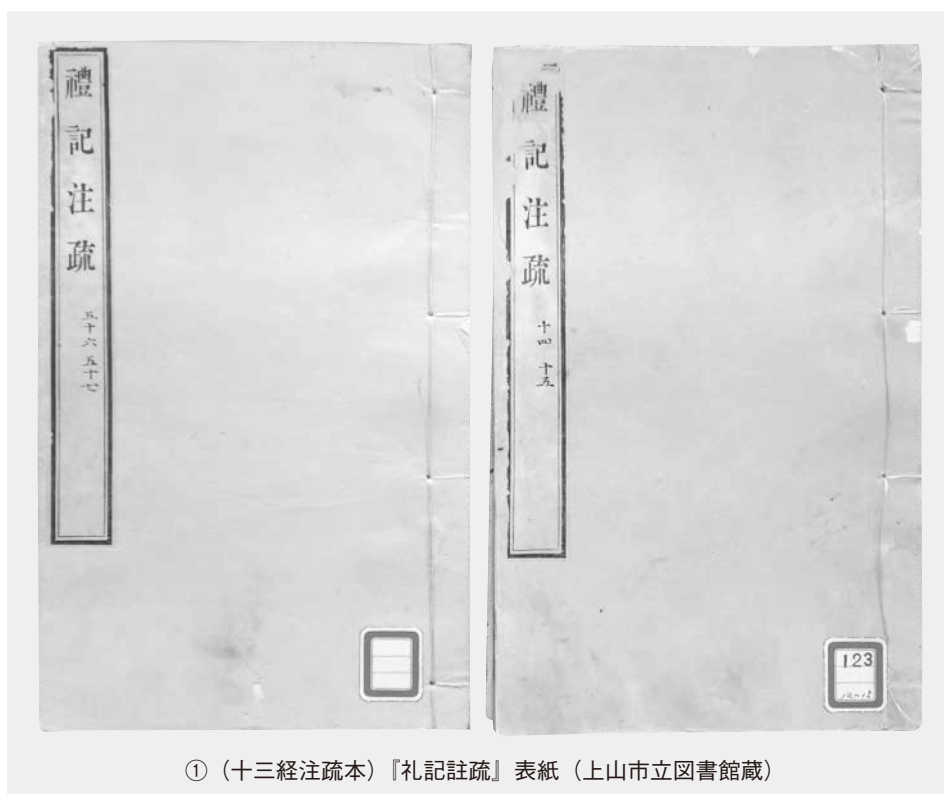


(h) 「山形県南村山郡上山尋常高等小学校」 「大川学校」 (『和漢年契』)

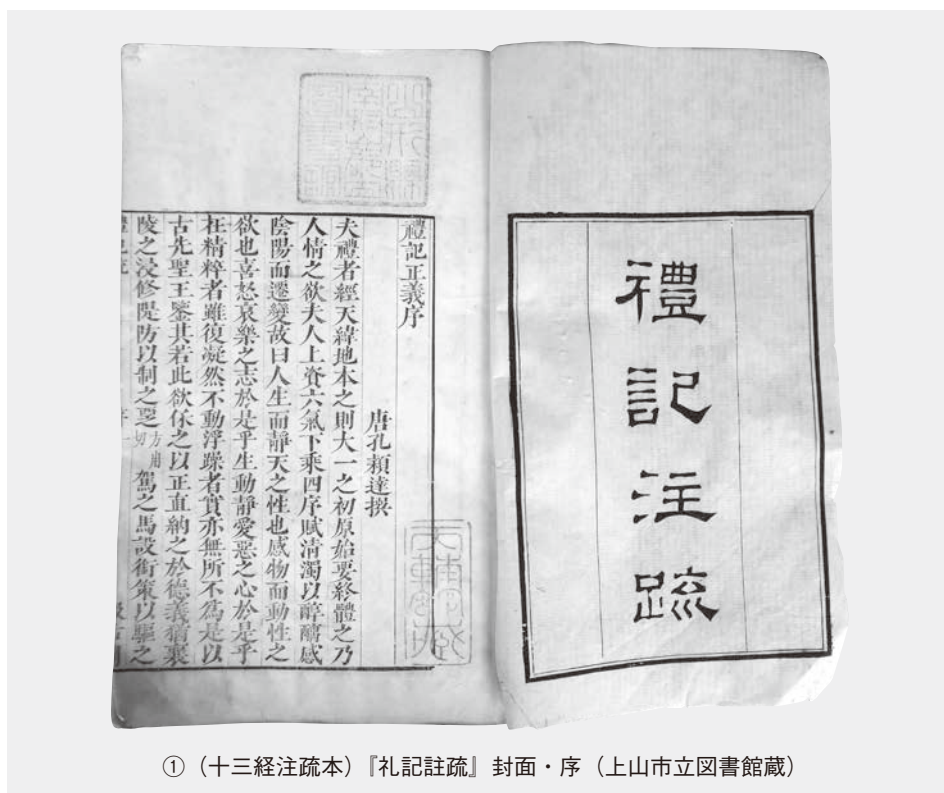


(i) 「上山学校」 (『輿地誌略』) (h,i: 上市市立図書館蔵)



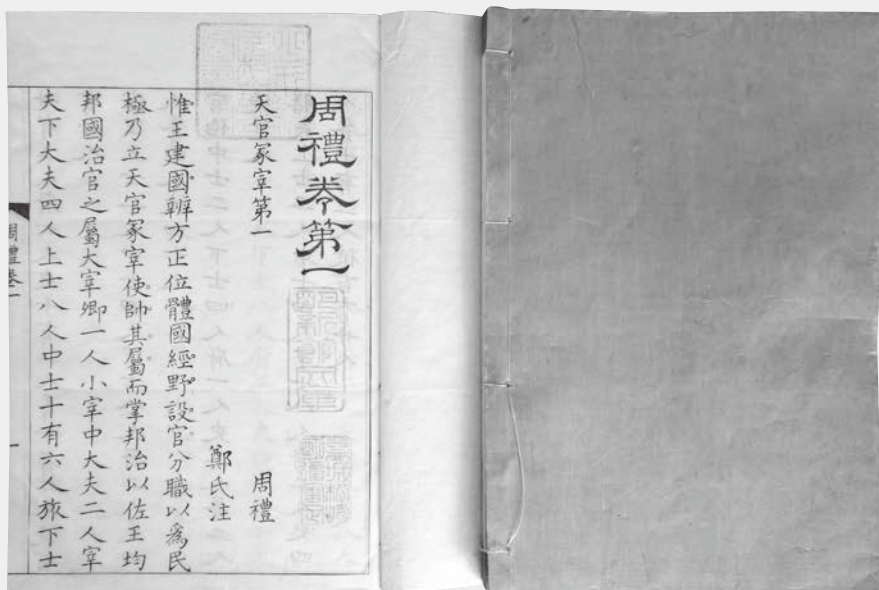


① (十三經注疏本)『礼記註疏』表紙 (上山市立図書館蔵)

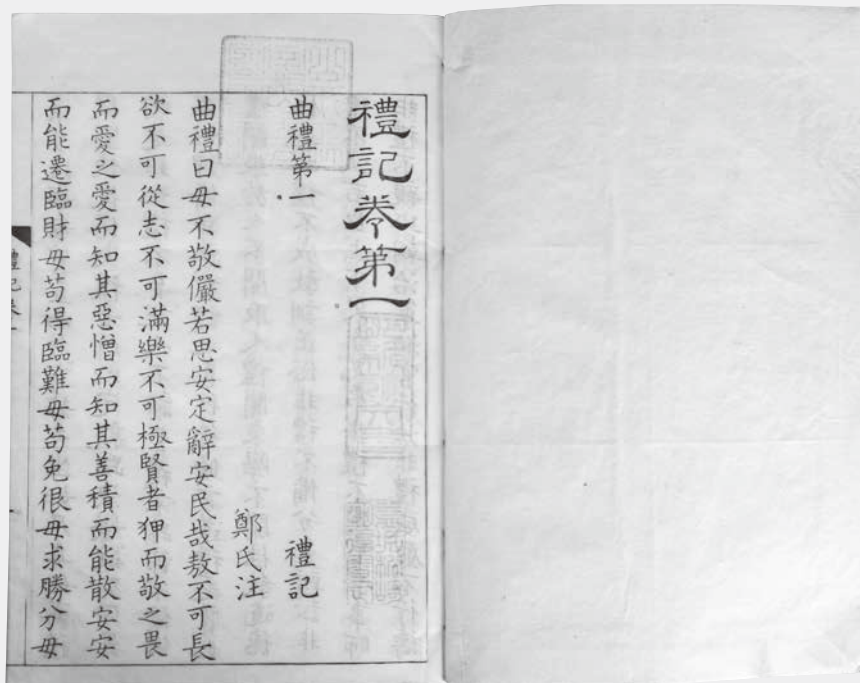


① (十三經注疏本)『礼記註疏』封面・序 (上山市立図書館蔵)

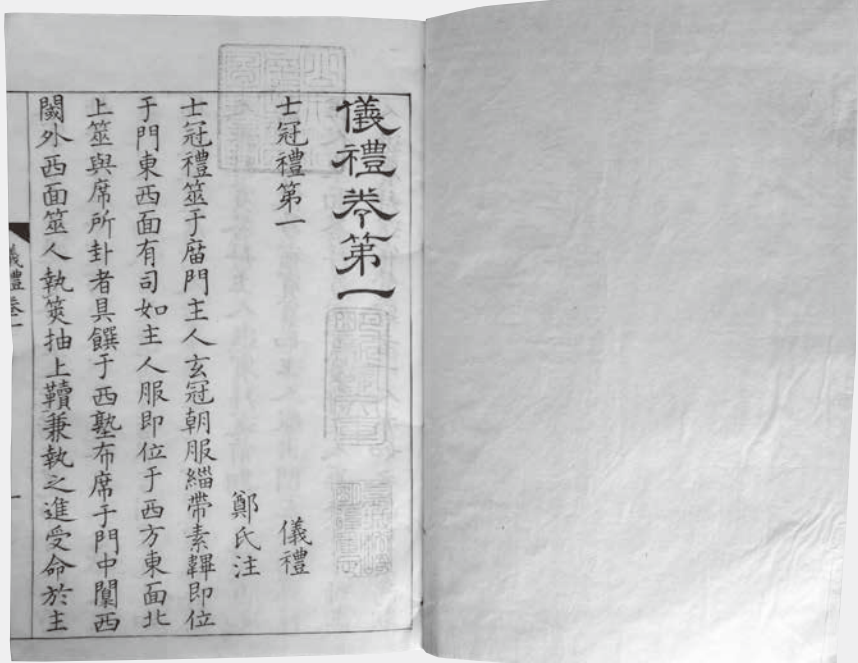




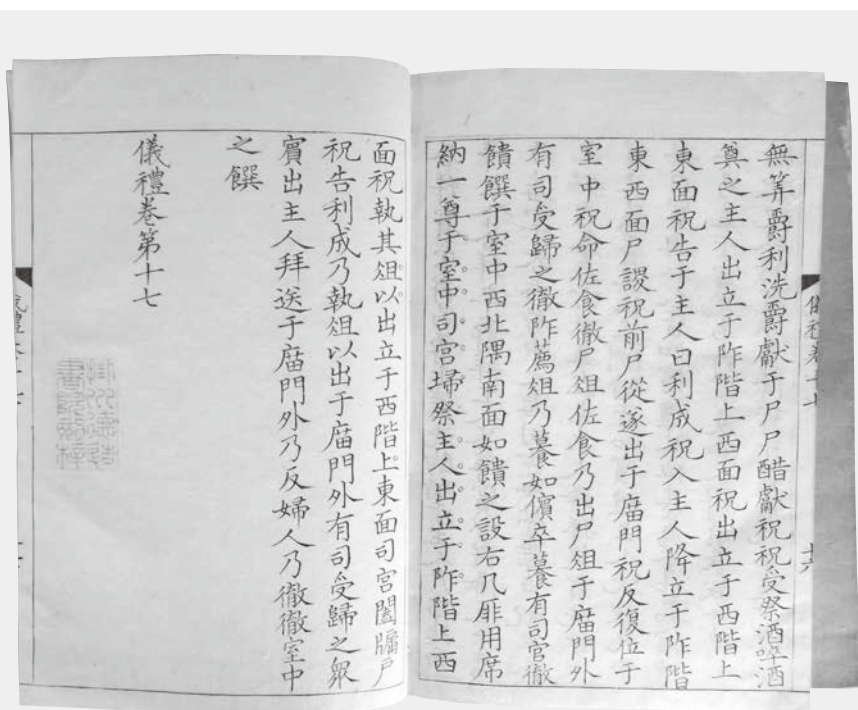
③掛川藩版『周礼』卷一卷首（上山市立図書館蔵）



④掛川藩版『礼記』卷一卷首（上山市立図書館蔵）

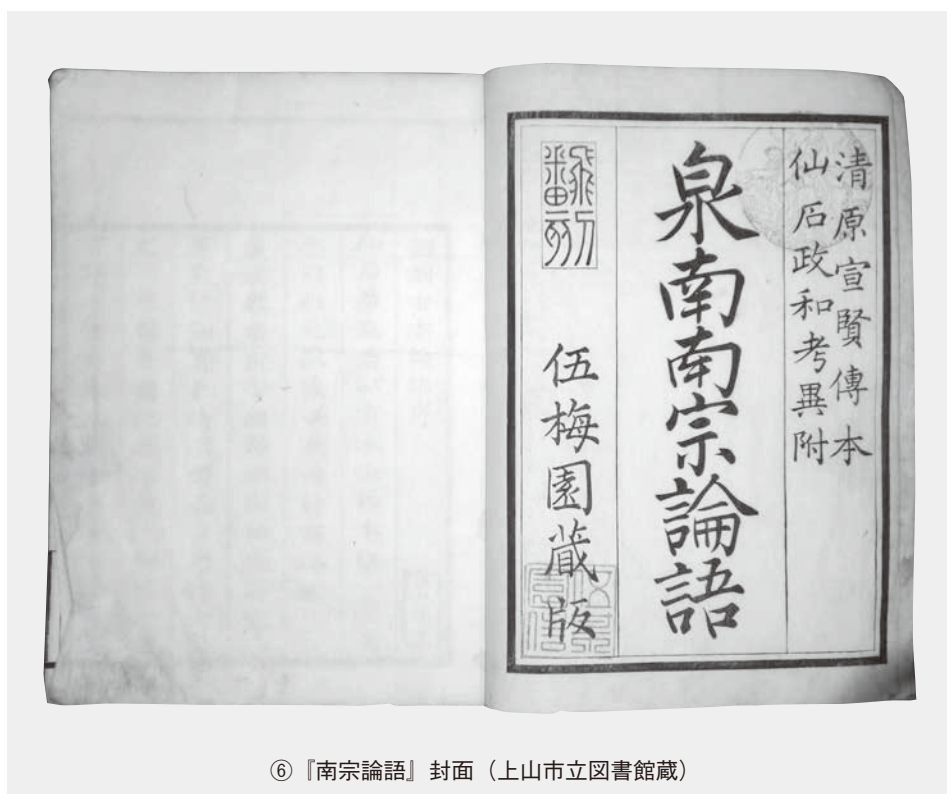


⑤掛川藩版『儀礼』卷一卷首（上山市立図書館蔵）

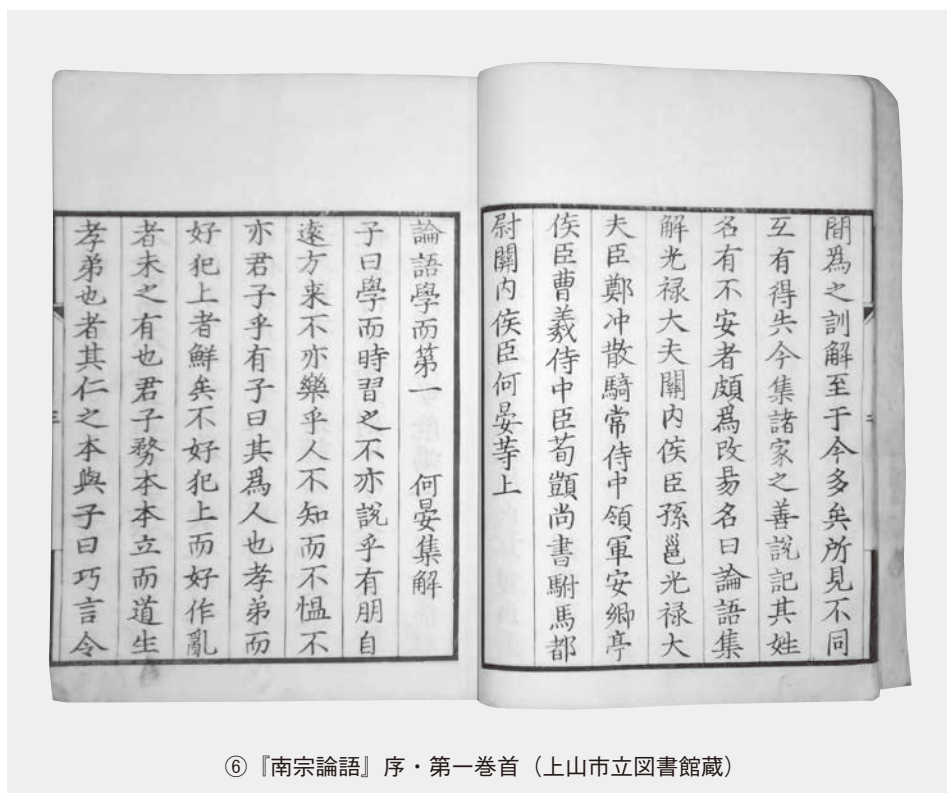


⑤掛川藩版『儀礼』卷十七卷末（上山市立図書館蔵）

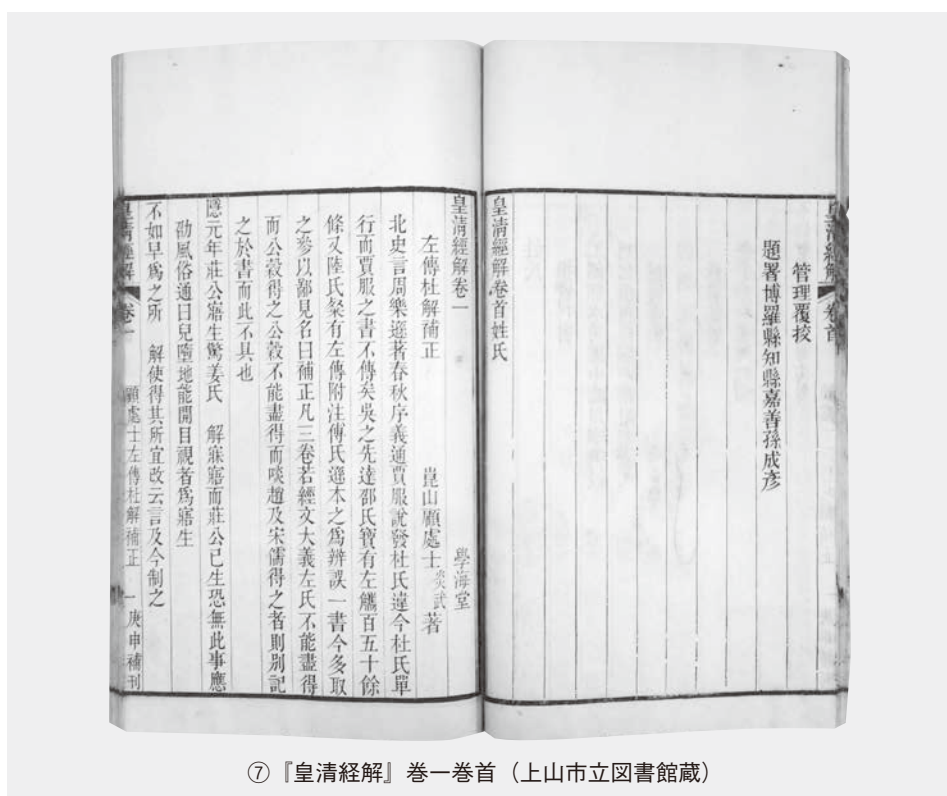




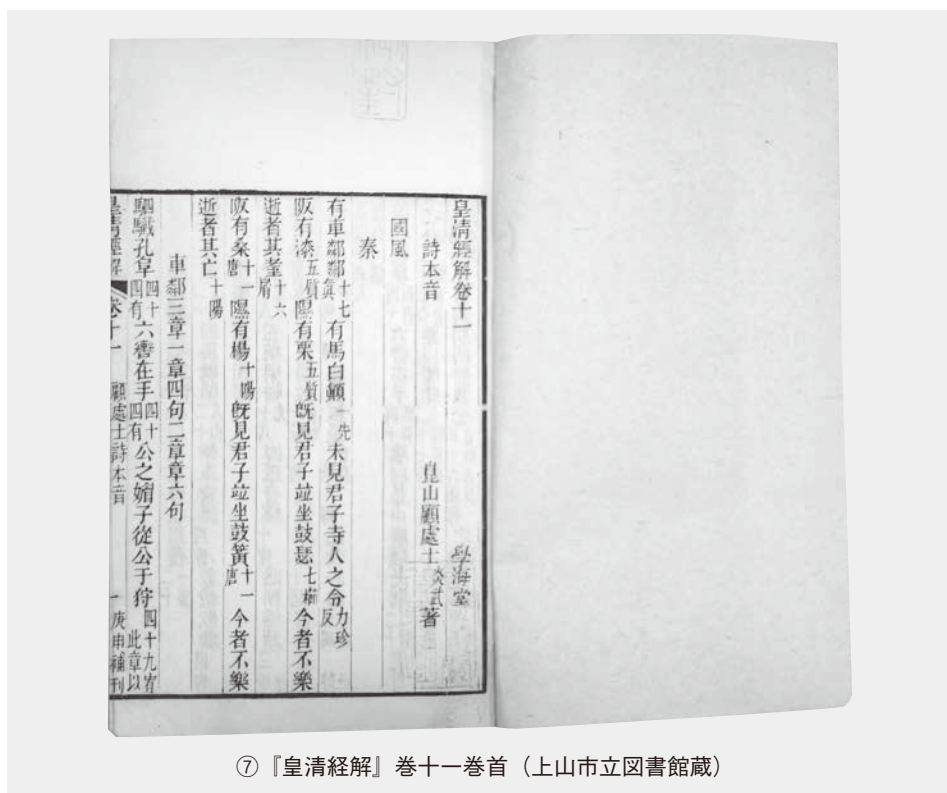
⑥『南宗論語』封面（上山市立図書館蔵）



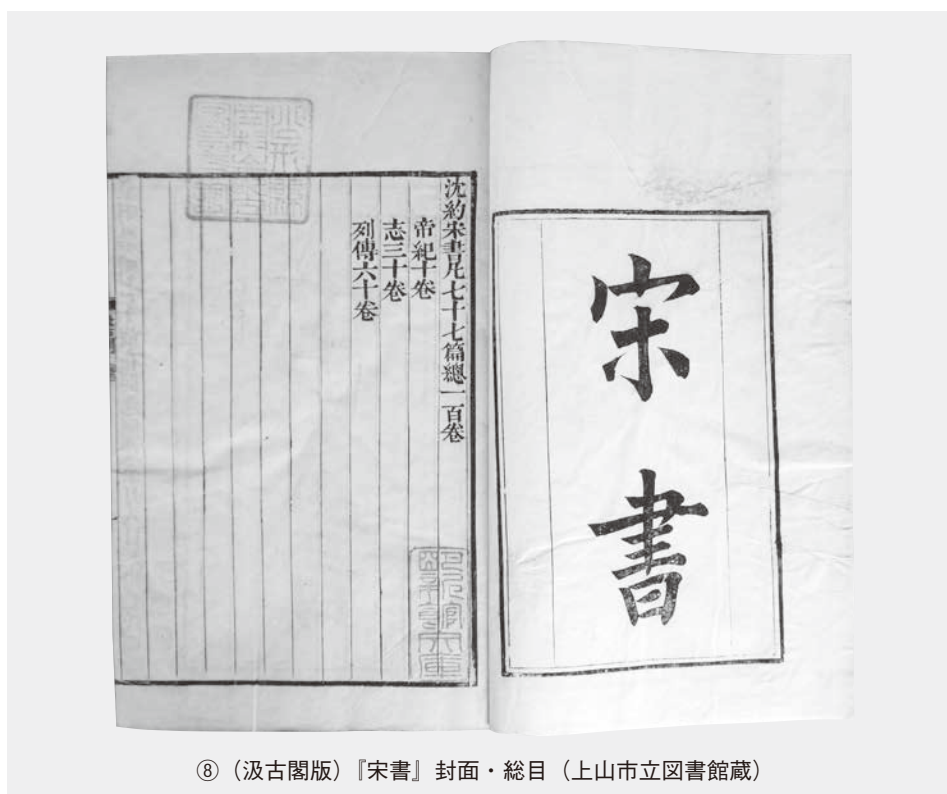
⑥『南宗論語』序・第一卷首（上山市立図書館蔵）



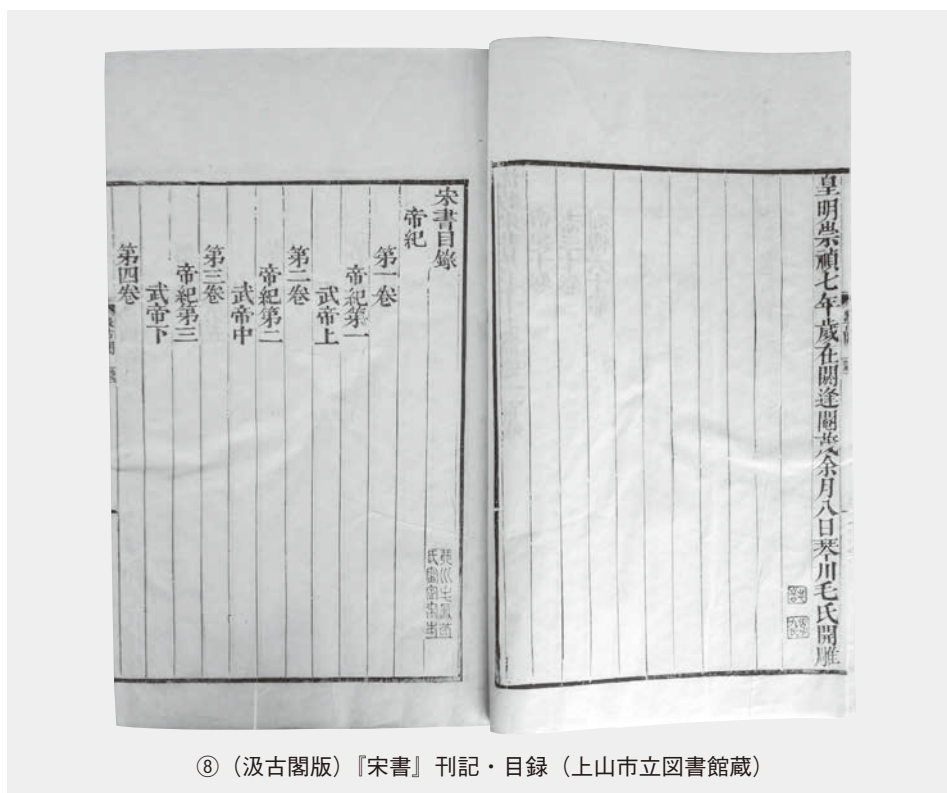
⑦『皇清經解』卷一卷首（上山市立図書館蔵）



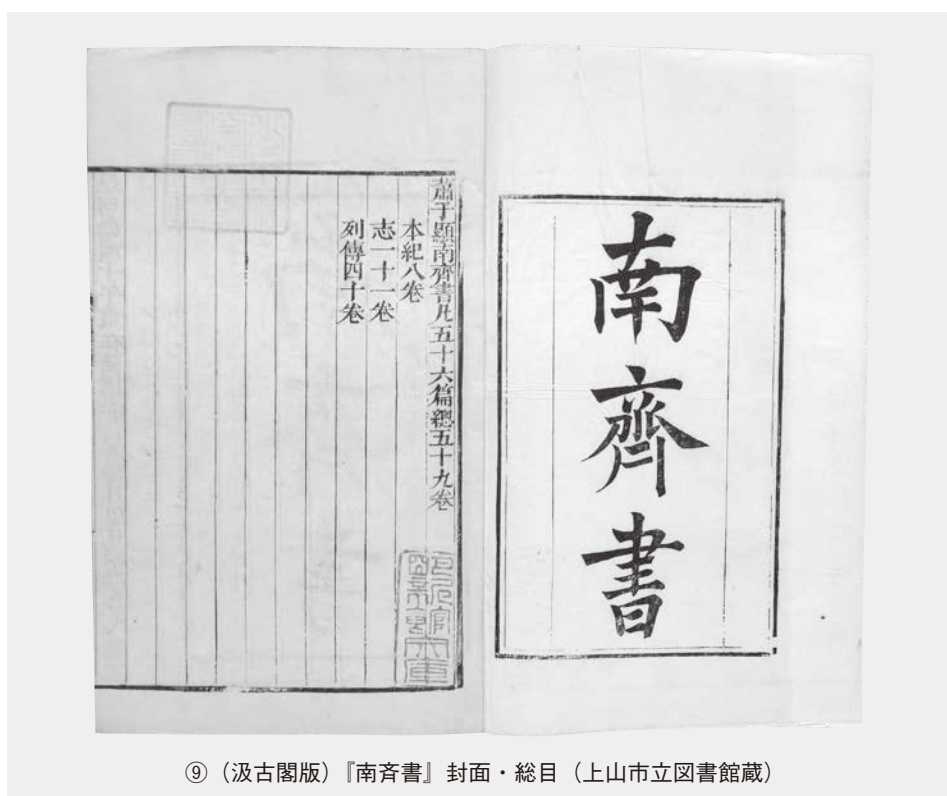
⑦『皇清經解』卷十一卷首（上山市立図書館蔵）



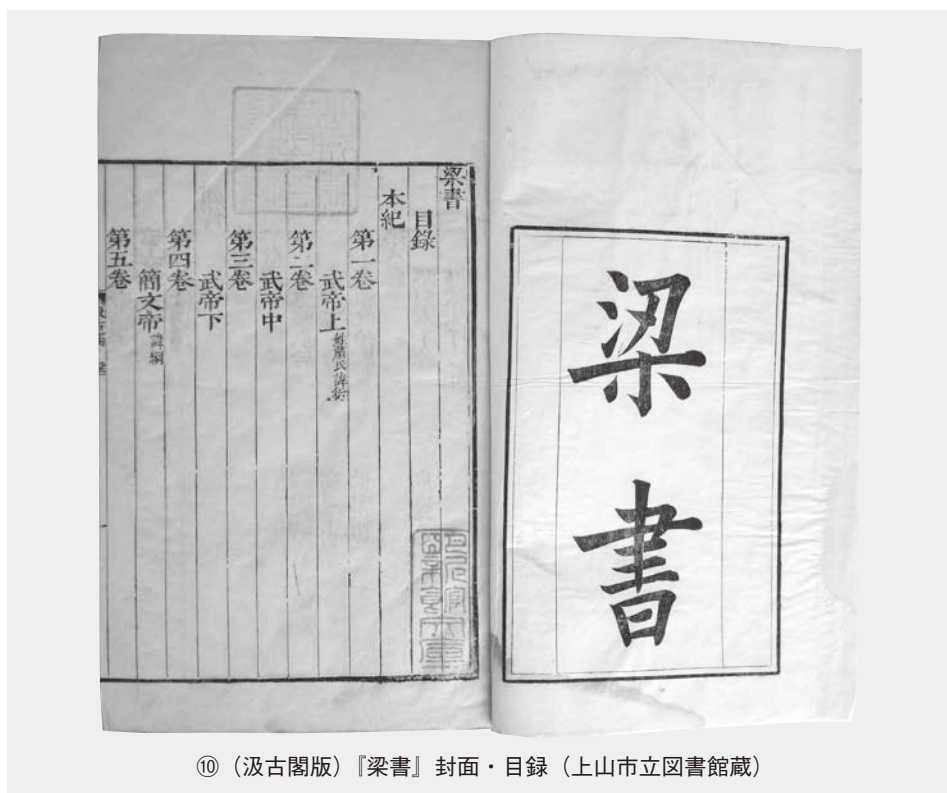
⑧ (汲古閣版)『宋書』封面・総目 (上山市立図書館蔵)



⑧ (汲古閣版)『宋書』刊記・目錄 (上山市立図書館蔵)

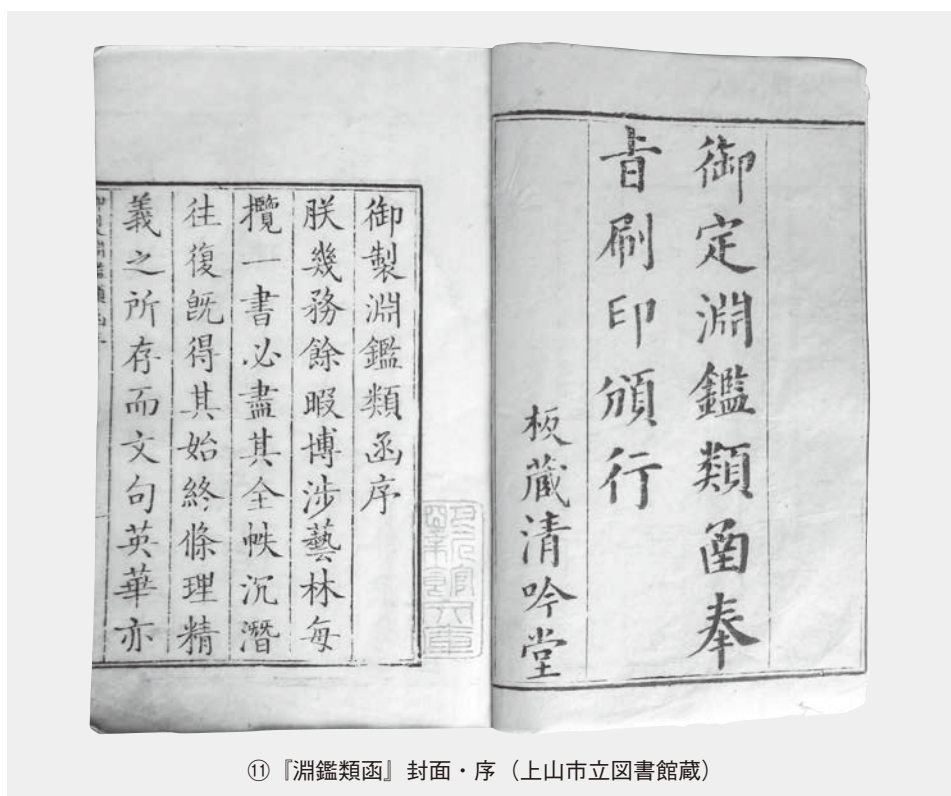


⑨ (汲古閣版)『南齊書』封面・総目 (上山市立図書館蔵)



⑩ (汲古閣版)『梁書』封面・目録 (上山市立図書館蔵)

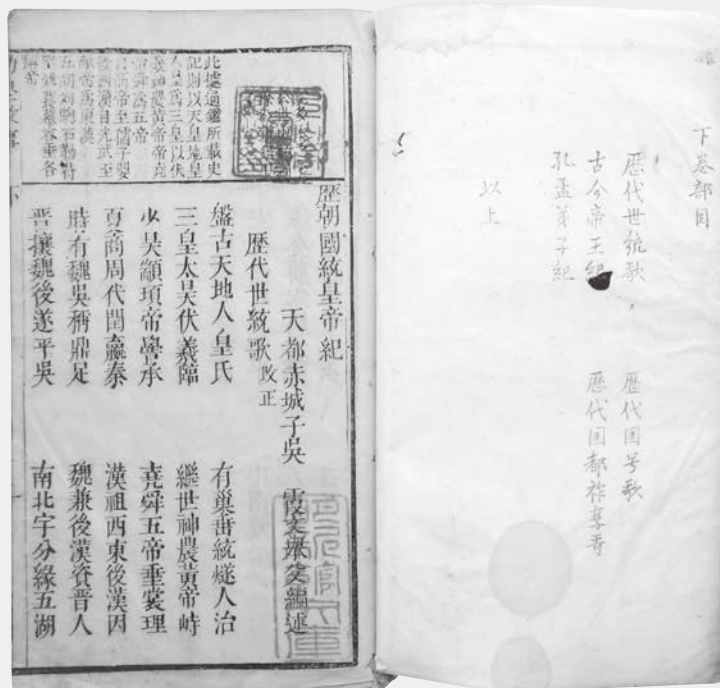




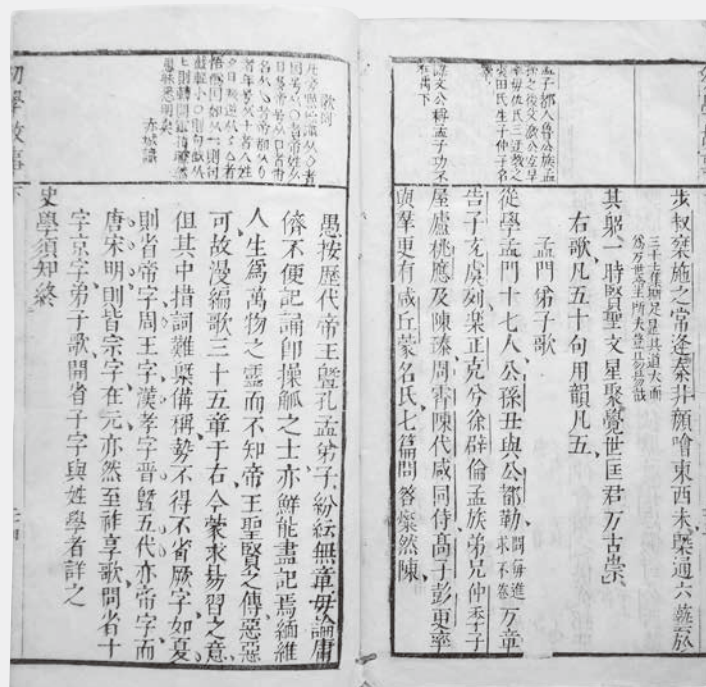
⑪『淵鑑類函』封面・序（上山市立図書館蔵）



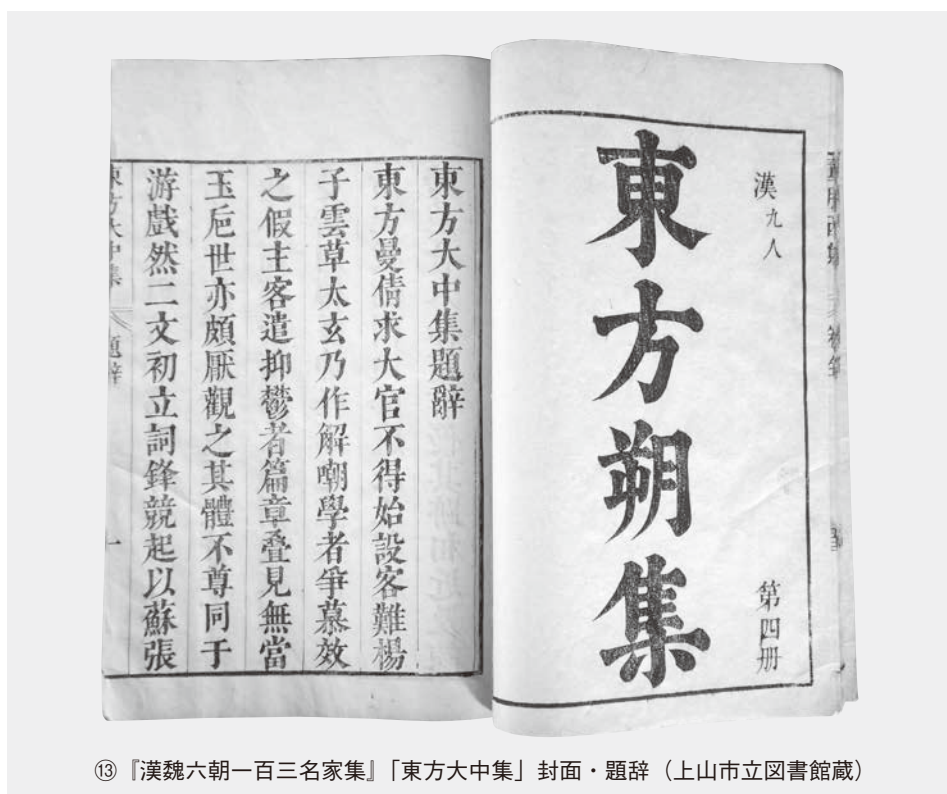
⑪『淵鑑類函』卷一・卷首（上山市立図書館蔵）



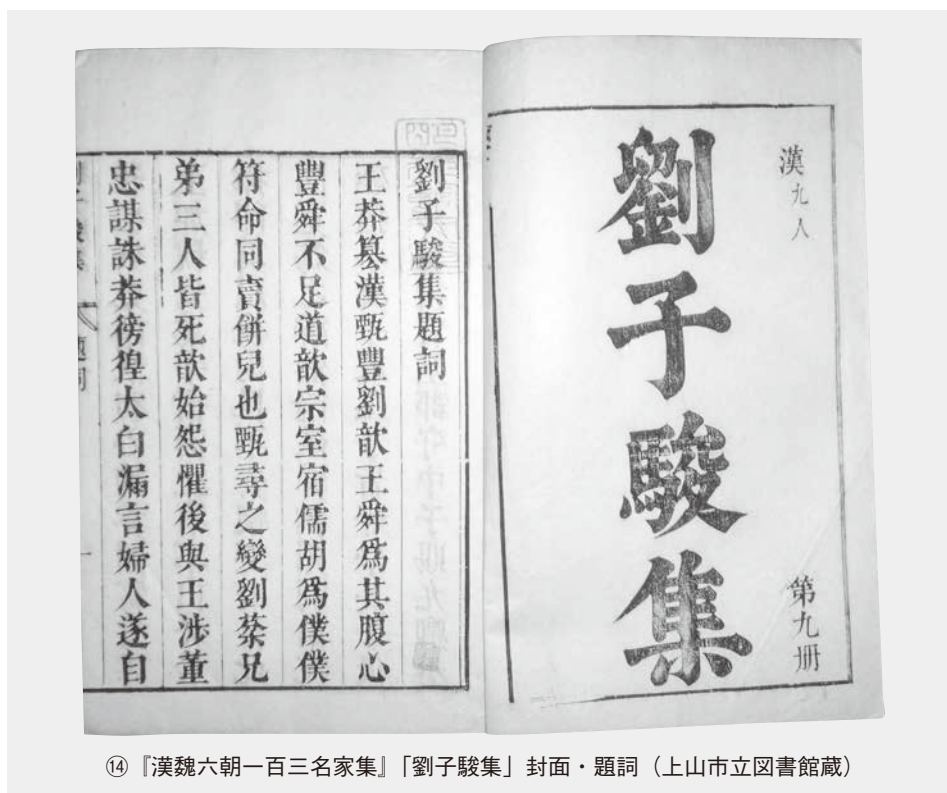
⑫『幼学須知便読故事』 卷下卷首（上山市立図書館蔵）



⑫『幼学須知便読故事』 卷下卷末（上山市立図書館蔵）

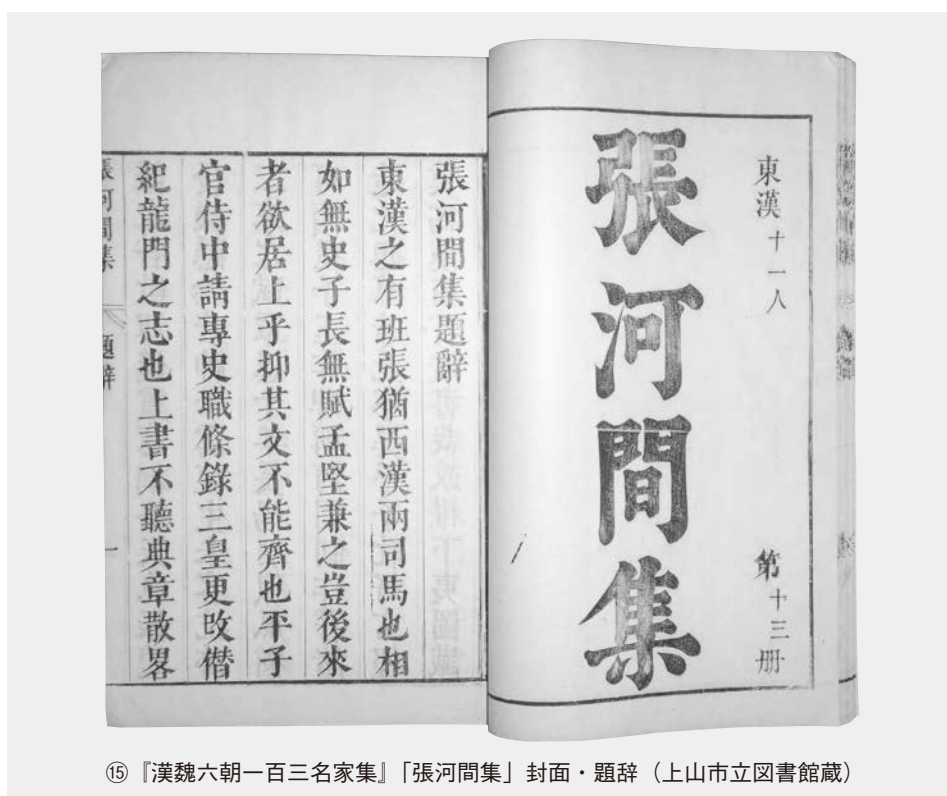


⑬『漢魏六朝一百三名家集』「東方大中集」封面・題辭（上山市立図書館蔵）

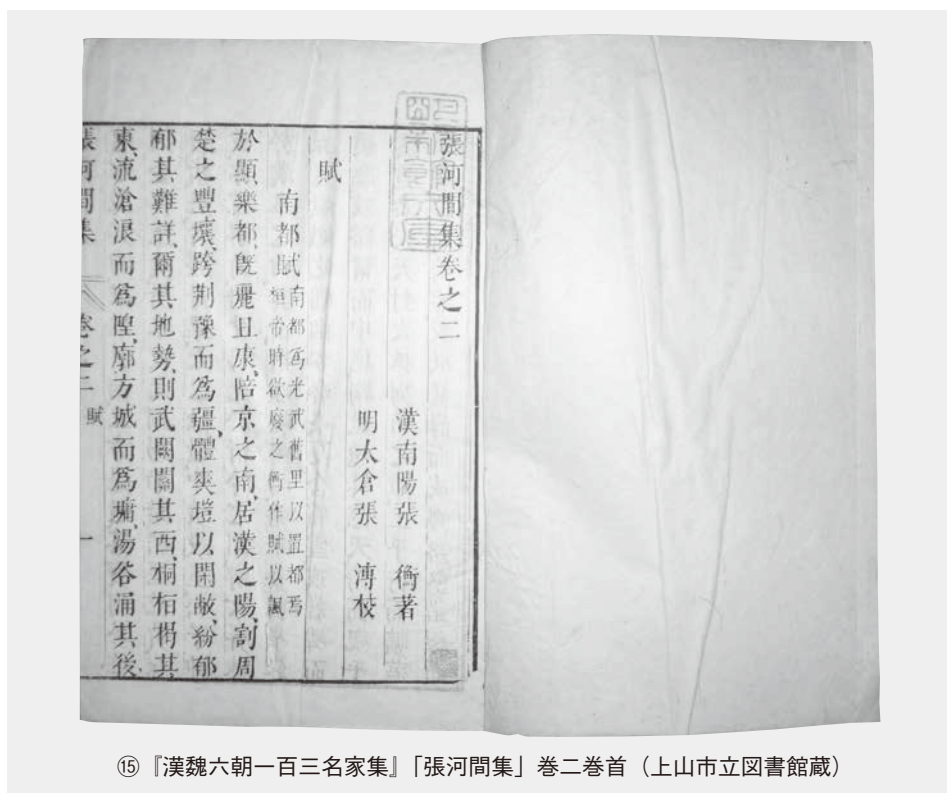


⑭『漢魏六朝一百三名家集』「劉子駿集」封面・題詞（上山市立図書館蔵）

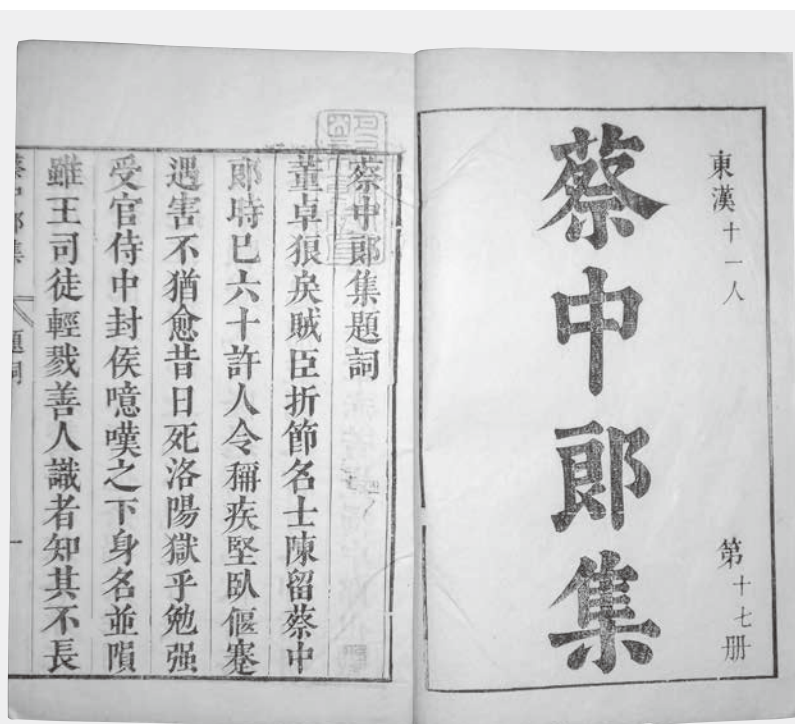




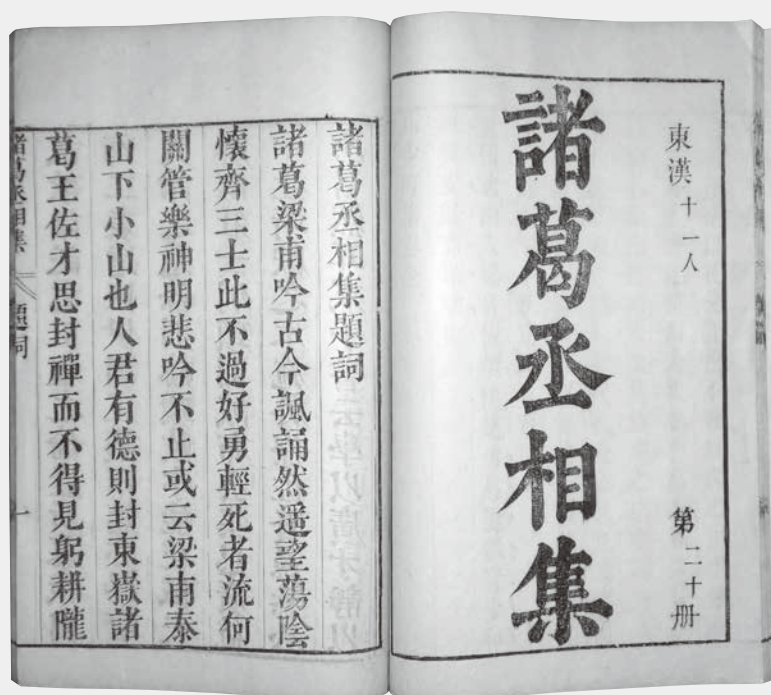
⑮『漢魏六朝一百三名家集』「張河間集」封面・題辭（上山市立図書館蔵）



⑮『漢魏六朝一百三名家集』「張河間集」卷二卷首（上山市立図書館蔵）

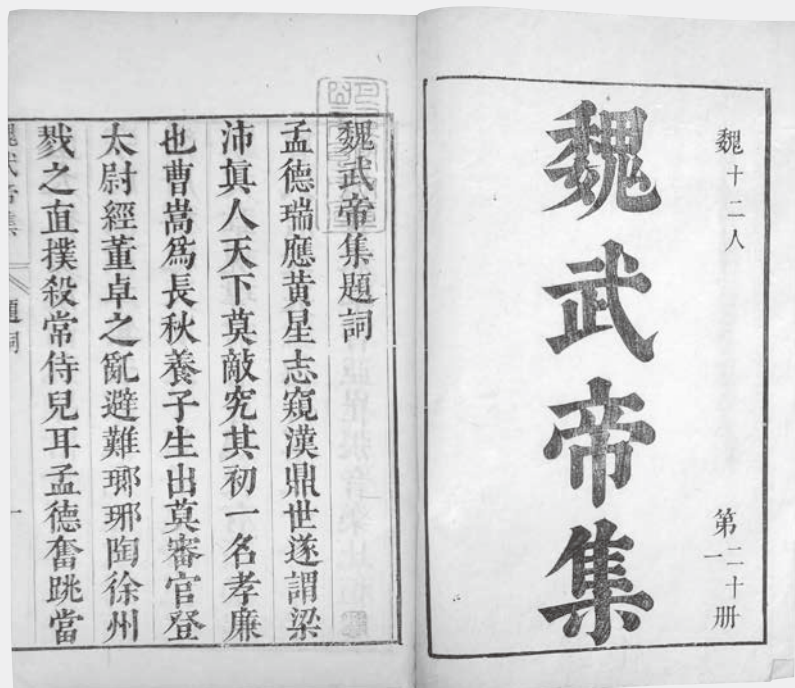


⑯『漢魏六朝一百三名家集』「蔡中郎集」封面・題詞（上山市立図書館蔵）

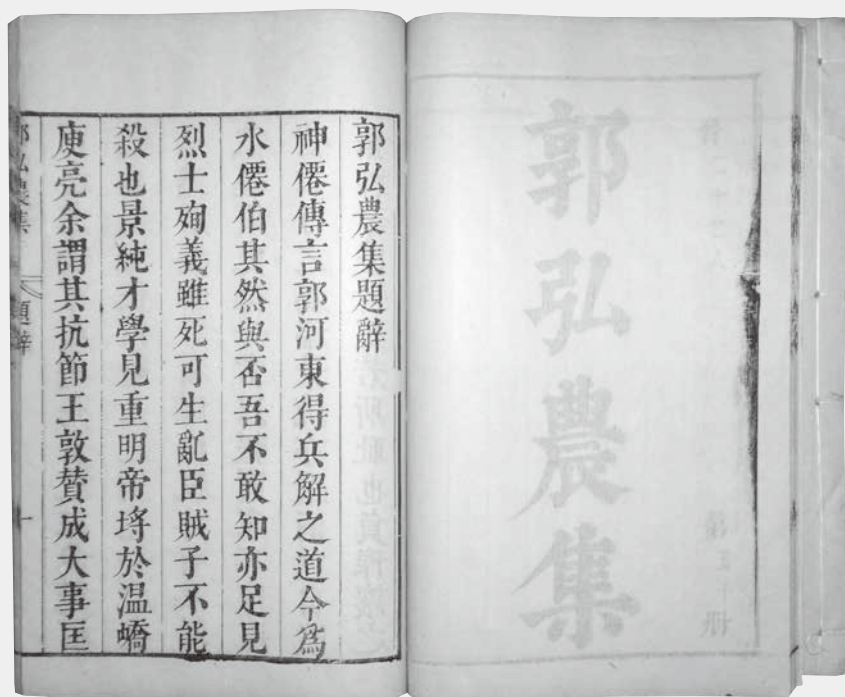


⑰『漢魏六朝一百三名家集』「諸葛丞相集」封面・題詞（上山市立図書館蔵）

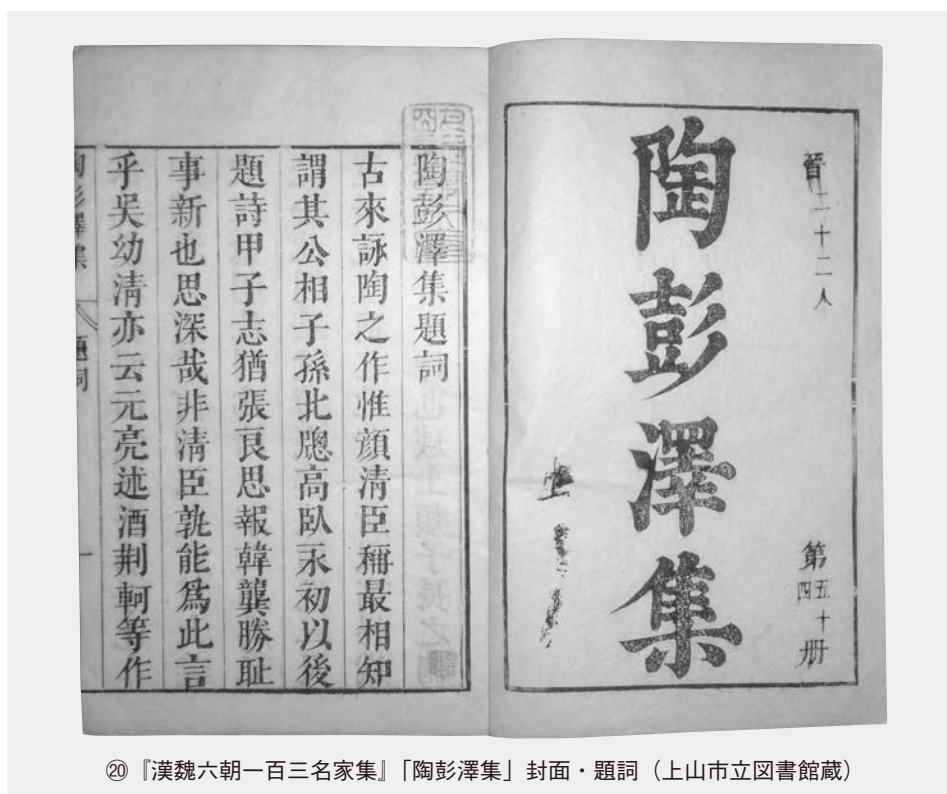




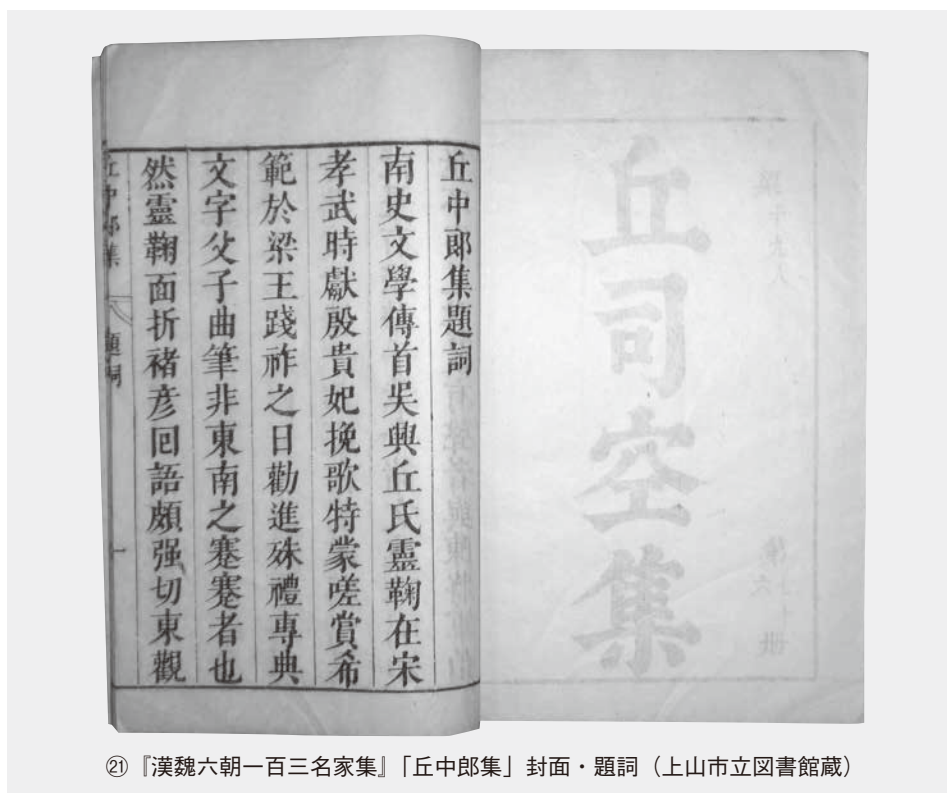
⑱『漢魏六朝一百三名家集』「魏武帝集」封面・題詞（上市市立図書館蔵）



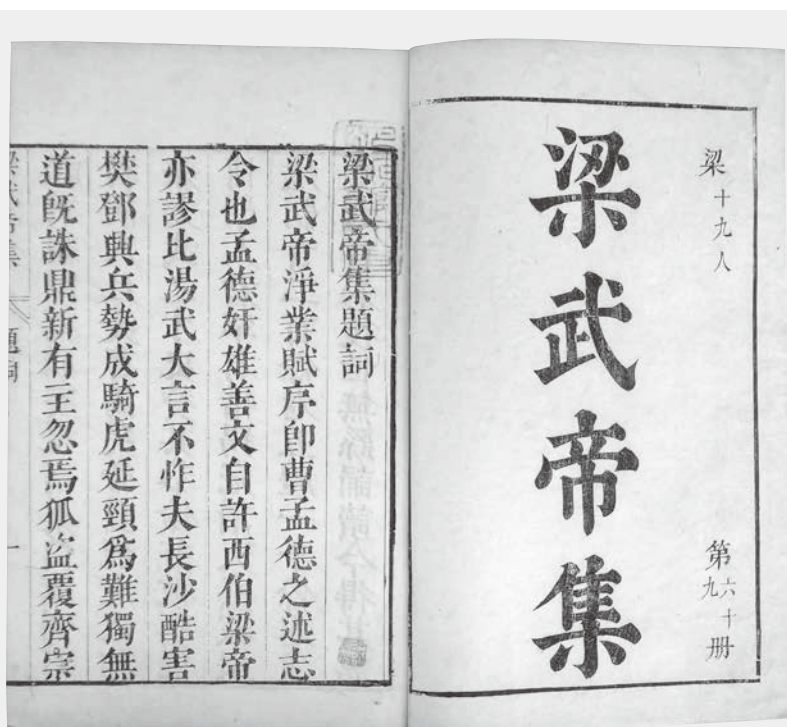
⑲『漢魏六朝一百三名家集』「郭弘農集」封面・題辭（上市市立図書館蔵）



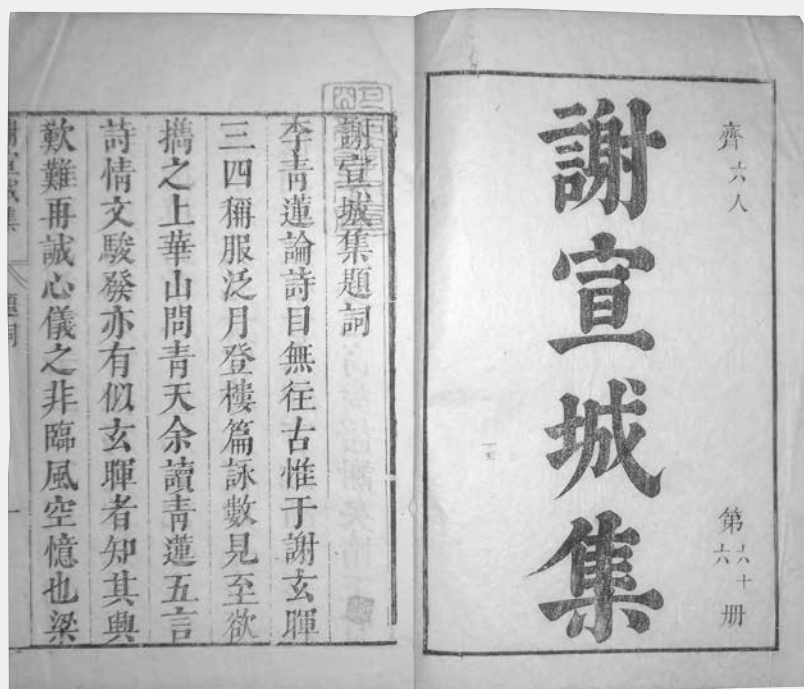
⑳『漢魏六朝一百三名家集』「陶彭澤集」封面・題詞（上市市立図書館蔵）



㉑『漢魏六朝一百三名家集』「丘中郎集」封面・題詞（上市市立図書館蔵）



②『漢魏六朝一百三名家集』「梁武帝集」封面・題詞（上市市立図書館蔵）

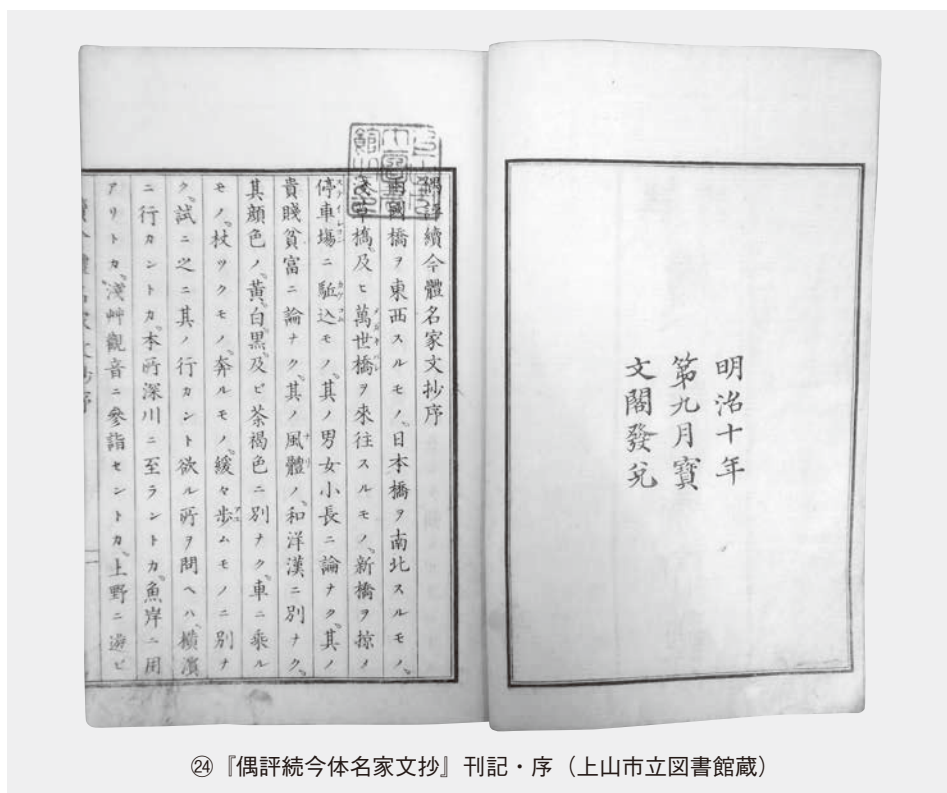


③『漢魏六朝一百三名家集』「謝宣城集」封面・題詞（上市市立図書館蔵）

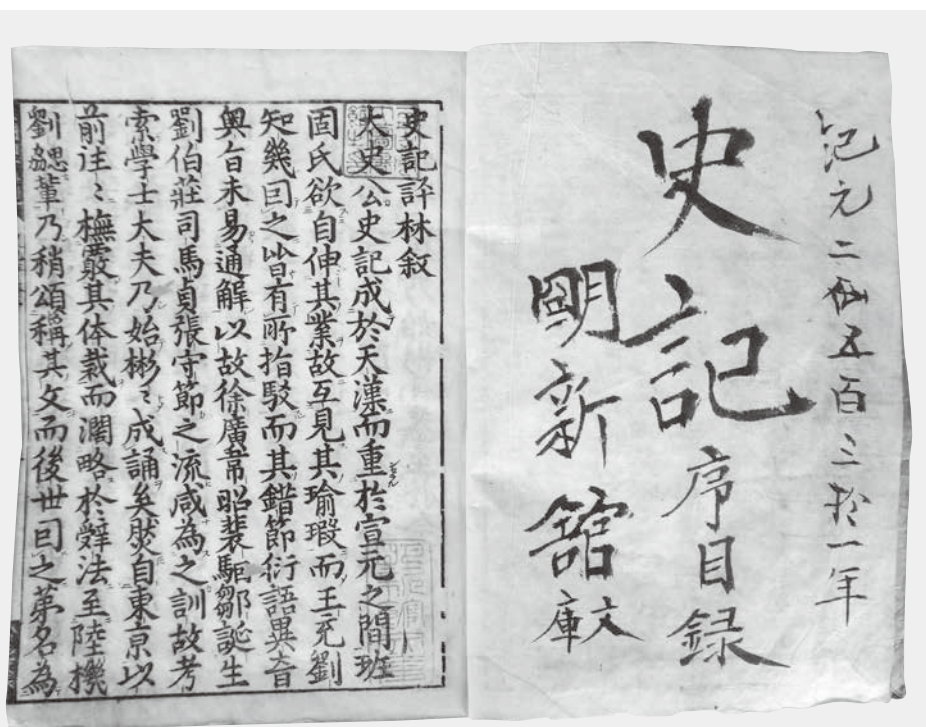




②④『偶評統今体名家文抄』目録・卷一卷首（上山市立図書館蔵）



②④『偶評統今体名家文抄』刊記・序（上山市立図書館蔵）

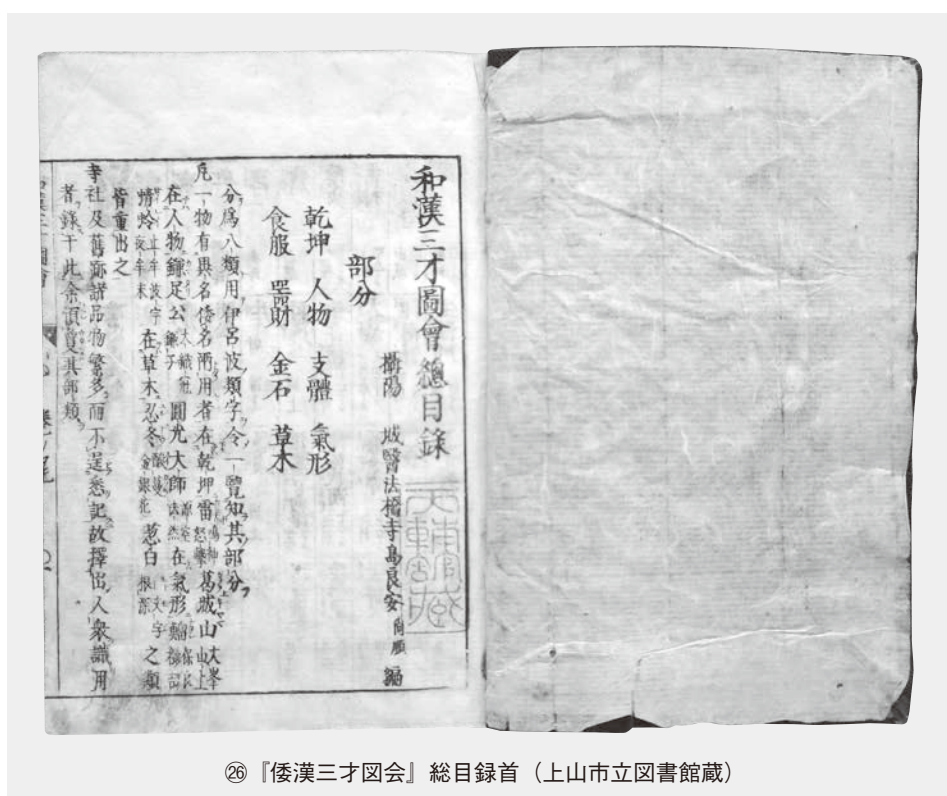


②⑤『史記評林』叙・見返し（墨記・紀元2531年＝明治4年）（上山市立図書館蔵）

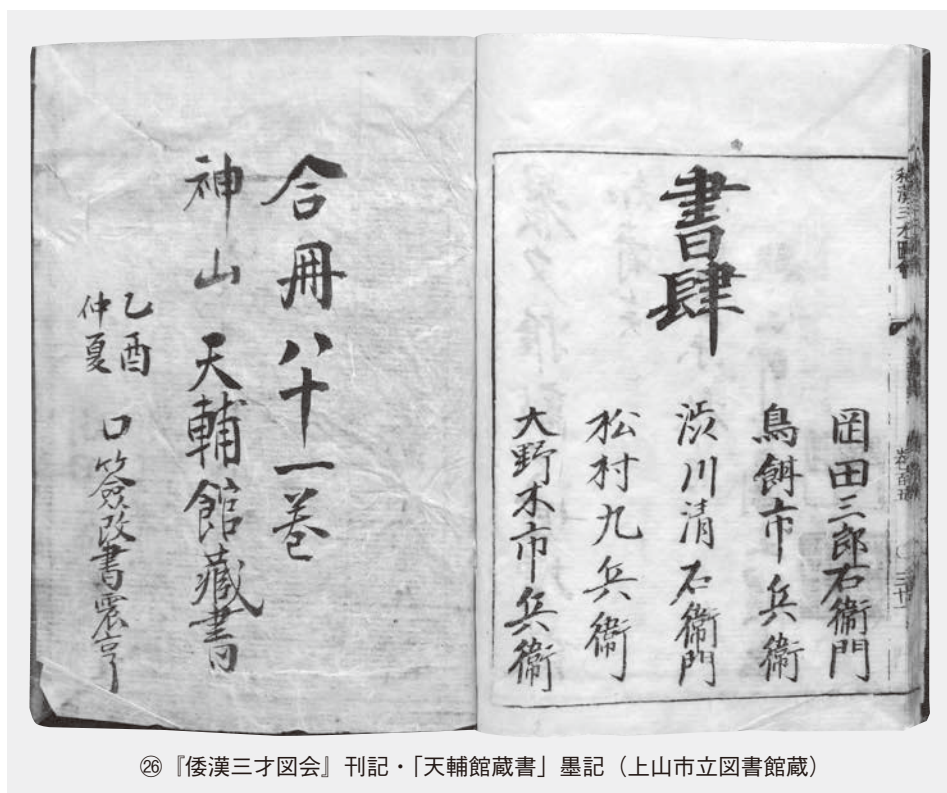


②⑥『倭漢三才図会』封面・畧序（上山市立図書館蔵）



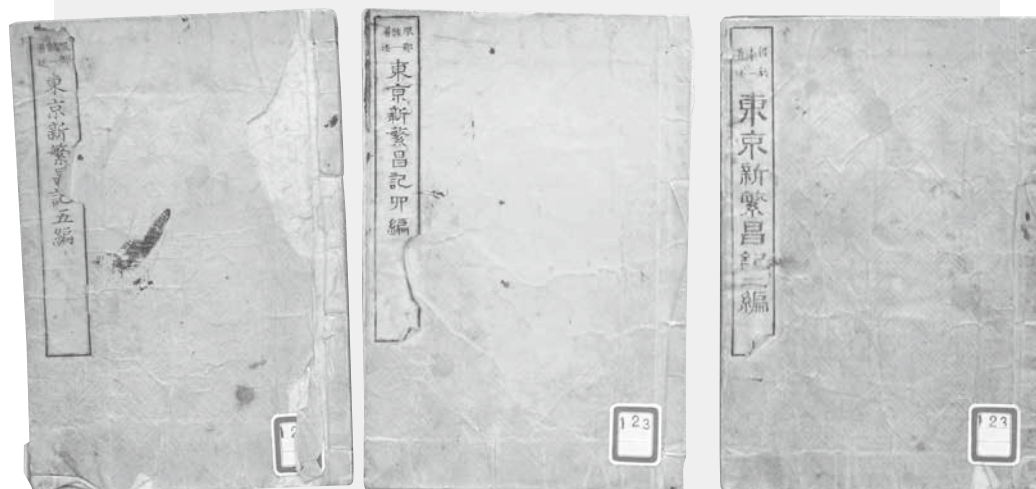


㉔『倭漢三才図会』総目錄首（上山市立図書館蔵）



㉔『倭漢三才図会』刊記・「天輔館藏書」墨記（上山市立図書館蔵）



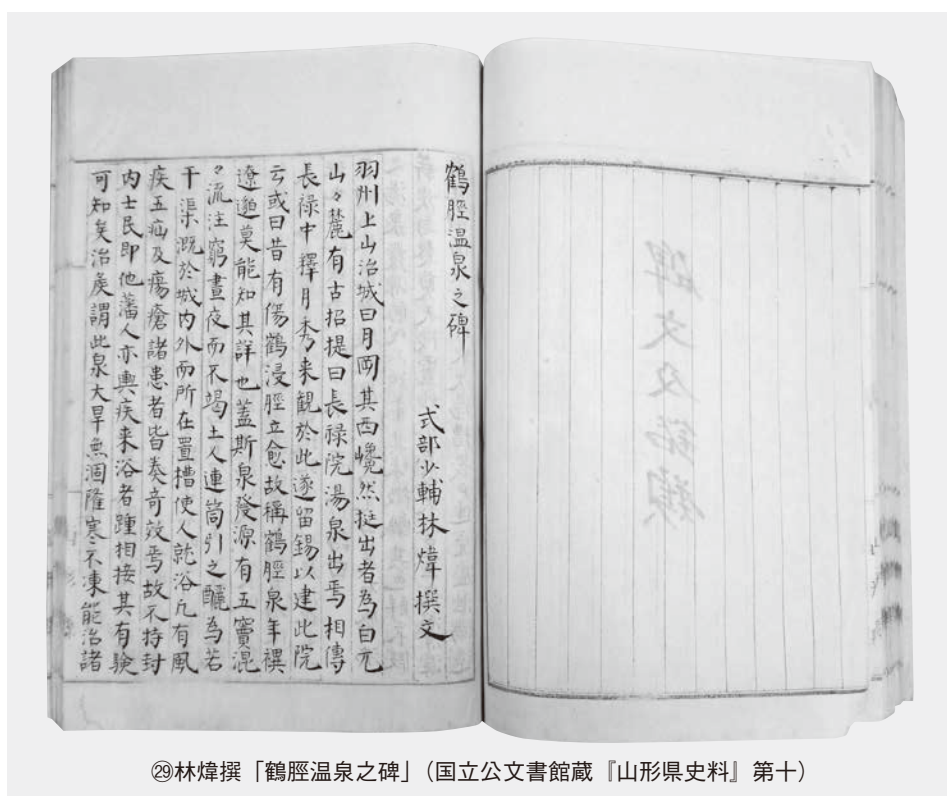


⑳ 『東京新繁昌記』二・四・五編 表表紙（上山市立図書館蔵）

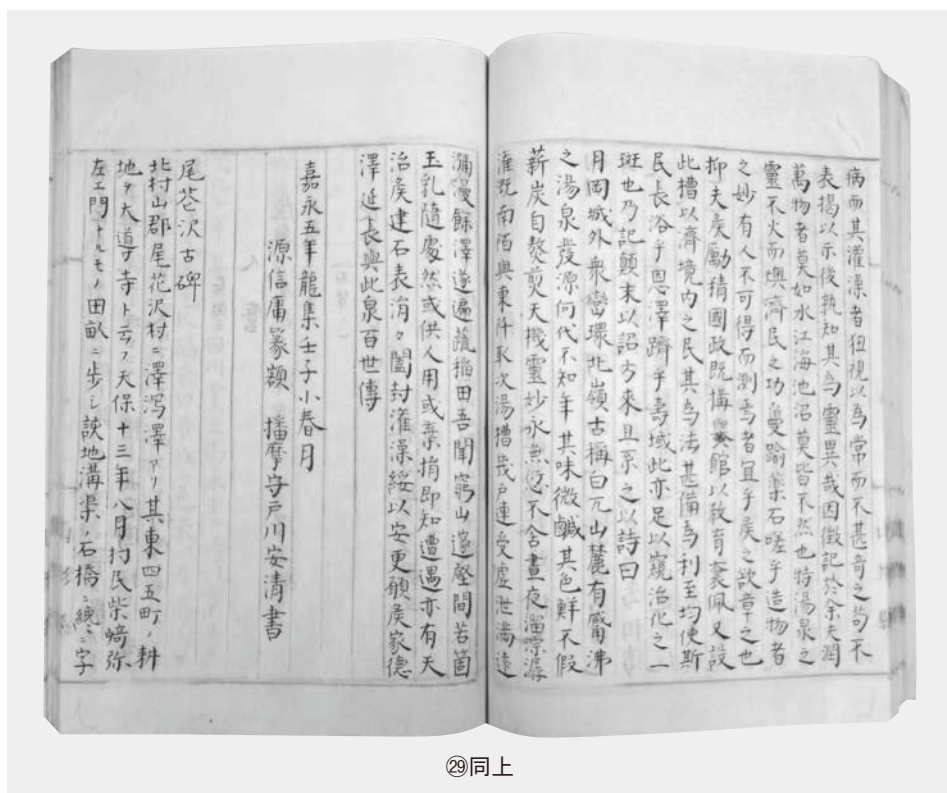


㉑ 『東京新繁昌記』二・四・五編 裏表紙（「明新学校」墨記）（上山市立図書館蔵）





②9 林煒撰「鶴脛温泉之碑」(国立公文書館蔵『山形県史料』第十)



②9 同上

## (2) 序 出羽国明新館文庫との出会い

東北アジア研究センターのプロジェクト「出版文化資料データベース研究ユニット」は、今年で二年目を迎える。目下、関連事業として、山形県南の置賜・南村山方面での典籍に係わる研究を実施している。

山形と宮城とはかつて蔵王連峰を境として、異なる地域社会を形成し、それぞれが独自の文化を育んでいた。今日では、交通網が整備され、人々の往来が頻繁となり、親密性が増している。

江戸時代に溯ると、宮城が伊達家一門の大名支配であったのに対し、山形は中小藩と大名飛地による支配が行なわれ、両国は制度的にはかなりの相違があった。しかし、幕藩体制のもとでは、百姓一揆を除けば、戦国時代や明治維新のような戦乱はなく、それなりの安定した地域社会となっていた。上山は、現在では、かみのやま温泉駅の名前が示すように温泉保養地で名を馳せるが、かつては城下町の政庁が置かれて藩政が行なわれ、一方で街道の宿場として、また温泉宿としての機能を持つて地域社会を構成していた。

山形県下の漢籍と言えば、米沢の上杉家・興讓館がとに有名である。しかし、筆者はそれ以外の漢籍については知るところがなく、そのため、勤務地が仙台となったことを契機に近隣諸県の漢籍調査を始めた。その中で出会ったのが、上山市立図書館に所蔵される藩校明新館の旧蔵本であった。かつて、北陸にあった大聖寺藩旧蔵の聖藩文庫漢籍目録を作ったことがあったので、それに倣って平成9年に調査とデータ蒐集をし、明新館文庫の目録の草稿を仕上げたものの、東アジア出版文化に係わるプロジェクトを間断入れて3つ実施したことから、作成は中断してしまった。常に気に懸ってはいたが、なかなか再開できず、平成22年度に入っようやく再開しようとした。ところが、今度は震災に遭遇して再び中断してしまった。

平成25年度になって、研究棟の修復も終わり、仮設の研究室から本棟への再入居にたどり着いたことから、上山藩の歴史などを改めて頭の中に収めて草稿を改め、所属する東北アジア研究センターへ出版申請をしたことによって、目録の完成と

なった。思えば、短期で済ますべき作業に対し、上山城を撮影したフィルムのカラ―写真がセピア色になるほどの歳月を経てようやく終結に向かったことは、おそらく執筆者自身の怠惰がその原因にあったのであろう。便宜をいろいろと図って下さった当時の吉野館長並びに館員の方々のご好意を生かせなかったが、ここに初期の計画通り目録を作成し公刊を迎えたことは、多少なりとも責任を埋めることが出来たということで、いささかの安堵を覚える。

このたび、斎藤光館長、山口登市副主幹並びに館員の方々に格別のご配慮をいただいて、目録作成の最終段階に入ることが出来た。また、原稿の打ち込みや校正に関し、研究ユニット・共同研究関係者である穂苅みどりさん・佐々木聡君・高橋亨君・羅莞翎君には多大な尽力を得た。各位に感謝の意を申し上げる。桜の咲く蔵王連邦を望みつつ、置賜での日々を過ごした時から、既に長い時間が経過した。

本書は、東北大学東北アジア研究センターのプロジェクト「出版文化資料データベース研究ユニット」及び共同研究「典籍文化遺産の研究」の成果の一部として公刊される。

平成26年10月19日 編者



### (3) 凡例

①本書は上山市立図書館が所蔵する藩校明新館に由来する漢籍・和書等の目録である。但し、増戸文庫や明治以降の個人献本でまとまりのある書籍、或は、明治五年制定の学制が本格化して旧藩の明新館の役割が終了したと思われる時期（明治十二年教育令）以降の書籍は、本目録の性格を考慮して一部の例外を除き、原則として収録はしていない。

②上山市立図書館に明新館文庫本と混在する増戸文庫等の個人寄贈本は原則として除いたが、『太平御覧』などの刊本には、藩校印がなく別の印章があるものもあるが、江戸後期から明治にかけて上山にあつては漢学学習の中心である藩校にあつたと思われる書籍ゆえに、ここでは明新館由来の書籍として著録した。また、増戸文庫・岡村氏寄贈本・小林氏寄贈本などはそれぞれひとまとまりにあり、将来、個別目録が刊行されるものとして原則除外した。その一方、由来が不明で、単発的な個別印や旧蔵者が特定できない書籍の場合、個別目録からは漏れ落ちることも考えられるため、\*印を付けて区別しつつ、明新館文庫本と並存させて収録した。

③日本人による漢文表記の書籍は、漢籍に準ずる準漢籍として区分して漢籍の後に収録している。

④漢籍の分類・排列は、『京都大学人文科学研究所漢籍分類目録』に従い、必要に応じて『内閣文庫漢籍分類目録』などを参照している。和書の編成は、日本十進分類法の項目の順位で排列した。「凡例」を作成するに当たっては、他の目録に付記されるものを参照させていただいた。

⑤書名は、原則として巻首題名に拠ったが、表紙題簽や封面に見える文字に拠る場合もある。

⑥漢籍には、撰者名等の上に原則として朝代・姓名を記し、書籍撰者として字や号を用いる場合は、本名の次に（ ）書きで補記した。和書の場合は、可能な範囲で地域名を冠した。

⑦書籍の登録番号を付すべきではあるが、幾次かの変更があり、現今の上山市立図書館でも確定していない点を鑑み、本目

録には記載せず、目録末に五十音索引を置いて代用することとした。

⑧木版本は「刊本」、手書きの本は「写本」と記し、印刷方法がとりわけ明瞭なものは、必要に応じて「木活」（木活字本）「排印」などと記すものもある。

⑨版元所在地表記について、「皇都」「平安」「洛陽」「京師」（京都）など、「江都」「東都」（江戸）など、「浪華」「大坂」（大阪）などそのまま使用し、統一はしていない。

⑩明新館文庫の現存本は相対的に少ないため、特徴的な書誌事項がある場合は目録内の各書名の下に記した。

⑪目録の記載は原則的には旧漢字による縦書きとし、基本的には次の形式で記している。

書名	巻次	冊数
著者		
刊写の別	出版年（西暦）	出版地 出版者
一般注記など		
蔵書印「」（「上山市立図書館之印」は除く）		

⑫本目録には、上山藩藩校の由来や蔵書の特色などを記した解説を付し、歴史的文化財としての性格がわかるようにした。併せて、書籍の一部の書影・写真を付け、実物が視覚からも判別できるようにした。

⑬目録作成に際し、すべて原典に当たったが、先行の『増戸文庫関係目録（稿）・明新館他関係目録蔵書目録』（上山市立図書館、一九七一年）を併せて参照させていただいた。

(4)  
目錄

漢籍分類目錄

經部

- 一 經注疏合刻類
- (二 易類)
- 三 書類
- 四 詩類
- 五 禮類
- 六 春秋類
- 七 四書類
- 八 孝經類
- 九 諸經總義類
- 十 小學類

史部

- 一 正史類
- 二 編年類
- 三 紀事本末類

- 四 古史類
- 五 別史類

(六 雜史類)

(七 載記類)

八 詔令奏議類

九 傳記類

(十 時令類)

十一 地理類

十二 職官類

十三 政書類

(十四 書目類)

(十五 金石類)

(十六 史鈔類)

(十七 史評類)

子部

(一 諸子合刻類)

二 儒家類

三 兵家類



(四) 法家類

(五) 農家類

六 醫家類

(七) 天文算法類

(八) 術數類

(九) 藝術類

(十) 雜家類

十一 類書類

十二 小說家類

(十三) 釋家類

十四 道家類

## 集部

(一) 楚辭類

二 別集類

三 總集類

(四) 詩文評類

(五) 詞曲類

(六) 小說類

## (叢書部)

### 準漢籍分類目錄

#### 經部

#### 史部

#### 子部

(一) 諸子合刻類

(二) 儒家類

(三) 兵家類

四 法家類

(五) 農家類

六 醫家類

(七) 天文算法類

(八) 術數類

(九) 藝術類

(十) 雜家類

(十一) 類書類

- (十二) 小説家類
  - (十三) 釋家類
  - (十四) 道家類
- 集部**

## 和書分類目録

- 000 總記
- (010) 圖書館、圖書館學
- (020) 圖書、書誌學
- 100 哲學
- 200 歴史
- 210 日本史
- (220) アジア史、東洋史
- (230) ヨーロッパ史、西洋史
- 290 地理、地誌、紀行
- 300 社會科學
- 320 法律
- 370 教育

- (400) 自然科學
- (500) 技術
- (600) 産業
- 700 藝術
- 800 言語
- 900 文學

( ) 当該書籍がない分類項目





# 漢籍分類目錄

## 經部

### 一 經注疏合刻類

十三經注疏 158冊 「孝經注疏」欠

清嘉慶三年・金閭書業堂重刊（用明・汲古閣本）

周易兼義 九卷 周易略例一卷 周易音義一卷（魏）王弼（晉）韓康伯注（唐）孔穎達正義

尚書注疏 二十卷（漢）孔安國傳（唐）陸德明音義（唐）孔穎達疏

毛詩注疏 二十卷（漢）毛亨傳（漢）鄭玄箋（唐）陸德明音義（唐）孔穎達疏

周禮注疏 四十二卷（漢）鄭玄注（唐）陸德明音義（唐）賈公彥疏

儀禮注疏 十七卷（漢）鄭玄注（唐）陸德明音義（唐）賈公彥疏

禮記注疏 六十三卷（漢）鄭玄注（唐）陸德明音義（唐）孔穎達疏

春秋左傳注疏 六十卷（晉）杜預注（唐）陸德明音義（唐）孔穎達疏

春秋公羊注疏 二十八卷（漢）何休學（唐）陸德明音義 闕名疏

春秋穀梁注疏 二十卷（晉）范甯集解（唐）陸德明音義（唐）楊士勛疏

論語注疏解經 二十卷（魏）何晏集解（宋）邢昺疏

爾雅注疏 十一卷（晉）郭璞註 闕名音義（宋）邢昺疏

孟子注疏解經 十四卷（漢）趙岐注（宋）孫奭疏

「天輔館藏」「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

\*改正音訓 五經（再刻後藤点） 3冊（存三種） 後藤芝山定本

男師周・孫師邵校

易經（周易） 一卷

春秋（胡氏傳） 一卷

禮記 四卷

天明四年上梓・天明七年刊 弘化三年補刻平安書肆北村四郎兵衛他四書林刊（林家正本再刻）

### 三 書類

新刻頭書 書經集註 六卷 6冊

（宋）蔡沈集傳

寛文四年今村八兵衛藏板・享和元年再板

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

尙書（正本） 十三卷 6冊

（漢）孔安國傳 （日）清原宣條校

天明八年・皇都書林 田中市兵衛・今村八兵衛・風月庄左衛門刊

版心「尚書」序——正本」

「天輔館藏」印

四 詩類

詩經集註 八卷 8冊

(宋) 朱熹集傳

寛文四年刊・寛政三年再刻刊(今村八兵衛藏板)

「明新館文庫」印

毛詩名物圖說 九卷 2冊

(清) 徐鼎(雪樵)撰 (日) 北條螻堂(士伸)校 (日) 小野蘭山和名附

文化戊辰五年用唐本翻刻宮商閣寶翰堂發兌

卷末「江戸書林仲買丹後屋伊兵衛」広告あり

「羽州神山増戸藏書」「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

五 禮類

周禮 鄭玄注 十二卷 2冊

儀禮 鄭玄注 十七卷 2冊

禮記 鄭玄注 二十卷 3冊

掛川德造書院新梓刊

「掛川德造書院新梓」「明新館文庫」「城松崎明淳審定」「山形縣南村山郡立圖書館」印

(首書) 禮記集註(集說) 三十卷 15冊

享保九年今村八兵衛板

「明新館文庫」印

(新定) 三禮圖 二十卷 4冊

(宋) 聶崇義撰 (日本) 菊池武愼校

寛政二年東都崇文堂前川六左衛門再刻刊(用宝曆十一年初刻覆康熙丙辰納蘭成德校訂本)

「明新館文庫」印

六 春秋類

春秋左氏傳校本 三十卷 15冊

(晉) 杜預集解 (唐) 陸德明 音義 (尾張) 秦鼎校本

文化八年滄浪居藏版刊



「明新館文庫」印

\*春秋左氏傳 三十卷 15冊

(晉) 杜預集解 (西播) 那波師曾句讀

安永六年 京都・楠見甚左衛門刊 江戸須原屋茂兵衛等十家三都書林発行

「渡邊臧書」「閑雅亭」「山形縣南村山郡立圖書館」印

(呂東萊先生) 左氏博議 六卷 1冊

(宋) 呂祖謙撰 (明) 陶珽編 黃之案校

元祿庚辰十三年後跋刊(封面「大雅堂梓行」)

京師書林吉村吉左衛門・永原屋孫兵衛梓行

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」他二印(未讀)

\*春秋胡氏傳 一卷 1冊

(宋) 胡瑗撰

江戸刊本

版心「松梅軒藏」

「神<sup>?</sup>原藏書」(神山?小?原) 印

＊（泉南）南宗論語（翻刻古本論語） 十卷附南宗論語考異一卷 2冊

（魏）何晏集解 清原宣賢傳本 （附）仙石政和撰

文化辛未（八）年識（序） 伍梅園藏版刊

「平井氏正名塾」「平井文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

大學定本 1冊

（洛陽）伊藤維楨 考定

貞享二年伊藤跋刊（版心…古義堂藏）

「明新館文庫」印

＊（新版校正）大學章句（道春点） 1冊

（宋）朱熹撰

江戸刊本

「増戸藏書」印

〈寛政甲寅年〉（六年・一七九四）〈羽州山形上山石沢屋〉 円墨印

＊中庸章句 1冊

（宋）朱熹

\* (重新訂正) 四書正解 存1冊 (大學卷之一)

(丹陽) 吳荃蓀輯 車鶴田鑒定

平安城書林水玉堂梓行 (封面)

\* 改正 四書集註 存一種1冊

(宋) 朱熹撰 後藤世鈞點

東京・文魁堂藏版刊

大學章句 一卷

(過喜齋) 四書大全 43冊 (第7・8・9・15・16欠冊)

(明) 胡廣等奉勅撰 (清) 汪份增注 (安藝) 吉村晉點

大學章句大全 三卷

大學或問 一卷

中庸章句大全 三卷

中庸或問 一卷

論語集註大全 二十卷

孟子集註大全 十四卷 附一卷

嘉永七年千鍾房宋榮堂翻雕大阪秋田屋太右衛門・大塚屋作兵衛 江戸・須原屋茂兵衛發兌／ (剖廁) 京二条・樋

口與兵衛・山本長左衛門・甲賀喜一郎・井上治兵衛各分担刻

〔明新館文庫〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

四書白文 存三種

大學・中庸 各一卷 1冊（宋）朱熹章句

論語 上下 1冊（宋）朱熹集註

江戸刊

表紙裏「鈴木萬藏言□」墨書あり

〔明新館文庫〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕（大學）、〔明新館文庫〕（論語）印

八 孝經類

古文孝經（孝經） 一卷 1冊

（漢）孔安國傳 太宰純（春臺）音 訓點

文化二年 書林 江戸川喜田善次郎刊

〔天輔館藏〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

九 諸經總義類



皇清經解 千四百卷首一卷 四十一帙 363册

(清) 阮元·嚴杰編

卷十八、二十二、三百五十九、三百七十四(補鈔)·卷千百四十(部分補鈔) 第257册欠 第287册欠

清·咸豐十一年 學海堂補刊

版心「庚申補刊」

卷尾跋「咸豐十一年補刊」

第1册 左傳杜解補正

第2册 左傳杜解補正·音論·易音

第2·3册 詩本音

第4册 日知錄(鈔写)

第5册 四書釋地

四書釋地續

第6册 四書釋地又續

第7册 四書釋地三續

孟子生卒年月考

第8册 潛邱劄記

第8、18册 禹貢錐指例畧·禹貢圖·禹貢錐指

第18册 學禮質疑

第19·20册 學春秋隨筆

第20 ゝ 28冊	毛詩稽古編
第28 ゝ 32冊	仲氏易（第32冊補鈔あり）
第32 ゝ 39冊	春秋毛氏傳
第39冊	春秋簡書刊誤
第39・40冊	春秋屬辭比事記
第40 ゝ 42冊	經問
第42・43冊	論語稽求篇
第43・44冊	四書賸言（補鈔あり）
第44冊	詩說
第45 ゝ 48冊	湛園札記
第49冊	經義雜記（補鈔あり）
	解春集
	尙書地理今釋
第50・51冊	易說
第51 ゝ 55冊	禮說
第55 ゝ 60冊	春秋說
第61冊	白田草堂存稿
第61・62冊	周禮疑義舉要
第62冊	深衣考誤

第88册	第83 ゝ 87册	第82册	第81・ 82册	第81册	第80・ 81册	第80册	第79册		第78册	第76・ 77册	第71 ゝ 76册	第68 ゝ 70册	第64 ゝ 68册	第63・ 64册	第62・ 63册		
古文尙書考	周易述	果堂集	春秋左傳小疏	儀禮小疏	尙書小疏	周官祿田考	春秋穀梁傳注疏考證	春秋公羊傳注疏考證	禮記注疏考證	尙書注疏考證	質疑	經史問答	觀象授時	儀禮章句	鄉黨圖考	羣經補義	春秋地理考實

第 137 ～ 141 冊	第 137 冊	第 132 ～ 137 冊	第 131 冊	第 129 ～ 131 冊		第 128 冊	第 126 ～ 127 冊	第 119 ～ 125 冊	第 117 ～ 119 冊	第 116 ～ 117 冊	第 115 ～ 116 冊	第 101 ～ 114 冊	第 95 ～ 100 冊		第 94 冊	第 92 ～ 94 冊	第 90 ～ 91 冊	第 88 ～ 90 冊
---------------------------	---------------	---------------------------	---------------	---------------------------	--	---------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	--------------------------	--	--------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

儀禮喪服文足徵記	宗法小記	爾雅正義	釋繪	弁服釋例	讀書脞錄續編	讀書脞錄	尙書釋天	四書考異	潛研堂文集	十駕齋養新錄	周禮軍賦說	尙書後案	尙書集注音疏	龍城札記	鍾山札記	春秋正辭	九經古義(鈔寫)	春秋左傳補註
----------	------	------	----	------	--------	------	------	------	-------	--------	-------	------	--------	------	------	------	----------	--------



第 141 册	釋宮小記
第 142 ~ 144 册	考工創物小記
第 145 册	磬折古義
第 145 · 146 册	溝洫疆理小記
第 146 册	禹貢三江考
	水地小記
	解字小記
	聲律小記
第 147 · 148 册	九穀考
第 148 册	釋草小記
第 148 · 149 册	釋蟲小記
	禮箋
第 150 册	毛鄭詩考正
第 150 册	杲溪詩經補注
第 150 · 151 册	考工記圖
第 151 · 152 册	戴東原集
第 152 ~ 158 册	古文尙書撰異
第 159 ~ 161 册	毛詩故訓傳
第 161 · 162 册	詩經小學

第 214 冊	第 209 ・ 214 冊	第 207 ・ 209 冊	第 206 冊	第 201 ・ 206 冊	第 200 ・ 201 冊	第 199 ・ 200 冊	第 198 ・ 199 冊	第 197 ・ 198 冊	第 196 ・ 197 冊	第 195 冊	第 193 ・ 194 冊	第 191 ・ 192 冊	第 183 ・ 191 冊	第 181 ・ 182 冊	第 179 ・ 181 冊	第 164 ・ 179 冊	第 164 冊	第 162 ・ 164 冊
---------------	---------------------------	---------------------------	---------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------	---------------------------

校禮堂文集	禮經釋例	儀禮釋官	問字堂集	尚書今古文注疏	經讀考異	羣經識小	既亭述古錄	經學卮言	大戴禮記補注	禮學卮言	春秋公羊通義	讀書雜誌	廣雅疏證	經韻樓集	六書音均表	說文解字注	儀禮漢讀考	周禮漢讀考
-------	------	------	------	---------	------	------	-------	------	--------	------	--------	------	------	------	-------	-------	-------	-------

第215冊

劉氏遺書

述學

經義知新記

第216冊

大戴禮記正誤

第217冊

曾子注釋

第217  
〜  
267冊

十三經注疏校勘記（第257冊卷九百十八〜九百九十七欠）（補鈔あり）

第268冊

考工記車制圖解

積古齋鐘鼎彝器款識

第268・  
269冊

疇人傳

第270・  
271冊

擘經室集

第272冊

撫本禮記鄭注考異

第272・  
273冊

易章句

第274  
〜  
280冊

易通釋

第281冊

易圖略

第281  
〜  
290冊

孟子正義（第287冊卷千百三十三〜千百三十八欠）（補鈔あり）

第290冊

周易補疏

尙書補疏

第290・  
291冊

毛詩補疏

第291冊

禮記補疏

第 292 冊	春秋左傳補疏
第 293 冊	論語補疏
第 293・294 冊	周易述補
第 294・296 冊	拜經日記
第 296 冊	拜經文集
第 297・310 冊	瞥記
第 310・312 冊	經義述聞（補鈔あり）
第 312・314 冊	經傳釋詞
第 315 冊	周易虞氏義（補鈔あり）
第 315・316 冊	周易虞氏消息
第 316 冊	虞氏易禮
第 316・318 冊	周易鄭氏義
第 318・320 冊	周易荀氏九家義
第 321・322 冊	易義別錄
第 322・323 冊	五經異義疏證（補鈔あり）
第 323 冊	左海經辨（補鈔あり）
第 324・328 冊	左海文集
	鑑止水齋集
	爾雅義疏



第 328・329 冊

第 330・332 冊

第 333 冊

春秋左傳補注

春秋公羊經何氏釋例

公羊何氏解詁箋

發墨守評

穀梁癸疾申何

第 334 冊

左氏春秋考證

箴膏肓評

論語述何

第 334・335 冊

燕寢考

研六室雜著

第 335・337 冊

春秋異文箋（補鈔あり）

第 338 冊

寶璧齋札記（補鈔あり）

寶璧齋文集（補鈔あり）

第 339 冊

夏小正疏義

第 340 冊

秋槎雜記

吾亦廬稿

第 341 冊

論語偶記

經書算學天文攷

第 341・342 冊

四書釋地辨證

第342  
〜347冊

毛詩紬義

第347冊

公羊禮說

第348冊

禮說

第349冊

孝經義疏

第349・  
350冊

經傳攷證

第350冊

璧齋遺稿

第351冊

說緯

第352  
〜362冊

經義叢鈔

第362  
〜364冊

國朝（馮教授）石經攷異

第364・  
365冊

三家詩異文疏證

「長崎 關萱□□」「明新館文庫」「□對」「山形縣南村山郡立圖書館」印

十  
小學類

說文解字（眞本） 十五卷 6冊

（漢）許慎撰（宋）徐鉉等奉勅校定

汲古閣藏板（北宋本校刊）（姑蘇萃古齋書房發兌印）

卷末「後學毛晉從宋本校刊 男辰再校」

表紙「說文眞本 6冊／文化庚午季冬購／俟之亭俟之亭  
臧？記」 墨書及印

「□□□本」藏書記「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

廣金石韻府 存首卷 1冊

(版心生白堂) 用康熙九年刊本翻刻(和刻本)

「明新館」「山形縣南村山郡立圖書館」「市村藏書」他小印2(未讀)

康熙字典 十二集首一卷・41冊 字母切韻要法・補遺・備考各一卷附字典琢屑・字典初學索引各一卷

(清) 凌紹雯等奉勅撰 (字) 都賀庭鐘等增訂

安永九年平安風月莊左衛門等十一書林刊

刊記の後に「早見書狀大全」等の広告あり(表紙に天保十四年西光寺等の文書反古用いる)

「天輔館藏」「山形縣南村山郡立圖書館」印

## 史部

### 一 正史類

後漢書 百二十卷（九十卷志三十卷 序目一卷 帝紀十二卷 志三十卷 列伝八十卷） 61冊

（宋）范曄撰（唐）章懷太子李賢註

用大德九年寧國路儒學刊本 京都二条通御用御書物所吉田四郎右衛門刊

「明新館藏本」の墨書あり（第3冊裏表紙内側）

「天輔館藏」「山形縣南村山郡立圖書館」印

三國志 六十五卷 40冊

（晉）陳壽撰（宋）裴松之註（明）陳仁錫評

寛文十年浪華書林澁川清右衛門・松村九兵衛用天啓丙寅序本翻刻刊

裏表紙「明新館藏」墨書あり

「明新館文庫」印

晉書 百三十卷 52冊 附音義上中下三卷 1冊

（唐）太宗皇帝勅撰（日本）志村楨幹等句讀

元祿十五年用南京國子監校刊大明萬曆十年重修晉書本 皇都書林風月莊左衛門・横江岩之助刊

〔版心〕元禄辛巳年 松会堂 〔元禄壬午年〕

〔江都芝神明前於岡田屋御買上相成〕「天輔館藏之」墨書（第三册末）あり

〔天輔館藏〕「山形縣南村山郡立圖書館」印

宋書 百卷 二帙 16册

〔梁〕沈約撰

清刊〔皇明崇禎七年歲在闕逢闍茂余月八日琴川毛氏開雕本〕重刻

目錄及び卷一首「琴川毛鳳營氏審定宋本」

版心「汲古閣／毛氏正本」〔部分〕

〔明新館文庫〕「山形縣南村山郡立圖書館」印

南齊書 五十九卷 一帙 8册

〔梁〕蕭子顯撰

清刊〔用皇明崇禎十年歲在強圉赤奮若陽月望日琴川毛氏開雕本重刻〕

〔琴川毛氏鳳營氏審定宋本〕

卷末刊記「崇文院／嘉祐六年八月十一日／勅節文宋書齊書梁書陳書後魏書北齊書後周／書見今國子監竝未有印本  
宜令三館秘閣見編／校書籍官員精加校勘同與管勾使臣選擇楷書／如法書寫板樣依唐書例逐旋封送杭州開板／治平  
二年六月 日」

版心「汲古閣 毛氏正本」〔部分〕

〔明新館文庫〕「山形縣南村山郡立圖書館」印



北齊書 五十卷 一帙 6冊（『南齊書』合帙）

（唐）李百藥奉勅撰

清順治一〇年修刊（用「皇明崇禎十有一年歲在著雍攝提格夏五日琴川毛氏開雕」汲古閣本趙氏重刻本）  
「琴川毛鳳營氏審定宋本」「古吳書業趙氏重鐫」  
版心「汲古閣／毛氏正本」（部分）

「明新館文庫」印

梁書 五十六卷 一帙 8冊

（唐）姚思廉奉勅撰

清刊（用崇禎六年汲古閣本古吳書業趙氏重刻）

卷一卷首「古吳書業趙氏重鐫」

版心「汲古閣 毛氏正本」（部分）

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

魏書 百十四卷 三帙 24冊

（北齊）魏收撰

清刊（用「皇明崇禎九年歲在柔兆困敦皐月端午琴川毛氏開雕」汲古閣本重刻刊）  
版心「汲古閣 毛氏正本」（部分）

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

隋書 八十五卷 25冊

(唐) 魏徵等奉勅撰 (日) 牧野古愚校點

天保甲辰十五(弘化元)年高松藩(用萬曆原本)高松藏板講道館刊  
版心「萬曆二十六年刊」

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

南史 八十卷 二帙 12冊

(唐) 李延壽撰

清刊(用「皇明崇禎十有三年歲在上章執徐十一月上弦琴川毛氏開雕」汲古閣本趙氏重刻刊)  
卷一卷首「古吳書業趙氏重鐫」「琴川毛鳳營氏□□宋本」刊記 版心「汲古閣 毛氏正本」

「明新館文庫」印

北史 百卷 三帙 24冊

(唐) 李延壽撰

清刊(用「皇明崇禎十有二年歲在屠維單閼玄月重九琴川毛氏開雕」汲古閣本趙氏重刻本)  
卷三卷首「琴川毛鳳營氏審定宋本」「古吳書業趙氏重鐫」版心「汲古閣 毛氏正本」(部分)

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

(新) 唐書 二百二十五卷 48冊

(宋) 歐陽脩等奉勅撰

倣毛鳳營審定宋本 (後印、乾隆以前 弘字欠筆なし)

〔天輔館藏〕〔□□齋藏書記〕〔山形県南村山郡立圖書館〕印

五代史 七十四卷 15冊

(宋) 歐陽脩撰・徐無黨注 (明) 楊慎評・鍾名臣訂 (日本) 堀正脩校

安永二年刻 文化十年補刻 江戸前川六左衛門等三都書房八書林刊

〔天輔館藏〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

(新刻校正) 史記評林 百三十卷 50冊

(明) 吳興 凌稚隆輯校・溫陵 李光縉增補

寛文十年新刻・天明六年再彫・寛政四年補鐫 広華堂藏板、大坂書林・伊藤七郎兵衛・森田伝兵衛・松村九兵衛  
(八尾甚四郎友春梓行本) (版心…天明丙午再刊・八尾友春)

〔明新館文庫〕印〔紀元二千五百三拾一年／史記序目録／明新館文庫〕墨記あり

漢書評林 百卷 首一卷 50冊

(明) 凌稚隆輯校

明暦三年 書坊林和泉掾板行（松柏堂時元）

「学校典籍云々」墨書あり

「天輔館藏」「山形縣南村山郡立圖書館」印

二 編年類

\*資治通鑑 存47冊（卷二百一～二百九十四）

（宋）司馬光奉勅撰（元）胡三省音註（津藩）石川襲・土井有恪校

天保丙申七年津藩有造館藏版 京都勝村治右衛門他十書林刊（製本師本屋佐兵衛）

勝村治右衛門他刊（後印）

「上山私立明新館之印」印

資治通鑑 二百九十四卷 148冊

（宋）司馬光奉勅撰（元）胡三省音註（津藩）石川襲・土井有恪校

天保丙申七年津藩有造館藏版 京都勝村治右衛門他十書林刊（製本師本屋佐兵衛）

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

宋元通鑑 百五十七卷 48冊

（明）薛應旂撰 陳仁錫評閱（日本）藤森天山等校訂

元治元年江戸玉巖堂和泉屋金右衛門刊 京都出雲寺文治郎等二十書林（発）

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

鼎鏤趙田了凡袁先生編纂古本歴史大方綱鑑補 三十九卷 首一卷 20冊

（宋）劉恕外紀 金履祥前編 （明）袁黃編 （日本）鵜（飼）信之訓點

寛文三年用余象斗刊本浪華書房・河内屋太助刊（江戸須原屋茂兵衛等十二書肆発行・大阪河内屋喜兵衛・同和助板行）

「明新館文庫」「第七大学区第八中学区明新小学校」「洋林」「山形縣南村山郡立圖書館」印「上ノ山明新学

校」墨書

（尺木堂）綱鑑易知録 九十二卷首一卷 48冊（明紀十五卷を含む）

（清）周之炯・呉乘權・周之燦輯 （日本）筱崎槩校

嘉永四年浪華・文榮堂積玉圃・文金堂 大阪河内屋源七郎板 江戸須原屋茂兵衛等十書林（発行）

大尾後「浪華書林前川文榮堂藏版書目心齋橋通：河内屋源七郎」の広告あり

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

（尺木堂）明鑑易知録 十五卷 7冊

朱國標 （清）周之炯・呉乘權・周之燦 輯 （浪華）筱崎槩校

嘉永二年？浪華・文榮堂・積玉圃・文金堂・江戸須原屋茂兵衛等十二書肆発行（大阪・河内屋喜兵衛板）



「明新館文庫」印

(東萊先生音註) 唐鑑 二十四卷 6冊

(宋) 范祖禹撰・呂祖謙音註

寛文九年京師・風月莊左衛門刊

「明新館文庫」印

### 三 紀事本末類

明朝紀事本末 八十卷 30冊

(清) 谷應泰撰 男際科・際第訂 (日本) 安積信校

天保十四年二本松敬学館藏版弘化三年京都勝村治右衛門等五書肆發行

「栗園氏所藏」墨記、「字子瓶」「明新館文庫」印

### 四 古史類

(春秋外傳) 國語定本 二十一卷 6冊

(吳) 韋昭注 (宋) 宋庠補音 (尾張) 秦鼎定本

嘉永七年浪華柳原積玉圃・江戸須原屋茂兵衛等九書林發行

「明新館文庫」印

五 別史類

宋史新編 目錄一卷・二百卷 62冊 (第23・32・33欠冊)

(明) 柯維騏撰

天保六年江戸須原屋茂兵衛・京都吉野屋仁兵衛他四書林刊(發行)

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

\* (校訂標註) 十八史畧讀本 七卷 (元) 曾先之編 (明) 陳殷 (日) 三島毅校閱・岡千仞閱・今井匡之校訂

明治二十四年盛松館井瀾堂 上総國能勢嘉左衛門刊 (彫刻・印刷 東京江川仙太郎)

「山形縣南村山郡上山尋常高等小學校」印

(立齋先生標題解註音釋) 十八史畧 七卷 7冊 (元) 曾先之編 (明) 陳殷音釋 王逢点校・何景春捐俸刊

元治元年書肆江戸岡田屋嘉七郎等四肆 (京菱屋孫兵衛印) 刊

「明新館文庫」「明新校印」印

(立齋先生標題解註音釋) 十八史畧 存1冊 (卷三)

(元) 曾先之編 (明) 陳殷音釋

江戸刊本

「明新館文庫」印

八 詔令奏議類

歷代名臣奏議 (初編) 三十一卷 20冊

(明) 楊士奇等奉勅撰 張溥刪正

文久三年長門明倫館藏藏版京都出雲寺松栢堂刊

版心「東觀閣」

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

九 傳記類

歷代名臣言行錄 二十四卷 36冊

涪村 朱桓編輯 荆溪 潘永季校定

嘉慶丁巳二年蔚齋藏板刊

(内廷上覧 刊行の経緯跋文あり)

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

十一 地理類

\*瀛環志略 十卷 10冊

(清) 徐繼畲撰・陳慶偕・鹿澤長參訂・崔明高採譯 (日) 井上春洋・森荻園・三守柳圃訓點  
文久辛酉元年阿陽対帽閣藏梓京都出雪寺文次郎等(五書林)(売弘) 書林  
版心「対帽閣藏」

「山形縣南村山郡立圖書館」印

\*地理全志 上篇五卷 5冊 下篇十卷 5冊

(英國) 慕維簾撰

安政己未六年爽快樓藏版 京都・勝村 治右衛門等十一書林發行(日本橋通・山城屋佐兵衛梓)  
版心「爽快樓藏」

「山形縣南村山郡立圖書館」印

十二 職官類

福惠全書 三十二卷 18冊

(清) 黃六鴻撰 (日本) 小畑行簡訓譯

嘉永三年用種書堂本詩山堂藏梓

卷末に「是書成於甲戌之孟冬、梓於己卯歲之仲夏、計頁凡柒佰陸拾壹、字凡貳拾柒萬叁仟玖佰叁拾寫刻精工校讐詳覈、無一字潦草訛脫、誠恐四方壘利奸徒私竊翻刻、紙板粗惡、字蹟模糊舛錯以贗亂眞、令觀者難以入目、如有此輩懇乞、當道大人縉紳先生維持風教、共彰公瘡并賜聞金陵本堂立馳鳴究、啣戢無既種書堂謹啓 福惠全書四六稟啓附終」とある。

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

### 十三 政書類

救荒活民書 十二卷 二帙 12冊

(宋) 董煟撰 (元) 張光大增 (明) 朱熊補・王崇慶釋・顧雲程校  
清道光丙申十六?年江氏校刊

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

(官版) 萬國公法 四卷 6冊

(美國) 惠頓 (ホイートン) 撰 丁韞良等訳

慶應元年 (用同治三年京都崇實館存板本) 開成所繕刻

卷末「老皂館発兌書目 (元治甲子年東都萬屋兵四郎)」あり

(笠井助治氏『近世藩校に於ける出版書の研究』、吉川弘文館、昭和三十七年、P27掲載本)

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印



## 子部

### 二 儒家類

\*荀子增注 二十卷 存9冊（欠卷十九・二十 1冊） 補遺1冊

（唐）楊倞注（信州）久保愛增注（遠州）土屋型重訂（上州）山世璠正編

江戸・須原屋茂兵衛等十三書肆發行（大阪河内屋喜兵衛板補遺）

「閑雅亭」「渡邊藏書」「山形縣南村山郡立圖書館」印

貞觀政要 十卷 10冊

（唐）吳兢撰（元）戈直集論

文政六年南紀學習館藏版 江戸須原屋茂兵衛・大阪敦賀屋九兵衛・紀州総田屋平右衛門・同帶屋伊兵衛發行

「清風館藏書印」印

\*（標英）小學定本 四卷 存3冊（卷一欠）

（清）饒順卿評釋（日）岡本敏校訂

明治十三年 北畠茂兵衛刊

「明新校印」「山形縣南村山郡上山尋常高等小學校」印

三 兵家類

(增訂) 武經(七書)直解 七書十二卷 7冊

(明) 劉寅編 張居正增訂

孫子十家註

吳子直解二卷

司馬直解三卷

三畧直解三卷

尉繚子直解五卷

唐太宗李衛公問對直解三卷

三略直解

六韜直解

寬永廿年(用錢塘翁鴻業重校本)二條通澤田庄左衛門新刊

〔明新館文庫〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

六 醫家類

\*本草綱目 序目一卷・本文五十二卷(卷四十三・四十四欠) 35冊・圖二卷(卷八・五十二) 結髦居別集四卷 2冊・本草

圖(翼)四卷 2冊

(明) 李時珍撰 (日本) 稻若水校閱

正徳四年／甲午／癸巳序 書林含英豫章両堂藏板刊

「田？直印」「山形縣南村山郡立圖書館」印

十一 類書類

〔宋槧〕太平御覽 千卷經史圖書綱目一卷 150冊 目十五卷 3冊舉譌全十三卷附覆校舉譌

〔宋〕李昉等奉勅撰（挙）田口文之編（覆）喜多村直寛編

安政乙卯二年文久元年用金澤文庫本江都喜多邨氏直寛學訓堂聚珍版本活字刊（岡崎中根鳳督刊）（林煒序・中島

彭書・邨嘉平刻）〔金澤文庫〕模刻印あり

〔恒〕欠画あり 版心下「趙祖」「王正」（卷九百五十五）刻工名翻印

〔清風館藏書印〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

幼學須知便讀故事 上中下三卷 3冊（明）程登吉撰

南明（清）楊瑞卿刊（用劉子文刊本）

〔封面〕「四知堂幼學須知直解」

〔明新館文庫〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

淵鑑類函 四百五十卷 198冊（卷百三十・百三十一 1冊欠） 目錄四卷 1冊

〔清〕張英等奉勅編

康熙四十九年御製序刊（「御定淵鑑類函奉旨刷印頒行／板藏清吟堂」）

「明新館文庫」印

「新刻重校增補」圓機活法

新刻重校增補圓機活法詩學全書 二十四卷 14冊

王世貞校正 楊淙參閱

明曆二年用萬曆年序唐謙刊本（雨花齋藏板）翻刻刊（但、天明二年購版刊本と思われる）

版心「八尾友？」

「明新館文庫」印

新刊校正增補圓機詩韻活法全書 十四卷 6冊 王世貞增校

天明二年購板 京師植村藤右衛門 東都須原茂兵衛 尾陽片埜東四郎 攝都高橋平助梓

版心「八尾友春」

卷末「浪速書舗田中宋榮堂藏板目錄 秋田屋太右衛門」広告あり

「明新館文庫」印

五車韻瑞 百六十卷 25冊

（呉興）凌稚隆編輯

用萬曆辛卯序本翻刻刊（後跋―菊池耕斎勲）

刊記なし（和刻本）

「天輔館藏」「山形縣南村山郡立圖書館」印

十二 小説家

（謝肇淛）塵餘 上下四卷 2冊

（明）謝肇淛撰（日本）皆川淇園校訂

文政元年皇都菱屋孫兵衛（五車樓）刊

十四 道家類

（澗水宇先生考訂）王注老子道德經 上下二卷 2冊

（魏）山陽王弼註（唐）蘇州陸德明音義（日本）南總宇佐美恵考訂

明和7年東都書林須原屋茂兵衛・須原屋平助刊

（江都書肆千鍾堂・花説堂）

「天輔館藏」「山形縣南村山郡立圖書館」印



## 集部

### 二 別集類

〔分類補註〕李太白詩 二十五卷 10冊

〔唐〕李白撰 〔宋・舂陵〕楊齊賢集註 〔元・章貢〕蕭士贇補註 〔明・長洲〕許自昌校 〔日本〕山脇重顯校点  
延寶七年開板

〔明新館文庫〕〔訥齋藏書〕印

〔重刻〕白氏長慶集 七十一卷目二卷 12冊 〔缺第4冊卷十五～卷十八〕

〔唐〕白居易撰 〔明〕馬元調校

用萬曆丙午序本 那波道圓後跋刊

〔明新館文庫〕〔山形県南村山郡立圖書館〕印

### 三 總集類

\*文選正文 十二卷 13冊

〔梁〕昭明太子蕭統編 〔日〕服部南郭句讀 片山世璠 〔兼山〕國讀 葛山壽校

風月堂 天明四年京師風月莊左衛門刊

版心「山子點」〔卷一第一葉〕

六臣註文選 六十卷 61冊

(梁) 昭明太子蕭統撰 (唐) 李善·呂延濟·劉良·張銑·呂向·李周翰註  
寬文二年書堂(洛陽) 野田庄右衛門重周·(同) 八尾勘兵衛友久刊

「天輔館藏」印

漢魏六朝一百三名家集(漢魏六朝百名家集) 十帙80冊

(明) 張溥編

清初刊(叙) 賈長沙集第二十六葉補鈔)

第1冊 賈長沙集一卷

(漢) 賈誼

第1冊 司馬文園集一卷

(漢) 司馬相如

第1・2冊 董膠西集一卷

(漢) 董仲舒

第2冊 東方大中集(東方朔集) 一卷

(漢) 東方朔

第3冊 褚先生集一卷

(漢) 褚少孫

第4冊 王諫議集一卷

(漢) 王褒

第4・5冊 劉中壘集(劉子政集) 一卷

(漢) 劉向

第5冊 揚侍郎集一卷

(漢) 楊雄(揚雄)

第6冊 劉子駿集一卷

(漢) 劉歆

第6冊 馮曲陽集一卷

(漢) 馮衍

第7册	班蘭臺集一卷	(漢)	班固
第8册	崔亭伯集一卷	(漢)	崔駰
第8・9册	張河閒集二卷	(漢)	張衡
第9册	李蘭臺集(李伯仁集)一卷	(漢)	李尤
第10册	馬季長集一卷	(漢)	馬融
第10册	荀侍中集一卷	(漢)	荀悅
第11・12册	蔡中郎集二卷	(漢)	蔡邕
第12册	王叔師集一卷	(漢)	王逸
第13册	孔少府集一卷	(漢)	孔融
第13册	諸葛丞相集一卷	(漢)	諸葛亮
第14册	魏武帝集一卷	(魏)	曹操
第15册	魏文帝集二卷	(魏)	曹丕
第16・17册	陳思王集二卷	(魏)	曹植
第18册	陳記室集一卷	(魏)	陳琳
第18册	王侍中集一卷	(魏)	王粲
第19册	阮元瑜集一卷	(魏)	阮瑀
第19册	劉公幹集一卷	(魏)	劉楨
第19册	應德璉集一卷	(魏)	應瑒
第19册	應休璉集一卷	(魏)	應璩

第20册	阮步兵集一卷	(魏) 阮籍
第21册	嵇中散集一卷	(魏) 嵇康
第22册	鍾司徒集一卷	(魏) 鍾會
第22册	杜征南集一卷	(晉) 杜預
第23册	荀公曾集一卷	(晉) 荀勗
第23・24册	傅鶡觚集一卷	(晉) 傅玄
第25册	張茂先集一卷	(晉) 張華
第26册	孫馮翌集(孫子荊集)一卷	(晉) 孫楚
第26册	摯太常集一卷	(晉) 摯虞
第27册	束廣微集(東陽平集)一卷	(晉) 束皙
第27册	夏侯常侍集一卷	(晉) 夏侯湛
第28册	潘黃門集一卷	(晉) 潘岳
第29册	傅中丞集一卷	(晉) 傅咸
第29册	潘太常集一卷	(晉) 潘尼
第30・31册	陸平原集二卷	(晉) 陸機
第32・33册	陸清河集二卷	(晉) 陸雲
第34册	成公子安集一卷	(晉) 成公綏
第34册	張孟陽集一卷	(晉) 張載
第34册	張景陽集一卷	(晉) 張協

第35册	劉越石集一卷	(晉) 劉琨
第35・36册	郭弘農集二卷	(晉) 郭璞
第37・38册	王右軍集二卷	(晉) 王羲之
第39册	王大令集一卷	(晉) 王獻之
第39册	孫廷尉集一卷	(晉) 孫綽
第40册	陶彭澤集一卷	(晉) 陶潛
第41册	何衡陽集一卷	(宋) 何承天
第41册	傅光祿集一卷	(宋) 傅亮
第42册	謝康樂集二卷	(宋) 謝靈運
第43册	顏光祿集一卷	(宋) 顏延之
第44册	鮑參軍集二卷	(宋) 鮑照
第45册	袁陽源集(袁忠憲集)一卷	(宋) 袁淑
第45册	謝法曹集一卷	(宋) 謝惠連
第45册	謝光祿集一卷	(宋) 謝莊
第46册	竟陵王集(蕭竟陵集)二卷	(齊) 蕭子良
第47册	王文憲集一卷	(齊) 王儉
第47册	王寧朔集一卷	(齊) 王融
第48册	謝宣城集一卷	(齊) 謝朓
第49册	張長史集一卷	(齊) 張融

第49册	孔詹事集一卷	(齊) 孔稚珪
第50・51册	梁武帝(御製)集一卷	(梁) 蕭衍
第52册	梁昭明太子集一卷	(梁) 蕭統
第53・55册	梁簡文帝(御製)集二卷	(梁) 蕭綱
第56・57册	梁元帝集八卷	(梁) 蕭繹
第58・59册	江醴陵集二卷	(梁) 江淹
第60・61册	沈隱侯集二卷	(梁) 沈約
第62册	陶隱居集一卷	(梁) 陶弘景
第62册	丘中郎集(丘司空集)一卷	(梁) 丘遲
第63册	任中丞集(任彥升集)一卷	(梁) 任昉
第64册	王左丞集一卷	(梁) 王僧孺
第64册	陸太常集一卷	(梁) 陸倕
第65册	劉戶曹集一卷	(梁) 劉峻
第65册	王詹事集一卷	(梁) 王筠
第66册	劉祕書集一卷	(梁) 劉孝綽
第66册	劉豫章集一卷	(梁) 劉潛
第66册	劉庶子集(劉中山集)一卷	(梁) 劉孝威
第67册	庾度支集一卷	(梁) 庾肩吾
第67册	何記室集一卷	(梁) 何遜



第68冊	吳朝請集一卷	(梁) 吳均
第68冊	陳後主集一卷	(陳) 陳叔寶
第69・70冊	徐僕射集一卷	(陳) 徐陵
第70冊	沈侍中集一卷	(陳) 沈炯
第71冊	江令君集一卷	(陳) 江總
第72冊	張散騎集一卷	(陳) 張正見
第72冊	高令公集一卷	(後魏) 高允
第72冊	溫侍讀集一卷	(後魏) 溫子昇
第73冊	邢特進集一卷	(齊) 邢邵
第73冊	魏特進集一卷	(齊) 魏收
第74・76冊	庾開府集二卷	(周) 庾信
第77冊	王司空集一卷	(北周) 王褒
第77・78冊	隋煬帝集一卷	(隋) 楊廣
第79冊	盧武陽集一卷	(隋) 盧思道
第79冊	李懷州集一卷	(隋) 李德林
第80冊	牛奇章集一卷	(隋) 牛弘
第80冊	薛司隸集一卷	(隋) 薛道衡

□□方印・「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

(注) 韓柳集 唐韓昌黎集 四十卷 20冊 序1冊 目錄1冊 外集十卷附一卷2冊 叙說(附錄) 遺文一卷1冊

(唐) 韓愈撰 (明) 蔣之翹編注 (日本) 鵜飼信之點

萬治三年學山堂鏤板 江戸須原屋茂兵衛等十書林發行 (外集)

卷一卷末裏表紙裏朱書あり 封面「韓柳全集」 版心「三徑藏書」

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

唐柳河東集 (柳文) 四十五卷 23冊 遺文一卷附一卷外集二卷1冊 (韓柳集合刻本)

(唐) 柳宗元撰 (日本) 鵜飼信之 (石齋) 訓點

江戸寛文四年

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

宋文鑑 百五十卷 17冊

(宋) 呂祖謙編

明・正德十三年劉氏慎獨齋刊

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

(合刻) 三蘇先生文集 二十冊 老泉文十卷 3冊 東坡文四十卷 14冊 穎濱文十卷 3冊

(宋) 蘇氏洵・軾・轍撰 (明) 錢穀・茅坤・鍾惺 評

明刊本 「山形縣南村山郡立圖書館」「長崎海關管史檢明」他1印

## (叢書部)

# 準漢籍分類目錄

## 經部

\*左傳輯釋 二十五卷 21冊

(日南) 安井衡 (息軒) 撰 (彥根) 成瀬實伯功・澁谷啓子發校字  
明治四年彦根藩学校藏板刊

「山形縣南村山郡立圖書館」印

中庸發揮 上篇下篇 1冊

(日本) 洛陽 伊藤維楨 (仁齋) 述

正徳甲午四年京兆文泉堂刊

(版心：古義堂藏)

「明新館文庫」印

## 史部

戰國策正解 十卷 13冊

横田惟孝 著

文政十二年 後彫園藏 書林大坂・河内屋茂兵衛・江戸鴈金屋清吉(印)等 三都書林(群玉堂他) 六書肆刊

「明新館文庫」 「山形縣南村山郡立圖書館」 印

増補元明史略 四卷 4冊

(讃岐) 後藤世鈞 (芝山) 撰 (平安) 山本正臣 (清溪) 増補

萬延庚申元年京都書肆菱屋孫兵衛三刻 (皇都五車樓) 刊

卷末「皇都書肆五車樓藏版畧書目・京御幸町御池下ル菱屋孫兵衛」 目錄アリ

「明新館文庫」 「蒲生主松田氏藏書印」 印

清三朝易知録 (清鑑易知録) 太祖二卷太宗八卷世祖六卷 8冊

(北筑) 邨山緯・(南部) 永根鉉編 永根錫校 永根奕孫再校

浪速・春星堂藏・江戸須原屋茂兵衛等 十書肆文化四年序發行 (大坂・河内屋源七郎板)

版心「伍石軒」

「明新館文庫」 「山形縣南村山郡立圖書館」 印

\* (畢洒林氏) 萬國公法 四卷 4冊

(オランダ) フィッセリング撰 (日) 西周助譯

慶應四年平安書館 竹苞樓瑞巖堂刊 江戸・山城屋佐兵衛等六書肆發行

「堀尾藏書」 「金子圖書館印」 印

## 子部

### 四 法家類

管子纂註 二十四卷 12冊

安井衡（息軒）撰

慶應元年江戸書林玉山堂發兌 京都・勝村治右衛門等十一書林發行（日本橋通・山城屋佐兵衛梓）

〔明新館文庫〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

### 六 醫家類

\*千金方藥註 全四卷 存二卷2冊（卷首一・卷二）（平安）松岡定菴撰 男景文校

平安書肆 竹苞樓橘枝堂刊

〔盛□院藏書記〕〔盛□院〕印

\*本草綱目物品目錄 上下二卷 2冊（東都）後藤光生（黎春）撰

寶曆二年東都鶴本平藏（常春）梓行（東都望雲堂常春藏版）

（版心：鶴本常春）

## 集部

〔官板〕唐宋八家文讀本 全三十卷・存十冊（卷十一～三十）

〔清〕沈德潛評點

日本文化十一年刊

卷十一表紙裏〔唐宋八大家文讀本／明新館 図書〕墨書

〔明新館文庫〕印

續唐宋八家文讀本 十八卷 12冊

〔日本〕村瀬季徳編（越前）柴田清堅校正

文政九年跋刊

〔江都〕矢島三友謄書・江川八左衛門剗刷

〔明新館文庫〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印



# 和書分類目錄

000 總記

和漢三才圖會 百五卷 首卷一卷・小目錄一卷 81冊

攝陽 寺島良安編

書肆・岡田三郎右衛門・鳥飼市兵衛・澁川清右衛門・松村九兵衛・大野木市兵衛刊（正徳乙未五年追加跋本）

卷一 天文 卷二 二十八宿 卷三 天象 卷四 時候 卷五 曆占 卷六 曆日吉凶 卷七 人倫 卷八 親族 卷九 官位 卷十 人倫之用 卷十一 經絡 卷十二 支牀 卷十三 異國人物 卷十四 外夷人物 卷十五 藝財 卷十六 藝能 卷十七 嬉戲類 卷十八 樂器 卷十九 神祭佛具 卷二十・二十一 兵器 卷二十二 刑罰具 卷二十三 漁獵具 卷二十四 百工具 卷二十五 容飾具 卷二十六 服玩具 卷二十七 絹布 卷二十八 衣服 卷二十九 冠帽 卷三十 履襪 卷三十一 庖厨具 卷三十二 家飾具 卷三十三 車駕具 卷三十四 船橋類 卷三十五 農具 卷三十六 女工具 卷三十七 畜類 卷三十八 獸類 卷三十九 鼠類 卷四十 寓類 卷四十一 水禽 卷四十二 原禽 卷四十三 林禽 卷四十四 山禽 卷四十五 龍蛇類 卷四十六 介甲 卷四十七 介貝 卷四十八 有鱗魚河湖 卷四十九 有鱗魚江海 卷五十 無鱗魚河湖 卷五十一 無鱗魚江海 卷五十二 卵生蟲 卷五十三 化生蟲 卷五十四 濕生蟲 卷五十五 土地類 卷五十六 山類 卷五十七 水類 卷五十八 火類 卷五十九 金類 卷六十 玉石類 卷六十一 雜石類 卷六十二 中華 北京 南京 山東 山西 河南 陝西 湖廣 卷六十三 中華 江西 浙江 福建 廣東 廣西 貴州 四川 雲南 卷六十四 日本總

圖 朝鮮 琉球 蝦夷 西域 五天竺 北地諸狄 西南諸蠻 卷六十五 陸奥 出羽 卷六十六 上野 下野 常  
陸 上總 下總 安房 卷六十七 武藏 相模 伊豆 卷六十八 越後 佐渡 越中 信濃 卷六十九 甲斐 駿  
河 遠江 參河 卷七十 能登 加賀 越前 飛驒 美濃 卷七十一 若狹 近江 尾張 伊勢 志摩 伊賀 卷  
七十二 山城 卷七十三 大和 卷七十四 攝津 卷七十五 河内 卷七十六 和泉 紀伊 淡路 卷七十七 丹  
波 丹後 但馬 播磨 因幡 卷七十八 美作 伯耆 出雲 隱岐 備前 備中 備後 卷七十九 阿波 土佐  
讃岐 伊豫 安藝 石見 周防 長門 卷八十 豐前 豐後 筑前 筑後 日向 肥後 大隅 薩摩 肥前 壱  
岐 對馬 卷八十一 家宅類 卷八十二 香木類 卷八十三 喬木類 卷八十四 灌木類 卷八十五 寓木 卷  
八十六 五果類 卷八十七 山果類 卷八十八 夷果類 卷八十九 味果類 卷九十 蓴果類 卷九十一 水果類  
卷九十二 山草 卷九十三 芳草類 卷九十四 湿草類 卷九十五 毒草類 卷九十六 蔓草類 卷九十七 水草  
類 卷九十八 石草類 卷九十九 葷草類 卷百 蓴菜類 卷百一 芝栴類 卷百二 柔滑菜 卷百三 穀類 卷  
百四 菽豆類 卷百五 造釀 總目錄

〔天輔館藏〕印

古史成文 三卷 3册

平田篤胤記

文政六年序刊本

卷末「伊吹迺屋先生及門人著述刻成之書目 塾藏版」一葉

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

古史傳 二十四卷 24冊

平田篤胤撰 男鉄胤・孫延胤続攷

刊本

卷末「伊吹迺屋先生及門人著述刻成之書目 塾藏版」(一葉)・「木邨房義」彫工

「明新館文庫」「山形縣立南村山郡立圖書館」印

西國立志編(自助論) 十三編 11冊

(英国) スマイルズ 斯邁爾斯撰 中村正直訳

明治庚午3年 駿河静岡藩 木村謙一郎藏版 東京須原屋茂兵衛等七書肆

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

\*一休(禪師) 一代記圖會 存二・三・四・五編 4冊

京都 出雲寺等書林發行

\*萬國史記 二十卷 10冊

(阿波) 岡本監輔撰 (東京) 中村正直閱

明治十二年岡本氏藏版 東京内外兵事新聞局等六書肆發兌

〔渡邊藏書〕〔閑雅亭〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕〔博交社章〕印

古事記傳 目錄中下 2冊(上册欠) 四十四卷 43冊・附一卷 2冊(欠卷五・六 2冊↓上山城?)

本居宣長撰

天保十五年尾張永樂屋東四郎・江戸同出店刊(再校) 須原屋茂兵衛等十三書林發行

刊記後に板元・尾州永樂屋東四郎「萬葉集畧解」等広告文あり 目錄刊記「文化五年辰五日鈴乃屋藏板」

〔明新館文庫〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

日本文德天皇實錄 十卷 10冊

藤原基經等奉勅撰

寛政八年校訂新彫(寶永六丑季春吉辰御書物屋 天明八申歲焼失) 江戸須原屋茂兵衛等九書肆刊

〔内?越氏藏書印〕〔明新館文庫〕〔林〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

\*敵討駒ヶ池雲水録 十五卷 2冊

江戸写本

(小林孝藏氏本?)

讀史餘論 十二卷 12冊

新井君美撰 萩原裕(英助)校正

萬延庚申年菁莪塾開雕 江戸・山城屋佐兵衛・和泉屋金右兵衛門

卷末「邨嘉平刻」とあり

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

日本三代實錄 五十卷 20冊

藤原時平等奉勅撰 松下見林校

寛文十三年序 花洛書舗寺町林権兵衛刊

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

\*大日本史 二百四十三卷 首一卷目三卷 100冊

徳川光圀編・綱條・治保校

嘉永四年徳川齊昭跋刊

「明新館」「山形縣南村山郡立圖書館」印

日本外史 二十二卷存十七卷 17冊（首卷卷一・卷四・卷七・卷十二・卷十五欠）〔A〕

賴襄（山陽）撰 男賴元協・復・醇・門人後藤機校

大阪秋田屋太右衛門・河内屋記一兵衛刊（賴氏正本）

〔明新館「明新學校」（卷六）印「上山學校用之」「五番學區明新學校用是」墨記

日本外史 二十二卷 19冊（卷二・十六・十七各冊欠）〔B〕

〔清風館藏書印〕〔明新館文庫〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

\*日本政記 十六卷 16冊

賴襄撰

文久辛酉元年賴又次郎藏板 浪華・田中太右衛門・淺井吉兵衛・柳原喜兵衛刊 江戸須原屋茂兵衛等十二書林發刊

〔清風館藏書印〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

續撰清正記 七卷 7冊

長尾平兵衛開刊

〔明新館文庫〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

\*近代正說碎玉話（武將感狀記） 十卷 10冊

熊澤正興（淡庵子）編輯



三都書物問屋江戸須原屋茂兵衛等九肆刊

「明新館文庫」印

\*參河後風土記 存二十八冊（卷五・卷九・十五・卷十七・二十二・卷三十一・卷四十一・卷四十七・卷四十九）

写本

十三朝紀聞 七卷 7冊

安田（源）照矩撰（男）頼矩校

文久辛酉元年其親樓鐫藏活版刊

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

今日鈔 二卷 2冊

源照矩編稿（十三朝紀聞附録）

萬延庚申元年其親樓活版（印）

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

\*續國史畧 五卷 5冊

（松山）谷寬得撰（斗南）小笠原勝脩刪補

明治六年 東京柏悅堂梓 西京出雲寺文治郎等十書肆發兌

〈明新／明新館〉墨書

「上山學校」「山形縣南村山郡立圖書館」「山形縣南村山郡上山女？子尋常高等小學校之印」「山形縣南村山郡上山尋常高等小學校」印

\*續國史畧 後編 五卷 5冊

（會津）小笠原勝修撰・明治八年内野せん（柏悅堂）刊

「上山學校」「山形縣南村山郡上山尋常高等小學校」「山形縣南村山郡上山女？子尋常高等小學校之印」印

\*輿地誌略（初篇）三卷（二篇）卷四・五・六・七（三篇）卷八・九 全9冊

内田正雄 纂輯 辻士革・市川清流校 川上寛摸画 市川清流・寺内章明校（二篇）

明治七年（卷七） 甲府内藤傳右衛門發行（封面…山梨縣重版）

明治八年 修靜館内田正雄藏版（東京・紀伊國屋源兵衛發行）

版心「大學南校」（第1・2冊卷一～卷三）「文部省」（卷四～卷七）「修靜館」（卷八・九）

「上山學校」「山形縣南村山郡立上山尋常高等小學校」印

\*東京新繁昌記 二編 1冊・四編 1冊・五編 1冊

服部誠一撰

明治七年東京・山城屋政吉奎章閣刊

「明新學校」「明新館」印「不見此卷者未知开化之真情也 此主明新學校」等墨書

\*地理新編 總論之部 二卷 2冊

吉田興譯 福地萬世閱

明治五年東京英佛書林吉田屋吉田清兵衛刊

「金子圖書館印」「參河<sup>?</sup>書<sup>?</sup>印」印

300 社會科學

嚶鳴館遺草 六卷 6冊

天保乙未六年本館藏板刊

「明新館文庫」印

320 法律

律 名例律ノ斷獄律 十二卷 1冊

用金澤北條氏本轉写（延享元年谷繁遠 校書本）

「明新館文庫」印

律 律・令集解 1冊

写本

〔明新館文庫〕印

〔標注〕令義解校本 存開題一卷・卷一～卷三 5冊（初帙6冊内欠1冊）

〔長門〕近藤芳樹編

浪華書肆田中宋榮堂・岡田羣玉堂合梓

〔明新館文庫〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

類聚三代格 存卷一・三・五・七・八・十二 6冊

藤原冬嗣等奉勅撰

用文永三年越州刺史本轉写

〔明新館文庫〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

延喜式（考異） 五十卷 50冊 考異五十卷 8冊 附録上中下 3冊

藤原忠平等奉勅撰 源齊恒校

刊本

〔明新館文庫〕〔山形師範學校圖書印〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

明律國字解 十六卷 16冊

荻生徂徠（雙松）撰

木活字刊

〔明新館文庫〕〔山形縣南村山郡立圖書館〕印

370  
教 育

\*弘道館述義 上下二卷 2冊

藤田彪撰

慶應丙寅2年光霽樓 珍藏木活字刊

〔清風館藏書印〕印

\*撰定中學漢文 十卷 10冊

深井鑑一郎編

明治三十一年 東京・吉川半七排印刊

〔上山私立明新館之印〕〔山形縣南村山郡農學校之印〕〔山形縣南村山郡上山尋常高等小學校〕印

\*中等漢文讀本 十卷 10冊

國語漢文研究會編

東京 明治書院 明治三十四年排印刊

「上山私立明新館之印」 「山形縣南村山郡立農學校之印」 印 「南村山郡立農學校」ラベル貼付

\*中等漢文讀本 十卷 10冊

國語漢文研究會編 明治三十四年

東京・明治書院排印刊

「山形縣南村山郡立農學校之印」 「上山私立明新館之印」 印

(通俗) 伊蘇普物語 六卷 6冊

無盡藏書齋主人(渡邊溫) 譯述

明治八年渡邊溫刊(發行書肆・東京稻田佐兵衛)

「明新校印」 「山形縣南村山郡上山尋常高等小學校」 印

400 自然科學

500 技術



600 産業

700 藝術

\*白川賢侯御<sup>?</sup>茶記 (附会津侯執政田中…) 1冊

江戸写本

\*入木抄 1冊

写本 増<sup>?</sup>子姪写

表紙「青蓮院宮一品 尊圓親王□□名□之出」墨書

800 言語

廣益助語辞 (集例) 上中下三卷 6冊

(和州) 三好氏侶山子編

元祿七年二條通井筒屋六兵衛板刊

「雲山藏書」「天輔館藏」「山形縣南村山郡立圖書館」印

詞の玉緒 七卷 存6冊（第三冊卷三歛）

本居宣長撰

嘉永四年大坂書林・河内屋徳兵衛・近江屋平助補刻

「明治……明新学校」墨書（第6冊裏表紙）

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

草露貫珠 二十三卷 序人名1冊 20冊 拾遺 1冊（卷十二欠）

中村義竹編（水戸）岡谷義端集

正徳三年六角通書林多左衛門（書堂松雲齋・柳枝軒藏版）刊

卷末葉「彰考館訂本刊行目錄・洛陽柳枝軒方道藏板」版心「柳枝軒」

「明新館文庫」印

900 文學

金葉和歌集 十卷 1冊

江戸刊

「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」印

\*和歌分類 七卷 存28冊（第1冊卷首缺）

享和三年江戸須原屋茂兵衛・京勝村治右衛門・同須原屋平左衛門 再刻刊

「山形縣南村山郡立圖書館」印

新古今和歌集 上下 2冊

江戸刊

「明新館文庫」印

\*伊勢物語古意 六卷 6冊

賀茂真淵撰

刊本

「忠恕」「山形縣南村山郡立圖書館」印

黃葉夕陽村舎詩・文 正編詩十卷存3冊（存卷三～八）後編詩八卷 存3冊（存卷三～八）遺稿・附録 2冊（詩卷五～七）

卷・文卷一～二卷附録）・附録上下二卷 1冊

（備後）菅晉帥（茶山）礼卿撰 9冊

文化辛未八年跋（附録）・天保二年跋（詩・遺稿）

（後編）書林京都・河内屋藤四郎他九書林・大阪河内屋茂兵衛版刊（岡田群玉堂）

「明新館文庫」印

星巖先生遺稿 星巖詩存2冊 存(前編)(卷三、五)(卷六、八)

(三野) 梁(川) 孟緯撰 (江戸) 遠山澹雲如・(出雲) 松本龍尺木他校

「明新館文庫」印

(偶評) 續今體名家文抄 存2冊(卷一・四・五)

土居光華編選

明治十年九月東京・小林新造刊

「明治十年八月(二十七日) 明新館(明新學校)」墨記あり

「明新館文庫」印

## (5) 藩校明新館旧蔵稀覯本書誌

明新館文庫には、加賀藩のような外様大藩や大垣藩のような譜代大名家が所蔵するような真の意味での稀覯本はほとんど見当たらない。しかし、城主格以下の小大名にあつては無理を重ねて購入したと思われる明刊本があり、稀覯本に準ずるものとして以下にその幾つかを列挙する。ただし、「天輔館蔵」「明新館文庫」印がないものが大半で、本来の所蔵者、そして上山市立図書館に入庫した経緯について検証する必要がある。

### 十三経注疏 嘉慶三年 金閭書業堂重雕 汲古閣本（版心：汲古閣）白紙本<sup>(注一)</sup>

明末の崇禎年間に汲古閣毛氏が刻版した『十三経注疏』の版本（版本）を用いて、蘇州の書業堂が清の嘉慶三年に重刻した叢刻本。「重雕」とあるから重刻であろうが、或は、汲古閣の版本をそのまま利用して重印したようにも見える。儒教で重視される經典に注及び疏を付した書物十三種の叢刻本で、汲古閣版や先行する李元陽版の系統は、校勘の行き届いた阮元の『十三経注疏』が出てからは、傍系に追いやられたかもしれないが、その一方でなお重用もされていたのであろう。南部家盛岡藩の作人館などは、明代の李元陽版『十三経注疏』（東北大学蔵）を備えていたが、

（注一） 卷頭カラー図版No.⑧⑨  
及びモノクロ図版No.①②

それとは異なり、江戸後期の小藩でもこの種の清刊本が入手できる版本であったのであろう。以下に、各書の簡単な書誌を記す。

〔書 誌〕

『十三經注疏』の封面・序は『周易註疏』第一冊に付けられている。その順序は、

封面（十三經注疏）

周易注疏封面

十三經注疏序（9葉 張鳳翮序）

周易正義序（孔穎達 14葉）

と続いた後、「周易兼義上經乾伝卷第一」と『周易註疏』本文に入る。

（1）周易註疏（周易兼義）九卷 周易畧例（一卷、唐・邢璣）魏王弼註／（卷六ま

で王弼注）卷七以降ゝ九卷（晋）韓康伯註・唐孔穎達正義／

皇明崇禎六年汲古閣毛氏刊行

（全長）一六・六cm×二六・五cm （匡郭内）一一・七cm×一七・八cm

蔵書印：「天輔館藏」「山形縣南村山郡立圖書館」（1冊）、「明新館文庫」（2冊）、

「明新館文庫」「上山市立圖書館之印」（3冊）、「明新館文庫」（4・5冊）、

印なし（6冊）



(2) 尚書註疏(尚書正義) 二十卷 10冊(漢) 孔安國伝(唐) 孔穎達疏  
崇禎五年本

(全長) 一六・六cm×二六・五cm (匡郭内) 一一・八cm×一七・六cm  
藏書印…「天輔館藏」「山形縣南村山郡立圖書館」「明新館文庫」

(3) 毛詩註疏 二十卷(卷十五欠卷) 19冊(漢) 毛亨伝(漢) 鄭氏箋(唐) 孔穎達疏  
「皇明崇禎三年季歲在上章牂古虞毛氏繡鐫」  
藏書印…「明新館文庫」(2冊目)

(4) 周礼註疏 四十二卷 20冊(漢) 鄭玄註(唐) 賈公彥疏  
崇禎改元年本

藏書印…「天輔館藏」「山形縣南村山郡立圖書館」

(5) 儀礼註疏 十七卷 14冊(漢) 鄭玄註(唐) 賈公彥疏  
崇禎九年汲古閣本

(全長) 一六・五cm×二六・五cm (匡郭内) 一一・九cm×一七・八cm  
藏書印…「天輔館藏」「山形縣南村山郡立圖書館」

(6) 礼記註疏(礼記正義) 六十三卷 30冊(漢) 鄭玄註(唐) 孔穎達疏

崇禎12年毛氏本

(全長) 一六・六cm×二六・五cm (匡郭内) 一一・七cm×一七・六cm

(7) 春秋左傳註疏(春秋正義) 六十卷 30冊(晉) 杜預注 (唐) 孔穎達疏

崇禎11年汲古閣本

(「皇明崇禎11年季歲在□離攝提格古虞毛氏鐫」)

藏書印…「明新館文庫」

(8) 春秋公羊註疏 二十八卷 10冊 (漢) 何休學 闕名疏

崇禎7年汲古閣刊本 (全長) 一六・六cm×二六・六cm

藏書印…「明新館文庫」「上海市立圖書館之印」

(9) 春秋穀梁註疏 二十卷 5冊 (晉) 范甯集解 (唐) 楊士勛疏

(「皇明崇禎八年季歲在□蒙大淵猷古虞毛氏繡鐫」)

藏書印…「天輔館藏」「山形縣南村山郡立圖書館」

(10) 論語註疏解經 二十卷 4冊 (魏) 何晏集解 (宋) 邢昺疏

崇禎10年汲古閣毛氏本

藏書印…「天輔館藏」「明新館文庫」「山形縣南村山郡立圖書館」

(11) 爾雅註疏 十一卷 4冊 (晋) 郭璞註 (宋) 邢昺疏

「皇明崇禎改元歲在□離執徐？古虞毛氏繡鐫」

(12) 孟子註疏解經 十四卷 6冊 (漢) 趙岐注 (宋) 孫奭疏

崇禎6年汲古閣本 (「皇明崇禎六季歲在昭易作噩古虞毛氏繡鐫」)

(全長) 一六・五cm × 二六・六cm (匡郭内) 一一・八cm × 一七・五cm

なお、十三経の内、『孝経註疏』一種は欠本となっている。

太平御覧<sup>(注一)</sup> 千卷 150冊 安政二(文久元年刊) 全長 一七・五cm × 二五・八cm

北宋の太平興國年間に勅命で作られた類書の一つで、天部から百卉部<sup>ひやくき</sup>まで全55部の篇目に、関連する記事を書物から抜き出して配列したもの。

日本には、宋版の『太平御覧』は、残欠本を含めれば幾本が残る。そのうち、金沢文庫由来の宋版本を用いて、木活字によって翻刻した江戸木活字本刊本である。江戸後期当時、木活字本は前代に比べて比較的多い状況のように見えるが、それは西欧活字本が舶載されたことの影響があるのかもしれない。

(注二) 巻頭カラー図版No.⑪

〔書誌〕

第1冊

書題簽：「宋槧太平御覽 総目」（墨印刷）

封面 「太平御覽／／安政乙卯（2） 倣宋槧校江都／喜多邨氏字訓堂聚珍版」

序（5葉、安政三年大学頭林〔復斎〕（燐撰））

（中島彭書・邨嘉平刻）

太平御覽經史図書綱目（33葉）（「清風館藏書印」あり）

太平御覽總類（2葉）

太平御覽目錄第一（第一卷天部一／第四十八卷地部十三、14葉）

太平御覽目錄第二（13葉）

太平御覽目錄第三（15葉）

太平御覽目錄第四（13葉）

第2冊（総目）

太平御覽目錄卷「第五／第百九十八卷／封建部一」から

太平御覽目錄卷「第十／第七百四十三卷／疾病部六」まで

第3冊（総目）

太平御覽目錄卷「第十一／第七百四十四卷／工芸部一」から

太平御覽目錄卷「第十五／第一千卷／百卉部七」

第4冊

書題簽「宋槧太平御覽」(墨印刷)

本文題署…

太平御覽卷第一 /

翰林學士承宣正奉大夫守工部尚書知制誥上柱國隴西縣開國伯食邑 百戶賜紫金魚

袋臣李昉等奉／勅纂／天部一／元氣…」

第150冊卷尾題「太平御覽卷第一千」

跋(序) (李廷允跋、2葉) (「金澤文庫」模刻印あり、「岡崎中根鳳督刊」とある。

「聚珍版太平御覽叙」(江戸・喜多邨直寛撰、4葉) (「成斎鈴木清瀨書」「邨嘉平刻」とある)

版式…四周单边、無界、匡部内 一二・六cm×一八・三cm

版心…「太平御覽」 卷一一」

卷尾…「太平御覽第七」

「清風館藏書印」「山形縣南村山郡立圖書館」印あり。「清風館藏書印」朱印の後に「明新館文庫」印が捺される『日本外史』(嘉永元年刊、明新館文庫本)から見ると、清風館主は不明であるが、藩校に帰属して明新館文

庫に収められた蔵書の印であることは確かで、「清風館蔵書印」のある書籍は藩校本としてもよいと思われる。

## 宋文鑑<sup>(注三)</sup>

百五十卷 17冊 明正徳十三年<sup>(1518)</sup> 慎獨齋刊本 全長 二三・一cm × 一三・一cm

南宋時代、金華出身の儒学者呂祖謙（東萊先生）の編集による宋代の作品集。呂祖謙は名門官僚の家に生まれ、朱子らと交友関係にあった。他に、『東萊左氏博議』や『近思録』（朱子と共編）などがある。明代の正徳年間になると、官庁の委託を受けた市井の書肆が出版活動をより活発に開始したが、その中の一軒である劉氏慎獨齋は、主に正徳年間から出版に携わった書肆で、明後期の出版文化を支えた。本書は、寛政異学の禁などで朱子学が推進される中、上山藩でも宋学のために備え付けられた本であろう。

## 〔書誌〕

### 第1冊

書題「宋文鑑」（白字、墨書二通りあり）（一）…墨書

（封面なし）

宋朝文鑑序（前序）（7葉）

宋朝文鑑表（呂祖謙）（2葉）

（注三） 卷頭カラー図版No.14  
本書と同版と思われる版本（『大宋文鑑』慎獨齋刊）の総目刊記部分が『中国伝世文物収蔵鑑賞全書（古籍善本）』上（綫装書局、平成18年）第二章 p112に掲載される。

（注四） 方彦寿氏『建陽刻書史』（中国社会科学出版社、平成15年）第五章 p256参照。

新刊宋文鑑序（天順8年商輅）（4葉）

宋文鑑序（弘治甲子 七月丙辰 胡拱辰撰 4葉）

宋朝文鑑総目（9葉）（「皇明正德十三年慎獨齋鼎新刊行」木記あり）

大宋文鑑目錄上（呂祖謙）（第14、13葉誤綴）（43葉）（卷一卷尾「皇明正德戊寅

慎獨齋新刊行」刊記あり）

大宋文鑑目錄中（呂祖謙）（第卅七・卅八は1葉）（全43葉、版心：第四十四まで）

大宋文鑑目錄下（呂祖謙）（第十三・十四は1葉）（全40葉、版心：第四十一まで）

## 第2冊

卷首：「大宋文鑑卷第一」／朝奉郎……／官臣呂祖謙奉／聖旨詮次／賦類」

卷一卷尾に「皇明正德戊寅／慎獨齋新刊行」の刊記あり。

半葉12行・行25字、有界、四周双辺 改裝本（包背裝・緑紙）

版心：「宋朝文鑑百五十」 露布類  七五 一」（双下向黒魚尾）

匡郭内 一一・二cm × 一八・二cm

## 第17冊（最終冊）

卷首：「大宋文鑑卷第一百四十四／墓誌」

大尾題：「大宋文鑑卷第一百五十」

（後跋）



「書宋文鑑後」(後序)(弘治甲子秋七月 胡韶識3葉)(朱筆にて「丙寅三月長堅  
句完時在紀藩」と記入)

刊記なし

幼学須知便読故事<sup>(注五)</sup> 三冊 明刻清刊本 全長 一二・七cm×二二・八cm

本書は童蒙教育の参考書(教科書)的存在で、将来、読書人となる上での必須教養を留めている。建陽の書林と思われる劉子文刻本を蘇州の書肆楊瑞卿が重印(重刻)した本である。上下二層、三層の形式は科挙受験参考書等<sup>(注六)</sup>によく見られるが、必ずしも科挙に限らないことは法律・本草医学書にも採用されていることから分かる。本書のように建陽本が清初ごろに蘇州・南京方面で再刻(重印)されることは、費守齋刊三国志伝<sup>(注七)</sup>(東北大学蔵)の例からもわかり、明末清初の江南地方における出版活動研究の資料ともなり得る。

〔書誌〕

第1冊 表表紙「幼学須知」(学館)「(墨書)

(封面)「原本便読

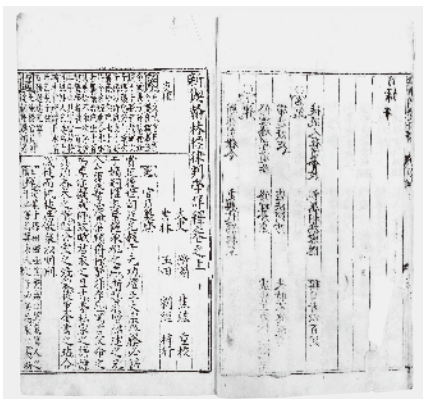
四知堂幼学須

知直解 金閭楊瑞卿梓行

副紙

(注五) 巻頭カラー図版No.12  
モノクロ図版No.12

(注六) 『新鐫翰林標律判学詳釈』巻上(国立公文書館蔵)



上巻部目（朱筆補記）

（本文） 幼学須知便読故事／

西昌 程登吉較著

書林 劉子文発兌

五星金木水火土<sup>マ</sup> 天文……

（上段） ———— （下段）

版式…左右双边、無界、上下（上段…注釈）（下段…本文）

（匡郭内）一〇・五cm×四・三cm（上注）+一五・六cm（本文）

版心…「幼学故事」 五」など

## 第2册（中巻）

鳥獸…歴代国統

## 第3册

歴朝国統皇帝紀

天都赤城子呉 霞文挙父編述

大尾…「史学須知 終」

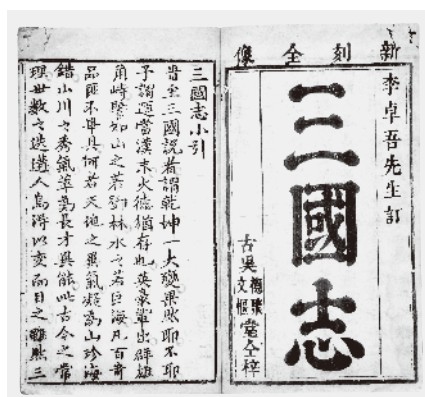
刊記、跋なし

版心…「幼学故事一下」とある

「大明 正」として恵帝、代宗、思宗…十七年、皇明太祖…南朝政権下の崇禎17年



同巻一卷首・與畊堂費守斎刊（同前）



（注七）  
『新刻京本全像演義三國志伝』封面・德聚堂文樞堂刊（東北大学東北アジア研究センター蔵）

（弘光元年刊？）までを数える。また、本文中に建文僧伝説あり。

# 合刻三蘇先生文集<sup>（注八）</sup>

（老蘇・東坡・穎濱文）六十卷 20冊 明刊本 全長一五・九cm×二五・六cm

（注八） 卷頭カラー図版No.15

北宋の蘇洵・軾・轍父子の文集を合刻した本で、朱子学に代表される宋学には欠かせないものとして蔵書されたのであろう。老蘇は蘇洵のことで蘇軾（東坡）・蘇轍（穎濱）の父、老泉と号した。四川省出身。穎濱とは蘇轍の号で、別に欒城とも号した。藩校蔵書印がないのは、藩主家の蔵品を藩学が借用するという形をとっていたことに由来するのかもしれない。「長崎海関管史撿明」他一印がある。

## 〔書 誌〕

### 第1冊

序 趙序（趙林翹書、3葉）

陸序（陸時雍撰、5葉）

批評姓氏（3葉）

凡例 （2葉）

合刻三先生老泉文（目錄卷一―卷十、5葉）

本文「合刻三先生老泉文／錢唐錢穀豐寶／吳興茅坤鹿門評定／竟陵鍾惺伯敬／易論……」

版式…半葉9行・行20字、眉上注行5字、四周单边、有界、版心…「老泉文」

卷一 論 一 緝柳」单白魚尾、版心下に刻工名あり

匡郭内 一三・九cm×二〇・六cm

第2册 合刻三先生老泉文（卷四～卷七）

第3册 合刻三先生老泉文（卷八～卷十）

卷尾題…「合刻三先生老泉文」

第4册

合刻三先生東坡文（目錄卷一～卷二論 30葉）

本文題署…「合刻三先生東坡文」

錢塘 錢穀豐實

吳興 茅坤鹿門 評定

竟陵 鍾惺伯敬

第5册

合刻三先生東坡文（卷三論～卷五論）

第6册～17册 東坡文

東坡文―（冊底墨書記入ミス 正しい順は十、十六～二十、十一、十二の順）

墨記「十六」↓十一冊目（卷二十二～二十四）

墨記「二十」↓十五冊目（卷三十二～三十四）

第18冊（冊底墨記十三）墨記「十二」↓十六冊目（卷三十五～三十七）

墨記「十二」↓十七冊目（卷三十八～四十）

合刻三先生顓濱文（目錄卷一～卷十、4葉）

本文「合刻三先生顓濱文」

錢塘 錢穀豐實

吳興 茅坤鹿門 評定

竟陵 鍾惺伯敬

／……／（卷三策）

「合刻三先生顓濱文」（尾題）

第19冊（冊底十四と誤記）

合刻三先生顓濱文（卷四策～卷六策）

第20冊（冊底十五と誤記）

顓濱文（卷七策～卷十記）

大尾題なし、刊記・跋なし

漢魏六朝二百三名家集<sup>（注九）</sup>（漢魏六朝百名家集）10帙80冊 清初刊 全長二五・八cm×二四・四cm

前漢（西漢）から三国、南北朝、そして隋朝に到る各時代の代表的文人の作品を集成した叢書。漢魏六朝の著名な文人集については、明代の嘉靖頃から規模の小さい総集が作られ、萬曆<sup>（注七）</sup>を経て明末に到って張溥の本集によって103名にまで拡大された。もともと、前にあった『漢魏<sup>（注十）</sup>七十二家集』が作品に詩文評論・伝記を付し

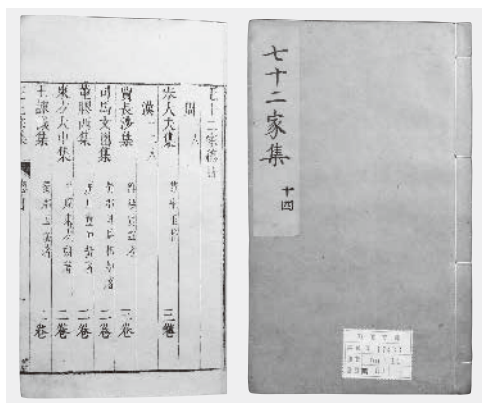
（注九） 卷頭カラー図版No.13

モノクロ図版No.13～No.23

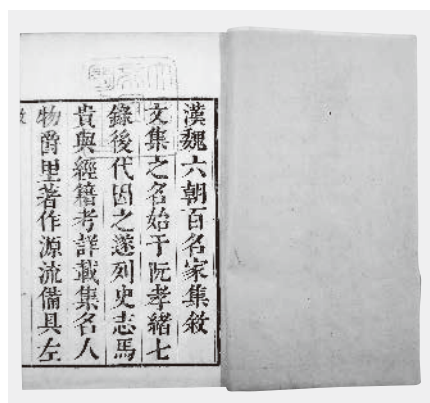
（注十） 萬暦年間には、例えば萃慶堂余氏が『漢魏六朝文』（国立公文書館蔵）を刊行している。



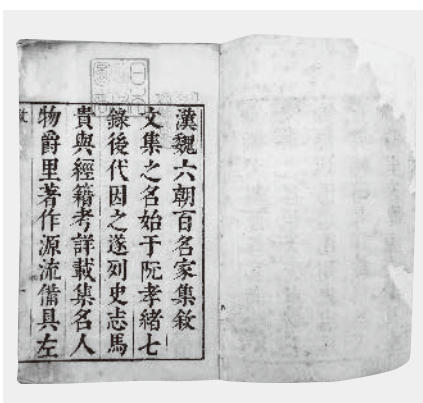
（注十二）『七十二家集』表紙・総目（国立公文書館蔵）



た形で出版されたことに倣い、附録たる各文人への評論・伝記を省いて文人数を増したものである。『漢魏六朝一百三名家集』には、上山本に先行する明刊本が存在したらしいことが、旧内閣文庫本（国立公文書館蔵）百冊で推測される。両者の顕著な相違は、百にのぼる封面の記述にすべて微細ながらも異なる点を見い出せることにある。上山本の封面は、例えば、「司馬文園集」には「漢九人 第二冊」の文字があるが、旧内閣文庫本（別30―1）にはなく、単に「司馬文園集」とするのみである。一方、清刊とする旧内閣文庫本（361―52）があり、こちらには上山本と同じ封面を持つ。旧内閣文庫本の封面は明刊本を想わせるが、文集本体の文字はやや稚拙となり、清代の重刻本としてもよい体裁である。料紙も明刊本とは異なり、厚手ながら軽い。上山本も類似した料紙に印刷され、埋木のような箇所もある。ただし、清刊本としては文中の「弘」（乾隆）、「玄」（康熙）、「丘」（雍正時代）各字に欠筆がなく、さりとて順治刊本とする確証もないので、明刊本に若干手を加えつつ、忠実に重刻した結果なのかもしれない。一般には、清の光緒年間に再刊された版本が通行し、光緒3年寿考堂刊本（東北大学蔵）は八十冊、光緒18年善化堂経済堂刊本（同）は百三十二冊で、寿考堂本は明新館文庫本と同冊であるが、冊数による収録文人が若干異なる。同じ明刊本でも山梨県立図書館蔵徽典館本は百冊であり、幾種か版本があつたらしい。なお、光緒刊本では、先行の旧内閣文庫本清版とは異なり、郭弘農集の弘字、丘中郎集（丘遲）の丘字、牛弘の弘字がいずれも欠筆になっている。明刊本旧内閣文庫本では当然ながら、それはない。



旧内閣文庫本（361―52 清刊）叙  
（字体が明刊本とわずかに異なる）



（注十二）国立公文書館蔵旧内閣文庫本（別30―1、明刊）叙



〔書 誌〕

第二冊（封面の分冊数） 賈長沙集

封面「漢 第一冊／賈長沙集」

漢魏六朝百名家集叙（墨写）（7葉張溥題）

賈長沙集題辭（張溥撰）（2葉）（墨写）

漢魏六朝一百三名家集總目（墨写、7葉）

賈長沙集全（本文、賦、疏、第二十六葉まで補鈔）

尾題

半葉9行・行 18字、左右双辺、有界、

版心「賈長沙集」 卷全 一 疏 二十七、（匡郭内）一三・一 cm × 十九・八 cm

（司馬文園集）

封面「漢九人 第二冊／司馬文園集」

司馬文園集題辭（張溥撰）（2葉）

司馬文園集目錄（2葉）

司馬文園集全／…

（董膠西集）

封面「漢九人 第三冊／董膠西集」

「董膠西集題詞」（張溥題、2葉）

「董膠西集目錄」（2葉）



旧内閣文庫・清刊本「賈長沙集」封面



旧内閣文庫・明刊本「賈長沙集」封面



董膠西集卷全（「策」まで）

第二冊

（董膠西集）

「章乞種麥限田章……」

（東方大中集）

封面（以下第一冊に同じ）

なお、封面による分冊数は、出版された本体の正確な冊数ではなく、一種の巻立てのようなものである。

第一冊

賈長沙集一卷

（漢）賈誼

第二冊

司馬文園集一卷

（漢）司馬相如

第三冊

董膠西集一卷

（漢）董仲舒

第四冊

東方大中集（東方朔集）一卷

（漢）東方朔

第五冊

褚先生集一卷

（漢）褚先生

第六冊

王諫議集一卷

（漢）王褒

第七冊

劉中壘集（劉子政集）一卷

（漢）劉向

第八冊

揚侍郎集一卷

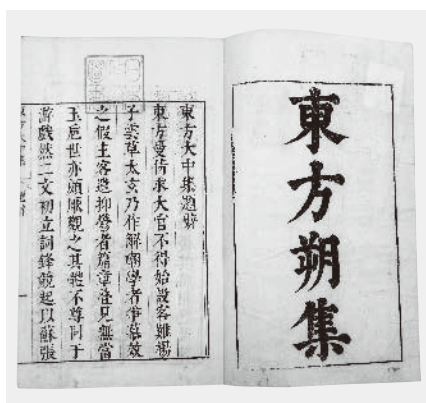
（漢）揚雄（揚雄）

第九冊

劉子駿集一卷

（漢）劉歆

旧内閣文庫・明刊「東方大中集」題辭（玄字）



旧内閣文庫・清刊「東方大中集」題辭（玄字は康熙帝の名にあるゆえ、康熙以後の刊本では欠筆の必要がある）



第十冊	馮曲陽集一卷	(漢) 馮衍
第十一冊	班蘭臺集一卷	(漢) 班固
第十二冊	崔亭伯集一卷	(漢) 崔駰
第十三冊	張河間集二卷	(漢) 張衡
第十四冊	李蘭臺集(李伯仁集)一卷	(漢) 李尤
第十五冊	馬季長集一卷	(漢) 馬融
第十六冊	荀侍中集一卷	(漢) 荀悅
第十七冊	蔡中郎集二卷	(漢) 蔡邕
第十八冊	王叔師集一卷	(漢) 王逸
第十九冊	孔少府集一卷	(漢) 孔融
第二十冊	諸葛丞相集一卷	(漢) 諸葛亮
第二十一冊	魏武帝集一卷	(魏) 曹操
第二十二冊	魏文帝集二卷	(魏) 曹丕
第二十三冊	陳思王集二卷	(魏) 曹植
第二十四冊	陳記室集一卷	(魏) 陳琳
第二十五冊	王侍中集一卷	(魏) 王粲
第二十六冊	阮元瑜集一卷	(魏) 阮瑀
第二十七冊	劉公幹集一卷	(魏) 劉楨
第二十八冊	應德璉集一卷	(魏) 應瑒

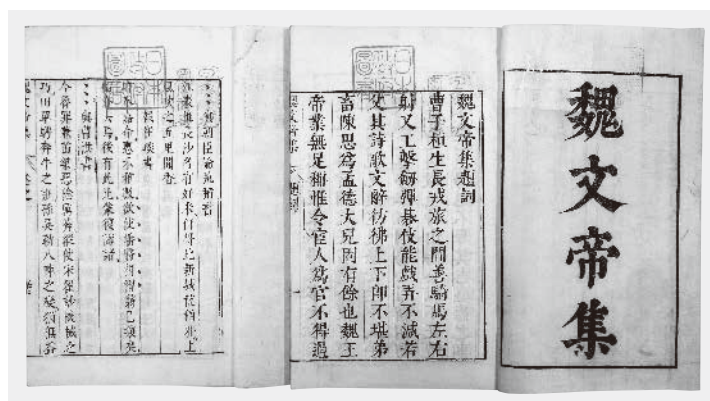


旧内閣文庫・清刊「劉子駿集」封面



旧内閣文庫・明刊「劉子駿集」封面

第二十九册	應休璉集一卷	(魏) 應璩
第三十册	阮步兵集一卷	(魏) 阮籍
第三十一册	嵇中散集一卷	(魏) 嵇康
第三十二册	鍾司徒集一卷	(魏) 鍾會
第三十三册	杜征南集一卷	(晉) 杜預
第三十四册	荀公曾集一卷	(晉) 荀勗
第三十五册	傅鶡觚集一卷	(晉) 傅玄
第三十六册	張茂先集一卷	(晉) 張華
第三十七册	孫馮翌集(孫子荊集) 一卷	(晉) 孫楚
第三十八册	摯太常集一卷	(晉) 摯虞
第三十九册	束廣微集(東陽平集) 一卷	(晉) 束皙
第四十册	夏侯常侍集一卷	(晉) 夏侯湛
第四十一册	潘黃門集一卷	(晉) 潘岳
第四十二册	傅中丞集一卷	(晉) 傅咸
第四十三册	潘太常集一卷	(晉) 潘尼
第四十四册	陸平原集二卷	(晉) 陸機
第四十五册	陸清河集二卷	(晉) 陸雲
第四十六册	成公子安集一卷	(晉) 成公綏
第四十七册	張孟陽集一卷	(晉) 張載



旧内閣文庫・明刊「魏文帝集」封面・題詞・卷一本文

第四十八冊	張景陽集一卷	(晉) 張協
第四十九冊	劉越石集一卷	(晉) 劉琨
第五十冊	郭弘農集二卷	(晉) 郭璞
第五十一冊	王右軍集二卷	(晉) 王羲之
第五十二冊	王大令集一卷	(晉) 王獻之
第五十三冊	孫廷尉集一卷	(晉) 孫綽
第五十四冊	陶彭澤集一卷	(晉) 陶潛
第五十五冊	何衡陽集一卷	(宋) 何承天
第五十六冊	傅光祿集一卷	(宋) 傅亮
第五十七冊	謝康樂集二卷	(宋) 謝靈運
第五十八冊	顏光祿集一卷	(宋) 顏延之
第五十九冊	鮑參軍集二卷	(宋) 鮑照
第六十冊	袁陽源集(袁忠憲集) 一卷	(宋) 袁淑
第六十一冊	謝法曹集一卷	(宋) 謝惠連
第六十二冊	謝光祿集一卷	(宋) 謝莊
第六十三冊	竟陵王集(蕭竟陵集) 二卷	(齊) 蕭子良
第六十四冊	王文憲集一卷	(齊) 王儉
第六十五冊	王寧朔集一卷	(齊) 王融
第六十六冊	謝宣城集一卷	(齊) 謝朓



旧内閣文庫・明刊「郭弘農集」封面  
(弘字)

第六十七册	張長史集一卷	(齊) 張融
第六十八册	孔詹事集一卷	(齊) 孔稚珪
第六十九册	梁武帝(御製)集一卷	(梁) 蕭衍
第七十册	梁昭明太子集一卷	(梁) 蕭統
第七十一册	梁簡文帝(御製)集二卷	(梁) 蕭綱
第七十二册	梁元帝集八卷	(梁) 蕭繹
第七十三册	江醴陵集二卷	(梁) 江淹
第七十四册	沈隱侯集二卷	(梁) 沈約
第七十五册	陶隱居集一卷	(梁) 陶弘景
第七十六册	丘中郎集(兵司空集)一卷	(梁) 丘遲
第七十七册	任中丞集(任彥升集)一卷	(梁) 任昉
第七十八册	王左丞集一卷	(梁) 王僧孺
第七十九册	陸太常集一卷	(梁) 陸倕
第八十册	劉戶曹集一卷	(梁) 劉峻
第八十一册	王詹事集一卷	(梁) 王筠
第八十二册	劉祕書集一卷	(梁) 劉孝綽
第八十三册	劉豫章集一卷	(梁) 劉潛
第八十四册	劉庶子集(劉中山集)一卷	(梁) 劉孝威
第八十五册	庾度支集一卷	(梁) 庾肩吾



旧内閣文庫・明刊「丘中郎集」封面  
(丘字)

第八十六册	何記室集一卷	(梁) 何遜
第八十七册	吳朝請集一卷	(梁) 吳均
第八十八册	陳後主集一卷	(陳) 陳叔寶
第八十九册	徐僕射集一卷	(陳) 徐陵
第九十册	沈侍中集一卷	(陳) 沈炯
第九十一册	江令君集一卷	(陳) 江總
第九十二册	張散騎集一卷	(陳) 張正見
第九十三册	高令公集一卷	(後魏) 高允
第九十四册	溫侍讀集一卷	(後魏) 溫子昇
第九十五册	邢特進集一卷	(齊) 邢邵
第九十六册	魏特進集一卷	(齊) 魏收
第九十七册	庾開府集二卷	(周) 庾信
第九十八册	王司空集一卷	(北周) 王褒
第九十九册	隋煬帝集一卷	(隋) 楊廣
第百册	盧武陽集一卷	(隋) 盧思道
第百一册	李懷州集一卷	(隋) 李德林
第百二册	牛奇章集一卷	(隋) 牛弘
第百三册	薛司隸集一卷	(隋) 薛道衡

## 国立国会図書館所蔵上山藩明新館旧蔵本七種

国会図書館の前身である東京書籍館に旧藩から納本された和漢書のうち、旧上山藩蔵書と思われる書籍は7点ある。各書には、(一)～(七)に別記したような文部省関係以外の蔵書印が捺される。これらから、「天輔館蔵」「明新館」「明新館文庫」各印が、遅くとも明治八年以前から使用された印章であることが分かる。ただし、上山では、「明新館文庫」印を明治八年以降も使用したらしく、明治十年出版の『偶評続今体名家文抄』にもその印が見える。このため、廃藩後に藩校が廃止された後にも、「明新館文庫」本として新規蒐書された書籍がいくつかあったことが推測される。これは、「清風館蔵書印」のある書籍が廃校後に明新館文庫に入った可能性を生むが、ひとつの可能性であるため、本書では指摘するに止める。

### (一) 一得録 一帙1冊 (因幡) 岡田勝興撰

文化十二年書林 京都鉛屋安兵衛・江戸須原屋茂兵衛・大坂吉文字屋市右衛門・因幡百谷屋重左衛門刊

「天輔館蔵」「TOKIO LIBRARY/FOUNDED BY MOMBUSHO 1872/東京書籍館/明治五年/文部省創立」円朱印、「明治八年文部省交付」「帝國圖書館蔵」各印、蔵書票(「東京府書籍館/門/部/類/函/棚号/TOKIOFULLIBRARY」)があるも無記入。本体には、「帝國圖書館」表裏表紙が加えられる。



(二) 大学或問 上下二卷二本合冊1冊 熊沢了海撰

午壯齋叢書本(木活字刊!?)

「帝國圖書館」表裏表紙添加

「明新館文庫」  
「明治八年文部省交付」  
「TOKIO LIBRARY/FOUNDED BY MOMBUSHO 1872/東京書籍館/明治五年/文部省創立」各印あり。

(三) 積奠私儀 四卷一帙2冊(旧4分冊) 写本(寛政庚申 鯖江大郷良則識)

「明新館文庫」  
「明治八年文部省交付」  
「TOKIO LIBRARY/FOUNDED BY MOMBUSHO 1872/東京書籍館/明治五年/文部省創立」各印あり。

(四) 列祖成績 十五卷 16冊 序目 1冊 写本

「明新館文庫」  
「明治八年文部省交付」  
「TOKIO LIBRARY/FOUNDED BY MOMBUSHO 1872/東京書籍館/明治五年/文部省創立」各印あり。

(五) 名物六帖 存22冊(序目1冊・第一帖4冊・第二帖5冊・第三帖7冊・第四帖5冊)

(京兆) 伊藤長胤纂輯 奥田士亨校訂

安政己未六年 京撰書林 謙々舎・積玉圃 東武岡田屋嘉七等五書林刊

「明新館文庫」  
「明治八年文部省交付」  
「TOKIO LIBRARY/FOUNDED BY

MOMBUSHO 1872/東京書籍館/明治五年/文部省創立」各印の他、印文不明「○○齋」朱方印あり。

(六) 服忌令撰註分釈 一帙3冊(上中下各冊) 写本

「明新館文庫」「明治八年文部省交付」「TOKIO LIBRARY/FOUNDED BY MOMBUSHO 1872/東京書籍館/明治五年/文部省創立」各印あり。

(七) 服忌令撰註追補 一帙3冊(天地人各冊) 写本

「明新館文庫」「明治八年文部省交付」「TOKIO LIBRARY/FOUNDED BY MOMBUSHO 1872/東京書籍館/明治五年/文部省創立」各印あり。



(6) (明新館文庫本) 五十音索引

あ	伊勢物語古意 (いせものがたりこい) .....	113
い	伊蘇普物語 (いそっぷものがたり) .....	110
	一休 (禪師) 一代記図会 (いつきゅうぜんじいちだいきずえ) .....	101
う		
え	瀛環志略 (えいかんしりゃく) .....	80
	淵鑑類函 (えんがんるいかん) .....	84
	(新刻重校増補) 円機活法 (えんきかつぽう) .....	85
	延喜式 (考異) (えんぎしき) .....	108
お	(瀧水宇先生考訂) 王注老子道德經 (おうちゅうろうしどうとくきよう) .....	86
	嚶鳴館遺草 (おうめいかんいそう) .....	107
か	改正音訓五經 (かいせいおんくんごきよう) .....	52
	敵討駒ヶ池雲水録 (かたきうちこまがいけうんすいろく) .....	102
	合刻三蘇先生文集 (がっくさんそせんせいぶんしゅう) .....	94
	漢魏六朝一百三名家集 (かんぎりくちよういつびやくさんめいかしゅう) .....	88
	管子纂詁 (かんしさんこ) .....	97
	漢書評林 (かんじょひょうりん) .....	74

官板唐宋八家文読本（かんぱんとうそうはつかぶんどくほん）	98
官版萬国公法（かんぱんばんこくこうほう）	81
韓柳集（かんりゅうしゅう）	93
魏書（ぎしよ）	72
救荒活民書（きゅうこうかつみんしよ）	81
儀礼（ぎらい）	54
儀礼註疏（ぎらいちゅうそ）	51
近代正説碎玉話（きんだいせいせつさいぎよくわ）	104
金葉和歌集（きんようわかしゅう）	112
偶評続今体名家文抄（ぐうひょうぞくきんたいめいかぶんしょう）	114
け（増補）元明史略（げんみんしりやく）	96
こ 広益助語辞（集例）（こうえきじよごじ）	111
広金石韻府（こうきんせきいんぷ）	69
（尺木堂）綱鑑易知録（こうがんえきちろく）	76
康熙字典（こうきじてん）	69
皇清経解（こうせいけいかい）	59
校訂標註十八史畧読本（こうていひひょうちゅうじゅうはちしりやくどくほん）	78
弘道館述義（こうどうかんじゅつぎ）	109
黄葉夕陽村舎詩（こうようゆうようそんしゃし）	113

後漢書（ごかんじょ）	70
（改正音訓）五経（ごきよう）	52
（春秋外伝）国語定本（こくごじょうほん）	77
古事記伝（こじきでん）	102
古史成文（こしせいぶん）	100
古史伝（こしでん）	101
五車韻瑞（ごしゃいんずい）	85
五代史（ごだいし）	74
詞の玉緒（ことばのたまのお）	112
古文孝経（こぶんこうきよう）	58
（鼎鍬趙田了凡袁先生編纂）古本歴史大方綱鑑補（こほんれきしたいほうこうがんほ）	76
今日鈔（こんにちしょう）	105
さ	
（呂東萊先生）左氏博議（さしはくぎ）	55
左伝輯釈（さでんしゅうしゃく）	95
西国立志編（さいごくりつしへん）	101
三国志（さんごくし）	70
（合刻）三蘇先生文集（さんそせんせいぶんしゅう）	94
三礼（さんらい）	53
三礼図（さんらいず）	54

爾雅註疏（じがちゅうそ）	51
史記評林（しきひょうりん）	74
詩經集註（しきやうしつちゆう）	53
資治通鑑（しじつがん）	75
四書集註（ししよしつちゆう）	57
四書正解（ししよせいかい）	57
四書大全（ししよたいぜん）	57
四書白文（ししよはくぶん）	58
謝肇淞塵余（しゃちやうせいじんよ）	86
周易兼義（しゅうえきけんぎ）	51
重刻白氏長慶集（じゅうこくはくしちやうけいしゅう）	87
十三經注疏（じゅうさんけいちゆうそ）	51
十三朝紀聞（じゅうさんちやうきぶん）	105
（立齋先生標題解註音釈）十八史畧（じゅうはちしりやく）	78
重新訂正四書正解（じゅうしんていせいししよせいかい）	57
（校訂標註）十八史畧読本（じゅうはちしりやくどくほん）	78
首書礼記集註（集説）（しゅしやらいきしつちゆう）	54
入木抄（じゅぼくしょう）	111
周礼（しゅらい）	53



周礼註疏（しゅらいちゆうそ）	.....	51
春秋外伝国語定本（しゅんじゆうがいでんこくごじょうほん）	.....	77
春秋公羊註疏（しゅんじゆうくようちゆうそ）	.....	51
春秋穀梁註疏（しゅんじゆうこくりようちゆうそ）	.....	51
春秋胡氏伝（しゅんじゆうこしでん）	.....	55
春秋左氏伝（しゅんじゆうさしでん）	.....	55
春秋左氏伝校本（しゅんじゆうさしでんこうほん）	.....	54
春秋左伝註疏（しゅんじゆうさでんちゆうそ）	.....	51
荀子増注（じゅんしぞうちゆう）	.....	82
（標英）小学定本（しょうがくじょうほん）	.....	82
尚書（しょうしょ）	.....	52
尚書註疏（しょうしよちゆうそ）	.....	51
貞觀政要（じょうがんせいよう）	.....	82
（新刻頭書）書経集註（しよきょうしつちゆう）	.....	52
白川賢侯御茶記（しらかわけんこうおんちゃき）	.....	111
新古今和歌集（しんこきんわかしゆう）	.....	113
新刻校正史記評林（しんこくこうせいしきひょうりん）	.....	74
新刻重校増補円機活法（しんこくじゆうこうぞうほえんきかつぽう）	.....	85
新刻頭書書経集註（しんこくとうしよしよきょうしつちゆう）	.....	52

清三朝易知録（しんさんちようえきちろく）	96
晋書（しんじょ）	70
新定三礼図（しんていさんらいず）	54
新版校正大学章句（しんぱんこうせいだいがくしょうく）	56
（謝肇淪）塵余（じんよ）	86
隋書（ずいしよ）	73
星巖先生遺稿（せいがんせんせいこう）	114
尺木堂綱鑑易知録（せきぼくどうこうがんえきちろく）	76
尺木堂明鑑易知録（せきぼくどうみんがんえきちろく）	76
説文解字（せつもんかいじ）	68
遯喜斎四書大全（せんきさいししよたいぜん）	57
千金方藥註（せんきんほうやくちゆう）	97
戦国策正解（せんごくさくせいはい）	95
瀧水字先生考訂王注老子道德經（せんすいうせんせいこうていおうちゆうろうしどうとくきよう）	86
撰定中学漢文（せんていちゆうがくかんぶん）	109
宋元通鑑（そうげんつがん）	75
宋史新編（そうししんぺん）	78
宋書（そうじょ）	71
宋槧太平御覧（そうせんたいへいぎやらん）	84

	増訂武経（七書）直解（ぞうていぶきよう「しちしよ」ちよつかい）	83
	宋文鑑（そうぶんかん）	94
	増補元明史略（ぞうほげんみんしりやく）	96
	草露貫珠（そうろかんじゆ）	112
	（偶評）続今体名家文抄（ぞくきんたいめいかぶんしょう）	114
	続国史畧（ぞくこくしりやく）	105・106
	続撰清正記（ぞくせんせいせいき）	104
	続唐宋八家文読本（ぞくとうそうはちかぶんどくほん）	98
た	大学定本（だいがくじょうほん）	56
	（新版校正）大学章句（だいがくしょうく）	56
	大日本史（だいにほんし）	103
	（宋槧）太平御覧（たいへいぎよらん）	84
ち	地理新編（ちりしんぺん）	107
	地理全志（ちりぜんし）	80
	中等漢文読本（ちゅうとうかんぶんどくほん）	110
	中庸章句（ちゅうようしょうく）	56
	中庸發揮（ちゅうようはつき）	95
つ	通俗伊蘇普物語（つうぞくいそつぶものがたり）	110
て	鼎鍬趙田了凡袁先生編纂古本歴史大方綱鑑補（ていけつちようでんりようはんえんせんせいへんさんこほんれきしたいうこうがなんぽ）	76

と	(東萊先生音註) 唐鑑(とうがん) .....	77
	唐韓昌黎集(とうかんしょうれいしゅう) .....	93
(新)	唐書(とうじょ) .....	74
(官板)	唐宋八家文読本(とうそうはつかぶんどくほん) .....	98
	唐柳河東集(とうりゅうかとうしゅう) .....	93
	東京新繁昌記(とうきようしんはんじようき) .....	106
	東萊先生音註唐鑑(とうらいせんせいおんちゅうとうがん) .....	77
	讀史余論(どくしよろん) .....	103
な	南史(なんし) .....	73
(泉南)	南宗論語(なんしゅうろんご) .....	56
	南齊書(なんせいじよ) .....	71
に	日本外史(にほんがいし) .....	104
	日本三代実録(にほんさんだいじつろく) .....	103
	日本政記(にほんせいき) .....	104
	日本文徳天皇実録(にほんもんとくてんのうじつろく) .....	102
ぬ		
の		
は	(重刻) 白氏長慶集(はくしちようけいしゅう) .....	87

	(官版) 萬国公法 (ばんこくこうほう) .....	81
	(畢洒林氏) 萬国公法 (ばんこくこうほう) .....	96
	萬国史記 (ばんこくしき) .....	102
ひ	畢洒林氏 萬国公法 (ひつせんりんしばんこくこうほう) .....	96
	標英小学定本 (ひょうえいしょうがくじょうほん) .....	82
	標注令義解校本 (ひょうちゅうりょうのぎげこうほん) .....	108
ふ	福惠全書 (ふくけいぜんしょ) .....	80
	(増訂) 武経 (七書) 直解 (ぶけい「しちしょ」ちよっかい) .....	83
	武將感狀記 (ぶしょうかんじょうき) .....	104
へ	分類補註李太白詩 (ぶんるいほちゅうりたいはくし) .....	87
ほ	北史 (ほくし) .....	73
	北齊書 (ほくせいじょ) .....	72
	翻刻古本論語 (ほんこくこほんろんご) .....	56
	本草綱目 (ほんぞうこうもく) .....	83
	本草綱目物品目録 (ほんぞうこうもくぶつぴんもくろく) .....	97
ま		
み	参河後風土記 (みかわごふどき) .....	105
	(尺木堂) 明鑑易知録 (みんがんえきちろく) .....	76

も	明朝紀事本末（みんちようきじほんまつ）	77
め	明律国字解（みんりつこくじかい）	109
む		
も	孟子註疏解経（もうしちゅうそかいけい）	51
	毛詩註疏（もうしちゅうそ）	51
	毛詩名物図説（もうしめいぶつずせつ）	53
	文選正文（もんぜんせいぶん）	87
や		
ゆ		
よ	与地誌略（よちしりやく）	106
	幼学須知便読故事（ようがくしゅちびんどくこじ）	84
ら	礼記（らいき）	54
	（首書）礼記集註（集説）（らいきしつちゅう「しゅうせつ」）	54
	礼記註疏（らいきちゅうそ）	51
り	六臣註文選（りくしんちゅうもんぜん）	88
	（分類補註）李太白詩（りたいはくし）	87
	律（りつ）	108
	立斎先生標題解註音釈十八史畧（りつさいせんせいはくじゅうはちしりやく）	78

柳文（りゅうぶん）	93
（標注）令義解校本（りょうのぎげこうほん）	108
梁書（りょうしよ）	72
呂東萊先生左氏博議（りょうとうらいせんせいさしはくぎ）	55
類聚三代格（るいじゅさんだいきやく）	108
歴代名臣言行録（れきだいめいしんげんこうろく）	79
歴代名臣奏議（れきだいめいしんそうぎ）	79
論語註疏解経（ろんごちゅうそかいけい）	51
和歌分類（わかぶんるい）	113
和漢三才図会（わかんさんさいずえ）	99





## 第二章

### 羽州上山藩明新館文庫の研究 編



## 第二章 羽州上山藩明新館文庫の研究 編

### (1) 上山藩史略

江戸時代、山形にあった藩の一つである上山藩は、東北の大大名家の一家であった最上氏の改易（元和八年、一六二二）によって誕生した。当初は、能美松平家の松平重忠が四万石で入部して藩となったが、まもなく次代の重直が寛永三年（一六二六）に摂津の三田藩に転封となって上山を去った。その後、徳川家康の外孫蒲生昌勝（松平忠知）が四万石で入部したが、兄蒲生忠郷が寛永四年に亡くなると、その後を嗣ぎ、まもなく伊予松山二万石に転じた。上山領は山形藩の預地を経て、寛永五年、土岐頼行が二万五千石で下総から入部した。土岐氏は二代、頼行・頼殷<sup>たか</sup>が藩政を布いたが、元禄五年（一六九二）二月に転封した。そのため、同年六月には、幕府領となったため、領主の居所である上山城は破却されることになった。八月に城郭の破却が終わるころ、飛騨高山の金森氏入封が決まり、九月になると、金森頼<sup>よりとぎ</sup>が上山に入部した。金森氏は城下町の再成という課題に直面する一方、十二月には凶作による年貢の取り立てをめぐって拊合一揆が起り、惣百姓や庄屋、組頭と対立した。それから間もない元禄十年、金森氏は美濃の郡上へ転封した。上山は再びの幕府領を経て、元禄十年（一六九七）九月に松平信通が家臣約三百人（士分一二〇人）を率い、三万石の領主として入部した。松平重忠以来、四大名家を経た後、藤井松平家になって上山定着の

大名となったが、上山藩の所領石高は就藩領主に応じて異なっていた。本テーマである明新館文庫が藤井松平家に由来することを考えれば、松平信通以降の藩主による治政が狭い意味で「上山藩」ということになる。上山藩の歴史については、既に『上山市史』などに詳述され、新たに付加すべき重要な事柄も少ないので、以下は主に『上山市史』<sup>(注1)</sup>に拠って藩財政と蔵書の関係について略述する。

庭瀬に就藩していた松平家は、信通以前、年貢米を廻米運送によって大阪で売ることと藩財政を維持したが、上山へ移ったことで、米の輸送コストの増大、また、城下の再建、譜代大名の公儀勤役など新たな経済的負担が加わる状況に直面し、封建諸侯が遅かれ早かれ抱えることになる財政難を当初より内包していたと言われている。実際、手元不如意のため、元文元年（一七三六）、酒田湊の加賀屋から二〇二両余などの借財を重ねることが発生していた<sup>(注2)</sup>。また、享保八年（一七二三）の凶作を契機に、上山藩の取米高は一萬石が困難になりつつあった。「米積大略并小物成錢替大略」は第四代藩主松平信亨<sup>（つぐ）</sup>の宝暦十三年頃の上山藩の収支と言われるが、これより推定される収入が三萬石、実質二萬三千石による年貢米九四三〇石（推定租率四割一分）と小物成二五八両、これに対して支出は二萬七千八百余俵であったから、藩財政史全般から見て、大坂加番による特別収入や越後支領の収入を考慮しても、収支の均衡は基本的には無理があった。上山に転封した藤井松平家の宗家は、忠之の時に古河八萬石、弟の信通への分知が一萬石で、もとをただせば九萬石の家柄の出であったという意識が強く、それだけの支出を見越した財政であった、とも言われる。また、借金の返済

（注1）『上山市史』上巻（原始・古代・中世・近世編、昭和55年、上山市）第七編「近世の上山（二）」第一章「藩体制の整備」p283以下に詳しい。

（注2）『上山市史』上巻 p901 - p912、『山形県史』第三巻（近世編下）（山形県、昭和62年）「2 上山藩・藩財政の窮乏」p238 - p259

も予定されず、古い借財を踏み倒していたばかりではなく、第四代藩主信亨になると更にその遊興も重なり危機的局面を迎えた。上山藩における財政窮乏は、必然的に後の藩学にも影響を与えることになる。この時、信亨は側用人に「先祖伝来の儒書・軍書などを残らず打ち払わせる」ことにさせたと言う<sup>(注三)</sup>。上山藩初代信通以前、藤井松平家は徳川将軍家とも縁が深く、幕府の要職を務めたことも幾度かあり、藤井松平家第四代忠国の時、弟忠晴が信州上田に分かれて藩主となつてもいるが、当初は、それぞれその家門に沿う蔵書を蒐集し所持していたとも思われる。今日の明新館文庫には、古典籍の古い刊本・写本は極めて少ない。財政難による蒐書への関心の稀薄や廃藩以後の散佚などの悪条件を考慮しても、基本的には従来から指摘される第四代藩主の書籍売払いが影を落としていたことはまちがいないことであろう。

江戸後期、京・大坂、そして江戸には多くの書肆があつたことは周知のことであるが、新刊本のみならず、古本を売買することを専門とする書肆、或は、干し店と呼ばれた露店もあつて、古本の売買を扱っていた。長友千代治氏が『摂津名所図会大成』巻十三下で心齋橋通書肆を紹介するように、大坂では心齋橋通に書肆が集中する中で、古本売買では古本屋清左衛門や秋田屋市兵衛が著名であつた。<sup>(注四)</sup>『難波土産』二編の塩屋喜兵衛の店頭<sup>(注五)</sup>、『字尽節用集』の「古本売買所」図<sup>(注六)</sup>に見られるように、武士が「(現銀)古本買請所」に古典籍を売りに行けば、即座に現金を手に入れることが出来たのである。上山藩の松平家が加藩で大坂へ赴いた折、携帯した伝家の「儒書」を必要に応じて売り払うことは十分可能であつた。上山藩の松平信亨のみならず、おそらく、江戸

(注三)『上山市史』上巻p235、『山形県史』第三卷(近世編下)p264

(注四)長友千代治氏『江戸時代の図書流通』(思文閣出版、平成14年)p36～p40、p77～p80

(注五)長友氏(注四)p33～p34

(注六)長友氏(注四)p78

時代を通じて、改易された大名家、或は、藩財政の悪化した藩から下は浪人となった武士に到るまで、生産に携わらない階層では、蔵書売買は武器・刀剣の売り払いに比べて抵抗感も少なく、売却しないまでも、有力町人に蔵書の一部を下賜する代わりに、金子を冥加金のように納めさせたことなどはよくあったことなのかもしれない。

江戸時代の幕藩体制下、各大名家は開祖以来の家の格式、由来を面子として保つため、見栄と因習に終始していた。藩主自身の役目は、自らを通して先代と次代をつなぐパイプ役であり、何事もなく先祖以来の格式を次代に渡し、仕える武士団の衣食を保障する必要があった。そのために、自己を抑制し、時には親元を離れ、養子として他家にも出された。極端に言えば、彼らの喜びは、幕府から与えられる官位、そして昇任であり、先祖の手柄話、当時の幕府内での身分は必要不可欠な事項であった。例えば、徳川家とは同等意識の強い織田家、室町幕府の名家の一つであったことから高家となった吉良家など、その家名を誇るがゆえに、事件を引き起こしていた。また官位をめぐっては薩摩中将に伊達少将が官位を競い、一家門の内では例えば仙台伊達家と宇和島伊達家が本家と分家か、或は別家かを争ったこと、城主格という体面を求めて大聖寺前田家が石高を七万石から十万石に高直しをし、本家依存の体質に拍車をかけたこと、真田家が実質石高を超えた石高を称したことなどに、当時の大名家の当主が外見を気にしていたというあり方が端的に示される。もちろん、各藩各大名家それぞれの事情がある一方、政策・経営とは別に学問や芸術などに深い造稽を示した藩主・家族も多数存在したことも確かである。



大名家の面子、幕藩体制下での家門存続を図るためには、將軍家以下と様々なつき合いを維持するため多額の金子が必要であった。武力を背景とした支配体制下では農民への苛斂誅求はやがて限界に到り、藩の財政破綻への回避は、商人の献金や借金、そして、結局、悪循環の行きつくところはすべて農民への高税としてふりかかり、藩政が基盤とする農民層の分化と崩壊へとつながった。<sup>(注七)</sup>

武家による社会支配体制は、収奪による経済が根本的な構造であったから、農民層の疲弊は武士の困窮ともなり、その社会構造の矛盾を回避するために、武士団に教育を施して藩政の改革につなげようとする。各藩に学問所、そして藩校が生まれる時期が特定の時代に集中していたのは、社会経済的危機が背景にあったからである。

## (2) 上山藩校の歴史とその特色

上山藩の藩校については、明治十六年（一八八三）八月に最後の藩主であった松平信安が文部省に上達した「旧上ノ山藩学制・学校」<sup>(注八)</sup>が根本資料である。天輔館に始まる藩校文書としては、松平信通が備中庭瀬藩から上山藩へ入部して以来の記事が、上山藩校に係るわけである。他方、元和八年（一六二二）から寛永三年（一六二六）までの松平重忠、蒲生昌勝の寛永四年、寛永五年（一六二八）から元禄五年（一六九二）までの土岐頼行・頼殷<sup>たか</sup>の治下、元禄五年から同十年の金森頼峯の治下での上山の学問や書籍状況については、藤井松平氏以前の領主が他封地へ転封したことから、当時の

（注七）『上山市史』上巻 p895 - p901、p1111 - p1150。『山形県史』近世編下第三卷第二章「宝暦・天明期の農村」第四節「一揆の諸要素」（p171 - p175）「一延享の上山一揆」

（注八）『日本教育史資料』（巻）（文部省総務局、明治23年）「旧上ノ山藩」p840 - p844

関連する藩政文書も新封地へと移されたであろうから当地には残らず、詳しいことがわからない。ただし、土岐氏が上山で領主であった頃、尾張藩の徳川義直が藩の維持のために書籍を蒐めて、儒学に励むような時代にあり、やがて館林宰相の徳川綱吉が兄家綱の後を承けて將軍となり、自らの立場の正統性を確認すべく、儒学の必要性から学問の研鑽に努めた結果、多くの諸侯が書籍に関心を懷くような時代を迎えようとしていた時期に当たるとする。当時の上山藩主土岐頼行は配流されて来た沢庵和尚を預かることにもなったので、就封在国の折には、沢庵和尚との交流を深め、おそらく文化・学問的方面にも関心を寄せていたであろう。次の土岐頼殷も、祖定政以来の三代の書籍を受け継ぎ、学問を修めていたと思われる。將軍徳川綱吉に仕える以上、儒学の心得は必須であったこともそのように類推されるのである。上山藩の学術・文化を考える時、藤井松平氏以前の領主の活動も加えるべきではあるが、それは幕藩体制下の家門第一の武士社会にあつては、むしろ転封先での連続として捉える方が妥当であろう。そのため、上山藩の蔵書文化を考える際、藤井松平家以後の治政のもとでの教育に焦点を当て、「旧上ノ山藩学制・学校」から、藩校史を概観してみよう。<sup>(注九)</sup>

上山に藩校天輔館<sup>(注一〇)</sup>を設けたのは、第七代藩主松平信行<sup>(注一〇)</sup>で、文化六年(一八〇九)のことである。信行は藩内には寺子屋か手習師しかおらず、文学が振るわないことを嘆き、家臣の増戸武兵衛に武田孫兵衛を招かせて学校を創建した。武田孫兵衛は出羽国置賜郡高畑村の郷士で、鳥海先生と号し、儒学の経書には古注を採用し、伊藤仁斎や荻生徂徠らの学説も取り入れた解釈を行なっていた。天輔館の学風も、当然その風潮

(注九)『日本教育史資料』(巻)の他、『山形県教育史』(山形県教育研究所、昭和27年)第一編第七節「上山藩学へ明新館」p32-p36、『山市史』上巻第七編第六章「宗教と文化」(二)「藩校(明新館)と民衆の教育」p112以下、『山形県史』第三卷第十章「近世後期の学問と生活文化」「3 明新館・明倫堂・養正館」p982-p984、『特別展 藩校 武士の学校・江戸の学問』(山形県立博物館、平成10年)「上山藩・明新館」

(注一〇)『山市史』上巻第七編第六章(二)(3)「上山藩校(天輔館)」参照。

を受けた。<sup>(注一)</sup>その後、紀平洲（細井平洲）門下の米沢藩士服部世経（豊山）を招聘し、

古注の教育を続けた。天保年間に入ると、米沢藩士の穴沢九斎並びに神保蘭室を招聘し、儒学教育の主流を朱子学に改めて官学に倣うとともに、林大学頭によって校名を明新館と改称するに到った。学務全般は、増戸武兵衛の門弟である五十嵐于拙が文化より天保・弘化まで担当し、学制改良に務めたと言う。その後は、金子与三郎が学制改革を更に進め、安政頃には米沢藩士山田政苗を招聘した。

明新館では、四書五経、左伝、史記・漢書などを教科書として用い、生徒を教員の数にグループ分けして教授していた。<sup>(注二)</sup>四書五経を読み終えたと、『文選』を学習する

者もいたが、武田鳥海先生時代の遺風であった。明新館では専ら漢学を教え、明治維新後に国学を取り入れて歌道を教えられた者も数名程度いた。明新館の学風や教授内容は、当時の藩校多くに見られるもので、格別特別なことではないし、また、学制に記された通りに授業が行なわれたかは確かではない。この他、習礼や弓馬砲術などの武芸の稽古所を校内に設けてはいたが、師範世話人の手配したものの、学校としては関与してはいなかった。藩校規定では、教職員は、助教一名、都講二名、助読四・五名、主事四・五名、定番一名、小使一名で、八・九歳で入学し、十七歳で退学する規定の生徒は、寄宿生十八名、或は三十二名、通学生八十二名、或は九十七名で総勢百名から百二十九名であったと言われるが、恐らく年度別のばらつきがあったであろう。

生徒は、士卒の待遇で三分し、士分、徒士以下、士分徒士以上は必須、足軽以下は入学する者もいたが義務としてはいなかった。平民も藩学校になると入学が可能と

（注一）上山藩の学統については、

笠井助治氏『近世藩校に於ける学統学派の研究』上（吉川弘文館、昭和44年）p183 - p185に詳しい。

（注二）（注九）参照。

なったが、身分制が克服されていない当時、實際在学したかはわからない。

明新館蔵書は、<sup>(注一三)</sup>経書・史類・和書・歌集・兵書、子類集部、字書、韻書、雜書など三百余部あったが、廃藩の時、すべて文部省へ提出すべく書目を添えて山形県へ提出したと言う。明治政府が山形県の書籍をどの程度把握していたのかを知る上で、各府県に編集させた府県史料(国立公文書館蔵)の『山形県史料』が唯一に近い手懸を残している。明治三年から七年にかけて山形県の部分的蔵書であるとはことわりがきをしているが、山形県管下十一郡の明治十七年七月に現存するものとして、『府県史料(山形県史料)』<sup>(注一四)</sup>(一)政治部九「図書目録・碑文及銘」に、

山形県庁所蔵本

山形県師範学校所蔵本

米沢私立中学校所蔵本

上杉茂憲所蔵本

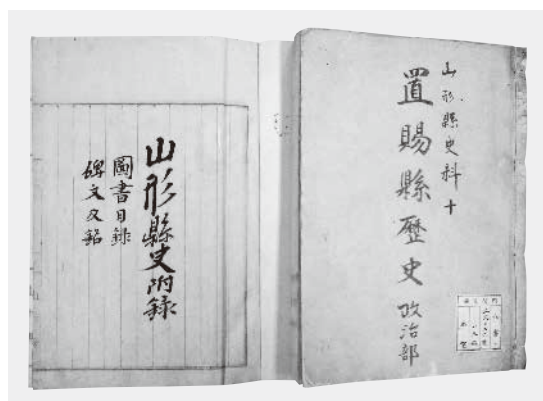
半沢久次郎所蔵本

半沢久三郎所蔵本

朝陽学校所蔵本

酒井家所蔵本

などを列挙している。不思議なことに、ほとんどが和書で漢籍は皆無に近い。米沢学校や上杉家、酒井家など旧大藩に係る蔵書はその伝来経路が推測されるが、山形県庁本は数が少ないので置いておくことにし、その他の山形師範学校本や半沢家本には注



(注一四)『山形県史料』十(国立公文書館蔵)表紙他

(注一三)『日本教育史資料』(巻一)「上ノ山藩・蔵書」、『上山市史』上巻第七編第六章(二)(9)「明新館の蔵書」参照。

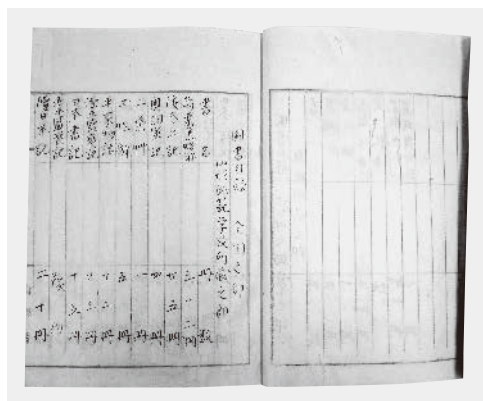
意を払うべきものがある。

山形（尋常）師範学校は、明治に入って山形県の設立から、明治政府の教育令・師範学校令、そして師範教育令で拡充された教育機関ゆえ、その蔵書は新規に蒐められたはずである。しかし、新たに図書館を設けると言っても、他県同様に、県内にあった各藩の旧蔵書から調達しなければならなかったであろう。国立の中央図書館を企画した時に、全国の藩校蔵書に目をつけたほどであるから、旧藩の各藩校蔵書を中心にしなければ容易にはなされなかったのではないか。つまり、明治政府が各藩校旧蔵本の一部を東京書籍館に収納し、かなりの部分は再び各県に戻して、それを新設の師範学校の蔵書としたのであろう。例えば、「富山学校」印のある富山藩旧蔵本が、一部を東京書籍館に差し出し、残りは再び新潟県へ戻され、富山師範学校の蔵書を経て、今日の富山大学蔵書となったことと、軌を一にするのではないか。山形県の場合、山形大学蔵書がそれに該当するのであろうが、上山藩旧蔵本がそれに含まれた可能性もあり、これについては改めて調査すべきことであらう。

一方、半沢二家の蔵書は、個人蔵書としても注目すべきである。東北大学でも「半沢蔵書」印のある明刊本などの善本をよく見かけるが、その半沢家と山形の半沢家とは関連するのだろうか。これは、本解説で論ずる事項ではないので、改めて別に検討すべき課題としたい。なお、上杉茂憲蔵書が区分されていることは、大藩の場合、蔵書は藩主個人財産と藩校蔵書という公的資源とが、その当時、既に区別（注一五）されていることを意識したものであろう。



（注一五）『置賜県所蔵書取調書』興譲館所蔵目録』（国立公文書館蔵）表紙



同右「図書目録」



現存する明新館本には、上申書にある書物の分類に適合するものが多いが、三百余部という種類の書籍は残っていない。「天輔館」印のある明刊本が今日の市場に流通していることなどから推測すると、文部省、もしくは、山形県庁から再び上山へ書籍が返還された過程で失われたものも多かったに違いない。他藩同様、蔵書目録を文部省まで提出していたが、今日、各旧藩提出書目はほとんど失なわれてしまったが、上山藩の目録も喪失してしまったのは、学風を採る上でも惜しい。

『府県史料（山形県）』（国立公文書館蔵）（一）政治部「政治之部 学校」の第十一章には、上山に医学所救世館があったものを廃校とし、その所蔵に係る医書及び外科施術機具を上山学校明新館に移転させようとしたところ、松村元昇ら医員六名の願いによって、それらを貸与したと記されている。おそらく、医学所は藩立の教育兼医療機関であったと想像されるから、藩校とは別の形でも和漢医書が上山にあったに違いない。今日、明新館文庫に本草・医学書がほとんどなく、かろうじて残る『本草綱目』などには文庫印がないのは、本草・医学書が明新館の書庫とは異なる場所に伝えられ使われていたことを物語るものであろう。

### (3) 明新館文庫の書籍構成と蒐書の特徴

上山藩における藩校蔵書については、蔵書印を手懸りとして、文化六年（一八〇九）に始まる天輔館時代（信行治世）、天保十一年（一八四〇）に改名した明新館時代（信

加賀前田家、仙台伊達家、広島浅野家など大藩では、廃藩後に個人財産として藩校所蔵本とは区別して、藩祖以来相伝の書籍を管理していたことが窺われる。

室」に多少なりとも区別が可能である。しかし、天輔館時代にその印を捺したとしても、明新館に改編した後にすべての書籍各冊に「明新館」関係の印を捺したとは限らないので、書籍蒐書の単純な区分は蔵書印では見分けられない。しかも、「明新館」「明新館文庫」印は、明治初には捺されていたことは国会図書館所蔵本（後述）で判明するが、藩校存続当時のものかは不明である。従って、いずれの時代の蔵書目録も残らないため、書籍蒐書の実情は今日残された書籍から窺うしかない。上山市立図書館では、かつて『蔵書目録（付）増戸文庫関係目録（稿）・明新館他関係目録蔵書目録』（上山市立図書館、一九七二）を印刷して出している。この目録は、昭和の編集ながら、廃藩後の上山藩関係旧蔵本の姿を伝えていて貴重である。ただ、明新館文庫本に増戸文庫由来本や明治以後の上山学校などの書籍も混在するようで、この目録では、藩校本の区別はむずかしい。その後、当方が実地調査して八割ぐらいの下原稿を作ったが、中断が長くあったので、図書館の方（吉野前館長の筆蹟らしい）が、「岡村利三郎氏寄贈」「増戸文庫」「明新館他関係目録」などを原本対比でリスト化されている。これら一連の整理リストは、それぞれ単独で価値があるので、今回、当方の目録作成は、筆者の旧原稿をもとに明新館文庫を中心としたものに限ることとし、個人所蔵本については除外することとした。<sup>（注一六）</sup>

本来、漢籍は中国伝統字問体系から、経・史・子・集の四部に分類される。しかし、敬意と実学という意識から、儒教の書籍が経部の經典と子部の儒家に分かれるように、実用に即した配架分類ではない。さりとて、江戸時代、『四庫全書総目提要』が輸入

（注一六）上山市立図書館では、和漢書を書庫・倉庫二カ所に分置き、増戸文庫や岡村蔵書などは一かたまりになっているが、明新館文庫本と混在した状態になっている。当初の調査と目録原稿はそれらすべてを対象として作成したが、今回の出版に際し、藩校由来本に限定したので、目録からおおよそ三分の一を削除することになった。増戸文庫本は藩校とも関係があったと推測されることから、仮目録を附載すべきだったと反省している。各書籍を整理配置したのち、目録化するという作業を怠ったので、本目録では遺漏などの危険性を含む。



されて和刻され、四部分類が正統な中国典籍分類の手本とされつつあった状況を顧みれば、やはり四部分類が最善の漢籍分類であることから、上山藩旧蔵書の分類もやはり四部分類に従って蒐書の背景や性格を考える必要がある。そこで、経部の順から、蔵書の性格を見てみよう。

五経は、明代後期以降、朱子学であれ陽明学であれ、儒学書の基本は十三経注疏本に置かれることが多い。日本の藩校では、明代の李元陽本、或は、汲古閣原版本が多く備えられた。上山藩では、蒐書の時期が晚いためか、汲古閣の翻刻本（清刊）を所蔵した。四書では、『四書大全』以下、ごく普通の和刻本で、実用の入手しやすい版本であり、十三経注疏に加えて、天輔館時代に古注を尊重していたことは、旧注である何晏集解の『泉南南宗論語』翻刻本（天文板論語の覆刻本）があることと密接な関係を示すと考えられる。明新館文庫印がないが、藩学には大切であった版本と言える。経学全般の学問修得のために、清代、儒学関係書籍を集成した『皇清経解』という叢書があり、明新館もこれを揃えていた。小学、つまり字書では、江戸時代に和刻本ともなつて流布した『康熙字典』を必須として備えた。

史部では、正史は『史記評林』・『漢書評林』や『後漢書』以下備えたが、その版本は和刻本と清刊本（翻汲古閣本）による。『北史』以後の正史類はほとんど伝存しないが、『新唐書』や『五代史記』があるから、中国の歴史を知る基本文献である二十一史は、おそらく明新館が活動していた頃には、評林本を含む各王朝の断代史は存在していたと想像される。この点は、諸藩が競うように藩版として正史の翻刻本を

刊行していたから、上山藩も藩の交流から入手したかもしれない、当時、入手しやすい和刻本の『資治通鑑』や『宋元通鑑』といった通史が架蔵されていたことから類推できる。一方、江戸末の外国との交渉が眼前に拡がる中で、『地理全志』や『福恵全書』、『万国公法』などの外国との交渉に係わる書籍は、ヨーロッパ列強が日本近海に出現し始めたことで、とりわけ江戸城での番役、文久三年の浜御苑・品川宿警衛に直面して、上山藩では、以上の外国関連の書籍すべてが元来の藩校本ではないにしても、藩学教育上必須のものであった。政策関係では、『救荒活民書』があるが、上杉鷹山のいた米沢藩から儒者を招いたことと関係があるかも知れず、飢饉の多い東北地方では藩政に預る士分は知らざるを得ないものであった。

子部に属す書籍は、儒学を除けば、諸子百家の書籍で、工商人の書物ジャンルのような位置づけであるが、武士にとって『武経七書直解』は必須の書として、日本の戦国末以来各大名家が蒐書したものである。しかし、和書を含めて武芸書関係が少ないのは、蔵書の散佚があったことを窺わせる。『本草綱目』は本草学の基本図書で和刻本が流布した。明新館由来かいささか疑問のある『太平御覧』ではあるが、百家全書的に藩校で利用されていた可能性は十分にあり、中国古典の幅広い知識の獲得も可能であった。『円機活法詩学全書』等からは、漢詩作文の知識の獲得ができるなど、最低限の典故検出型の書物が残る。しかし、藩校に備えるべき儒書がほとんどなく、医学芸術方面など同じ小大名の他藩では備用されていたものが全く見られないのは、やはり散佚による結果かもしれない。

(注一七)『上山市史』上巻「藤井松平氏番役表」p886-p888参照。

(注一八)第十代信亨の時に家伝の漢籍などを売却したと伝えられるから、松平家が入部した時以来の旧本はかなりなくなっただけと思われる。今日残る明刊本は、その時の残部というよりは、藩校設立時に再蒐集したものではないか。

文学類を収める集部では、漢魏六朝から宋代までの詩文集が総集、もしくは別集の差はあるものの、『六臣註文選』や『漢魏六朝一百三名家集』によって一応の体裁は整えられている。相対的に、元明清時代の詩文集が乏しい点に特徴がある、とも言える。漢籍に対し、準漢籍を含めた和書についてはどのような状況であろうか。

準漢籍の主要なものは、經学書の字書と諸子注釈書であり、『増補元明史略』や『清三朝易知録』といった正史を補う元明清の通史がある。また、正統『唐宋八家読本』という漢文習得のための文集の基礎的書籍がある。儒学関係では、市井の個人が使用した和書の『經典余師』や『孟子俚諺鈔』など日語解釈本があるにはあるが、藩校蔵書ではなく、市井の人が使用した後代の献本らしく、藩校教育では使われなかったらしい。

和書の中心は国史関係にあり、『大日本史』百冊はその中核をなす。編纂した水戸徳川家は、將軍をはじめ親藩・縁籍大名家には献上、配布したとは思われるが、一方で、希望する大名家は書籍販売書肆から購入したとも思われる。『参河後風土記』は、藤井松平家の出身にちなむものであろう。和書には、上述のような廃藩廃校後の図書も混在し、明治政府の教育制度確立に伴う納入であったことが知られる。和歌関係の刊本もあるが部分的で、物語本には貸本屋本も見られることから、これらの中には上山温泉に湯治に來る來客の存在と関係したことも考えられ、本来は藩校明新館とは別ルートで合流し、そのまま保存されたのであろう。この点は、上山の温泉と貸本文化との関係で考察すると、また別の出版文化との関係が明らかになろう。藩校用の書籍は、大坂加番の折、文化三年以降に逐次購入し、江戸経由で上山へ持たしたもので

(注一九) 貸本屋旧蔵本は、『薄衣卿紙』(四冊、上ノ山十日町高野屋、岡部利蔵、禁詞など、明治十九年に書物にカバーを施すことなどとともに墨記される)、『山折太夫栄枯物語』(存四冊、岡村氏、上山町十日町甘海堂、高野屋などの墨記あり)。が収蔵されている。明治前期、上山十日町に高野屋という貸本屋があったと思われる、岡村利蔵が貸本屋本を購入したか、家族としてその本を引き継いだとも思われる。岡村氏に学識があったことはその旧蔵書から知られる。岡村氏旧蔵本は、ひとまとめにして整理する必要がある。

あろう。もちろん、江戸での購入もあったと思われる。藩主松平家の個別本、藩校関係の個人蔵書や市井からの献本<sup>(注一〇)</sup>も、時期は不明なものの藩学備用の書籍として漢籍を含めて保有されたのかもしれない。

現存する明新館の旧蔵書の構成を見る限り、決してバランス良く蒐書されているわけではない。その原因は、廃校の後、郡立図書館や尋常小学校に移管する過程で、東京書籍館に差し出したなどの理由で失われたことにあつたと思われるが、その一方で、財政難もあつて、もともと書籍ジャンルが均衡の取れた形で蒐書されたわけではなかったかもしれない。松平家由来の典籍が、藩の財政補助のために売却されたと言われることも、実際売却された後に補充が行き届かなかったこともあつたとも考えられる。一般に江戸初期に立藩した当時、藩領内のものは將軍家から知行を許される領地を含めて藩主家の所屬に帰すもので、書籍も例外ではなかったであろう。上山も同様で、最初の能見松平家、その後の土岐家、金森家が治政していた頃の藩の蔵書は藩主家の書籍であつたと思われる、藩校設立後に共用された書籍とは異なり、あくまでも藩主家の財物であつたから、藩主家の転封によつて新封地の書籍になつた。江戸初期から同一大名家の支配下にあつた他域と比べれば、庭瀬以来の蔵書を多く欠いた可能性が高い上山藩松平家では、必然的に遜色があつたのもやむを得ないことであつたのである。

(注一〇)「神山増戸氏」の蔵書印がある和刻本もあり、増戸氏が個人用で大坂で購入したのであろう。『上山市史』上巻 p1195

#### (4) 明新館文庫の明清刊本と流転

上山藩は最上家が改易された後、能見松平重忠が四万石で入封して以来、蒲生家、土岐家、金森家と領主を換えて松平信通の就封に到った。石高が小さい大名であったから、譜代大名ではあったものの、藩財政の維持には経済的に困難を来たしていたであろう。これは、藩の石高の多寡に係わらず、封建領主の宿命でもあった。また、藤井松平氏がもと徳川家の家臣団を構成していて、文よりも武で仕える身であったことなどの理由から、先祖伝来の典籍は元来そう多くなかったかもしれない。<sup>(注二)</sup> 藩校も後発組に属し、その規模は石高相応と考えられる。<sup>(注三)</sup>

明新館の蔵書構成については、前章でその概観を窺ったが、ここでは、その中でも稀覯に属する版本のいくつかを紹介し、上山藩校の蔵書の性格に触れてみよう。

明新館本として伝存する中で、『宋文鑑』（『宋朝文鑑』）は、「皇明正徳十三年慎獨齋鼎新刊行」という刊記を「宋朝文鑑總目」末に記入している。このことから、明新館旧蔵本の中では、本書は最も古い版本と言える。明の正徳十三年は、日本では永正十五年（一五一八）に当たる。本書の後跋は弘治甲子歳（十七年、一五〇四、永正元年）とあるが、その末に墨筆で「丙寅三月長堅句完時在紀藩」の記述がある。紀州藩にいた時、長堅なる人物が読んだというメモ書きであるが、これを記したのは、おそらく上山松平家中の人ではないであろう。版本は、明代中期、福建省建陽の書肆である劉氏慎独齋が出版した宋代の文集の一種で、建陽坊刻版のはしりである。書林劉氏

（注二）徳川將軍家の三河以来の家臣は、將軍家の成立とともに譜代大名化して藩主となった家が多いが、石高はそれほど高いわけではない。酒井家や井伊家などの本宗家は石高が外様大藩と肩を並べる家もいくつかあるが、伝来の典籍、とりわけ漢籍などの所蔵品に特徴があまりみられないという傾向がある。その反面、大垣藩十萬石の戸田家のように尾張徳川家のような稀覯本を多く擁していた譜代大名もある。戸田家は上山藩とも係わりのある家であった。

（注三）笠井助治氏『近世藩校の総合的研究』（吉川弘文館、昭和35年）「近世藩校一覧表」p274-p291、明新館はp282に記述される。



は、慎独齋を書齋兼屋号とした劉洪から出版業に携わり、以後、明末まで建陽の出版界、つまり東アジアの出版業や文化形成に多大な貢献を果たした名家であった。劉洪の出版物は、『群書考索』<sup>(注三)</sup>に見られるように、官庁から依託を受けたものも多く、官版の代行業によつて資本を蓄積したらしい。そのため、伝存の書籍には、『資治通鑑綱目』(弘治戊午十一年刊)や、内府刊本の翻刻版『大明一統志』などの官庁と密接な関係にある大部の書、また、『璧水群英待問会元選要』といった科挙受験に係わる書籍もあり、官庁特約の出版物を扱う書肆出版社であったと推察される。上山藩では、朱子学に係る宋学全体理解のために、藩学蔵書としたものであろう。

『合刻三蘇先生文集』も明刊本で、やはり宋代の文人を代表する蘇洵・蘇軾・蘇轍父子三人の文章を集成した内容の書籍である。巻頭に「長崎海関管□檢□」印、「瑩□□子」円印が捺されることから、日清貿易の産物を個人が所蔵していたのであろう。版心下には刻工を示す「緝柳□□」の文字がある。一方、明末清初刊本とも思える版本には、漢魏六朝の個人文集を収めた『漢魏六朝一百三名家集』がある。版本としては最も古いものは崇禎年間の刊行本であるが、上山の版本はそれを重刻した版本と思われる、各封面に相違が見られる。本書は、漢から六朝までの代表的文人の作品集であり、張溥の編纂に係る。この総集で、唐以前の著名な文人の作品はおおかた読めたはずである。『幼学須知便読故事』(『四知堂幼学須知直解』)は、「天文」から始まる基礎知識集で、日用類書の形式を借りた幼年教育用の教科書である。書林劉子文刊本と巻首題署に記すが、封面は金閭楊瑞卿校とすることから、おそらく建陽刻本を蘇州(金

(注三) 東北大学蔵本には、「皇明正徳三年慎独書齋刊行」の刊記がある。巻一卷首には刊行者を「建陽知縣區玉刊行」とするが、もとより知縣が直接出したものではなく、「書戸劉洪」への依託である。『中国版刻図録』(朋友書店、一九八三年)及び井上進氏『中国出版文化史』(名古屋大学出版会、平成14年)第十二章には『文献通考』を例示している。

閻)の楊氏が重印(重刻)したものであろう。初刻は明末、重印は清初ではないだろうか。この時期、建陽刊本が蘇州方面で再印されていることは、三国志伝などの伝存版本からも知ることが出来る。明末の建陽の書林の衰退と蘇州方面での印刷出版活動との関連を解く資料にもなり得る。

以上の明・清初刊本に対し、安政二年(一八五五)から文久元年(一八六一)にかけて木活字で印出した『宋槧太平御覧』一千巻は、金沢文庫旧蔵宋刊本に倣った翻刻本で、日本出版史の上で注目すべき近世活字本である。江戸末期の混乱の中で、『太平御覧』のような大部の書籍を、木活字で著名な宋版に倣って組版したところに特徴がある。刻書(字)には邨嘉平、つまり名刻工の木村嘉平が加わっている。<sup>(注三四)</sup>この書は宋版明版等ではないが、翻宋版たる和刻本でありながら、印出数も比較的に少ない当時としても高価な書籍であっただろう。明新館文庫印などがなく、代わりに「清風館」などの蔵書印があり、藩校蔵書かは不明なところもある。「清風館」の印章と「明新館文庫」の印章を併鈐した例(『日本外史』)もあるので、「清風館」蔵書は藩校蔵書の一つになったのであろう。元来、個人の蔵書とすれば藩主松平氏かそれに近い人侍医、或は寺院、豪商の購入本であらうが、個人が持つよりも藩校にふさわしいということで、明新館に移されたのであろう。いずれにせよ明新館の書籍を代表する一種と見なすことが出来る。以上の稀覯本については、他の書籍とともに書影の他、書誌事項を解説附録として別にまとめているので、そちらを参照していただきたい。

現存の明新館本は、以上の明清刊本や和刻本に稀覯性を窺えるが、他藩を超越した

(注三四) 本書は、中国の幾つかの機関に所蔵されている。邨嘉平については、木村嘉次氏の『字彫り版木師木村嘉平とその刻本』(青裳堂書店、昭和55年)に詳しい。嘉平は第三代目に当たる人であらう。



善本とはいいがたい。第三代信将も上田藩松平伊賀守家からの養子である他、第七代藩主として美作津山藩主の松平康哉四男の松平信行が上山藩を継いだとは言っても、美作藩も当時は財政難であつたであろう。養子縁組に際し、なにかと費用もかかり、大大名の姫が入室する際に調度品として書籍を持参するようにはいかなかったであろう。上山藩自体が小規模であるがゆえに、藩主交代の折に、甲冑を造り、幕府に就任のお礼の手土産も必要となり、松平家が書籍を蒐集する余裕はほとんどなかったであろう。藩校設立時、藩士からの借上で書籍を蒐集したという事情から、城主格大名や国持大名よりは見劣りする図書量であつたことは確かではある。しかし、かと言って必ずしも今日の上山に残るそれだけが藩校蔵書であつたわけではない。

廃藩置県後、諸大名治下の藩校は廃校となつた。その藩校の旧蔵書に目をつけた明治政府は、東京に書籍館を設立するに当たり、各県に藩校旧蔵本のリストを作つて提出するように求めた。上山藩明新館本も例外ではなく、山形県その他藩校本とともに中央に提供され、その内のいくつかが上納された。今日、東京書籍館を経てその時の蔵書を保存する国会図書館には、「明新館文庫」印のある

(熊沢) 大学或問 二本

一得録 拾本

釈典私儀 (写本) 四本

烈祖成績 (写本) 拾六本

服忌令撰註 (写本) 三本

(注二五) 『上山市史』上巻 p1195

(注二六) 朝倉治彦氏「上野図書館所蔵藩校旧蔵本略記」(『文献』第2号、昭和34年)、『国立国会図書館入門』(三一書房、平成10年)Ⅶ「専門資料室と特殊コレクション」参照。

同追補

三冊

名物六帖

二十三本

があり、これらはすべて明新館の文庫由来の書籍であった。ちなみに、米沢藩を除く山形県<sup>(注二七)</sup>の他藩校本としては、

欽定康濟録

六本

酒田

大明会典

六十四本

経誼館

清律集解

四本

(不明)

本朝文粹

十本

明倫堂

といった書籍が国会図書館に残るが、庄内藩本藩はわずか一種、没収を免れた藩もあつたらしい。旧徳川將軍家・昌平坂學問所の蔵書は、太政官文庫と宮内省図書寮に収蔵されて、明治政府及び皇室の財産とした。江戸時代、諸藩大名家にはもとも多く、漢籍、朝鮮本、そして日本旧刊本の善本があつたことから、新政府は欧米の公共図書館を手本として、新国民が使える公共図書館を形成するために、各藩の士分の人々に提供されていた藩校の書物の上納を求め、新国家の事業を安価に、かつ旧藩校時代の目的を継承しつつ拡大しようとした。国会図書館にはかなりの旧藩由来の漢籍・和書等が残るが、諸藩の上納本がすべて稀覯本というわけではなく、必要度に応じて選別したように見える。そしてすべてを中央に集中させるのではなく、地方の学区に設けた小学・中学校などにも一定の伝来本を残したのであつた。上納された書籍は、相対的に言えば、文部省へ旧蔵本を提供した加賀藩主の前田家所蔵本、尾張徳川家所蔵本

(注二七)「東京書籍館における旧藩蔵書の収集」(『図書館研究シリーズ』No.15、昭和48年)

などの大藩の方がやはり藩の経済力を反映していて善本を多く上納している。他方、日本文化の保存機関の役割を担った寺院の所蔵本は、寺社という「公共性」が相対的に薄い性格から、その所有の書籍類はほとんど没収を免れ、今日に到っても現地所で蔵されることが多い。この背景には、藩の解体による統一国家のもとでの国民の育成がある一方、明治政府が地方の教育には、当初は漢学がなお一定の役割を果たす学問と見ていたこと、寺院にある典籍は仏教関係のものと認識し、仏教を毀釈しようという意識から必要性を感じなかったこと、或は、明治政府が皇室とゆかりが深いことを慮って、没収を免れていたのであろう。結果として、廃藩から各県の統合への過程で、漢学がすたれて行くこととあいまって、漢籍は散佚するものも多く、幕府へ献納後の佐伯藩毛利家の蔵書など、地域に残った多くの今日的文化財が散佚し、一部は中国大陸、台湾、そしてアメリカなどへもたらされた。

明新館本は上山に残るもの、東京に上納されて国会図書館に収蔵されたものの他、民間に流出したものもあった。藩校の蔵書というものは、もとをたざせば藩主家個人の蔵書であったことが多い。上山藩もおそらく例外ではなく、松平信一が常陸土浦藩に就封し、信吉を経て忠国が山城守家を興した時には、家門の格式を示すだけの相伝の典籍は維持していたであろう。備中庭瀬から松平信通が上山へ入封した時、旧封地より携えて来た藩主家の蔵書がほぼ藩全体の書籍であったに違いない。松平信通は藤井松平家の流れをくむ幕府譜代の存在であった。小藩とはいえ、その祖である松平信一以来、歴代当主の蒐集した書籍が大名家の格式として伝来されていたであろ

(注二八) 磯部彰編『東北大学所蔵  
豊後佐伯藩「以呂波分書目」  
の研究』(東北大学東北アジ  
ア研究センター、平成15年)

う。しかも、上山藩第六代信愛の養子となった信行は、越前松平家の一門である美作津山藩の出で、藩校天輔館を設立した藩主であつたから、越前家から津山藩に伝えられた書籍の一部を譲られて就封した可能性もある。信行が藩校天輔館を文化六年（一八〇九）に開設時、上山には第四代藩主の信亨によって相伝の漢籍は売り払われてほとんどなかった可能性が高く、実用のための書籍を多く備える必要から、信愛以降の上山松平家所蔵の書籍に加えて、当時求めやすい和刻本の漢籍や明清刊本類で補い、教育に充てたと思われる。おそらく、『宋文鑑』などの明代の古刊本は、大坂や江戸で購入、もしくは、美作松平家から持参した書籍であつたものが藩校用に転用されたのであろう。譜代大名や親藩でも小さな諸侯は、転封の機会があり、そのつど、藩主家臣とともに蔵書は移動して行つた。従つて、明新館本を正確に表現するならば、松平上山藩蔵書で、しかも第六代信行以降の蒐集が中心であつたと言ふことになる。最近、市場に現われた天輔館旧蔵『初学記』は明の嘉靖刊本で、現存する明新館本の中でも古い版本の一つであつた。想像にすぎないが、廃藩で廃校となつた明新館の書籍が山形県に収積された時、民間に流出したか、或は、廃校時の形見分けとして藩士に与えられたものか、旧藩主家の個人財産として松平家に戻されたものが処分されたか、いずれの確証も持たないが、明治以降に上山を離れたのであろう。このような明新館本は、おそらくいくつかはあつたに違いない。上山藩の飛地である越後七日市には陣屋の他、廃藩の直前に明新館支館が設けられたと言ふから、ここにも基本的な必要最低限の図書はわずかながらも備えられていたかもしれないが、<sup>(注二九)</sup>実情は不明である。

(注二九) 最近、市場に「明新館」(黒印)を捺した『佩文齋詠物詩選』の零本が出現した。他に「駿府学校」朱印、「翰林学士」朱印などがあり、上山藩の明新館とは別に、同名の徳川宗家の学校として駿府に「明新館」があつた(笠井助治氏『近世藩校に於ける出版書の研究』、吉川弘文館、昭和三十七年、225参照)。

今日、三百余諸侯の蔵書や数多くあつた藩校蔵書が、江戸藩邸の蔵書と併せても、さほど多く残されていない。上山藩の場合、支館や江戸藩邸の図書の行方、藩主家の個人蔵書の今日的有無は不明瞭ではあるが、藩校の蔵書としては、比較的良く保存されていると言えるであろう。現在の上市市にとって、明新館文庫として保存される書籍は、他の増戸文庫<sup>(注三〇)</sup>などとともにその版本の稀覯性の如何を問わず、それは長い地域文化の歴史を物語る文化遺産であり、また地域の歴史を示す「古文書」そのものでもある。現存する古籍は、上山の政治・文化・経済活動と相関性を考えて行く時に必要となるのではないか。

(注三〇) 本目録では除いた増戸文庫は、増戸武兵衛と藩学との係わり合いから、個人蔵書が明新館に提供され、明新館に準じた公共財の役割を担っていたかもしれない。

米譜(注三二)

①～⑩は上山藩主世代。



二)『上山市史』、『藩史大事典』(雄山閣、昭和六十三年他)、『国史大辞典』(吉川弘文館、昭和五十四年他)などに拠り作成。

本書は東北大学東北アジア研究センター「出版文化資料データベース研究ユニット」及び  
共同研究「典籍文化遺産の研究」による成果である。

東アジア出版文化資料集 II

上山市立図書館蔵 上山藩明新館文庫目録と研究

(東北アジア研究センター叢書 第54号)

---

2014年11月28日発行 非売品

編著者 磯部 彰

発行者 東北大学東北アジア研究センター  
〒980-8576 仙台市青葉区川内41

印刷 株式会社東北プリント  
〒980-0822 仙台市青葉区立町24-24

---

ISBN 978-4-901449-96-0







